

252-9□



1200701749018

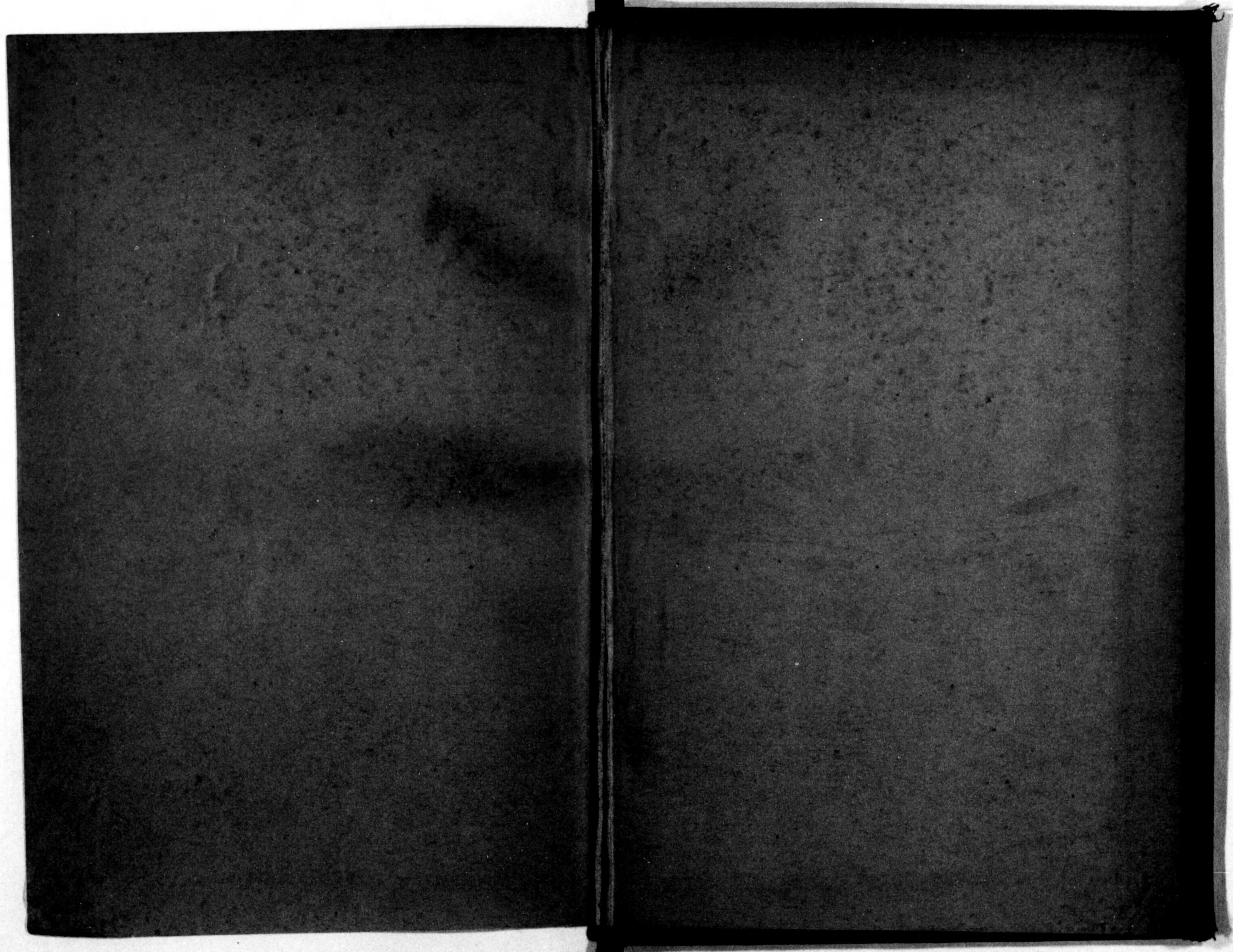
252

9a



始

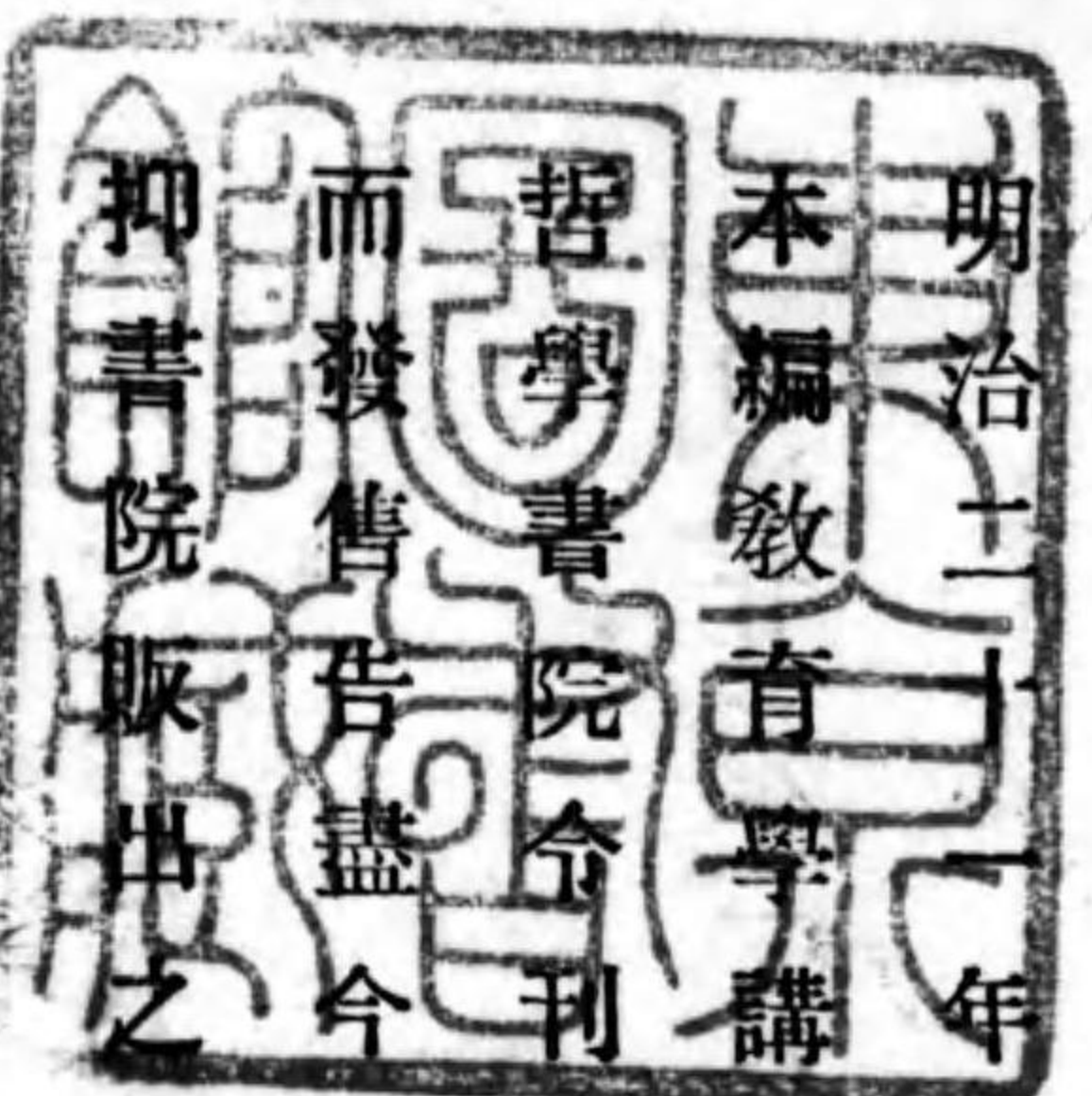




W23328

23

教育學講義再板自序



明治二十一年冬余以官暇據米人尊荷諾

本編教育學講義乞僚友田所大和田二君序付

哲學書院今刊行其書翌年三月始上梓未一歲

而發售告盡今將再板焉是兩君序文之所致耶

抑書院販出之方得其宜耶二者雖不必問而於

余則幸矣顧第一板以私意削去原本中之美育

論而今板則更補載之且智育論中本分則原著

者之所略焉不論而余又以鄙見新說之其他割



教育史論爲二講稍有改正於是第一板七講者爲十講而教育學之要綱始覺完備矣蓋此改補余於某學校講第一板之際隨念隨筆者而非今者方再板急爲之歲月雖不深亦授業中實驗之所得也

明治廿三年一月上旬

國府寺新作識

教育學講義第一板の序

世よの啞鈴の持方も知らぬよ體操法を講ずる者あり試験管取りたることもなきよ化學書を譯する者ありさればこそ家政學者めいたく事を知らずの謬も起れるよて片腹痛きことゞもならずや我友國府寺君ハ哲學よ文學よ一意專心の學士なり初め姫路藩の撰拔生となりて外國語を修め次てゑが大學よ入りのち獨乙よ留學し歐羅巴の國々を遊歴し

て歸朝し爾來高等師範學校の教官に居てその學識經驗を實行することの至れり盡せる彼の畠水練者流と日を同うして語る可からざるの曩に譯述ありたる魯氏教育學を讀みたる者の既に熟知す可し此書のもとめて作られたるは非ずたゞその講義の筆記なれども君が平生後進を導く要目を見るに足らん要目との何ぞ懇篤着實簡繁の三つ是のみ

明治廿一年十二月中旬

大和田建樹しるす

教育學講義第一板序

凡そ完全ニ事ヲ爲サントスルニハ理說經驗ノ知識ヲ併有セサレハ能ハス今ヤ我邦文運隆盛ノ域ニ步ヲ進ムルニ際シ國家經綸ノ策ニ於テ至重ノ關係ヲ有スル教育ノ學ヲ講究セント欲スルモノ陸續興起セリ然ト雖モ日尙ホ淺ク其著書譯書ノ如キモ他ノ學科ニ比シテハ精佳ナルモノ頗ル稀ナリ是レ良師ニ就テ之ヲ討尋シ得サルモノ、痛嘆スル所ナ

リ友人國府寺新作君多年兀々斯學ノ理說ヲ
敲キ又々實際ニ之ヲ經驗セリ此編ノ如キハ
即チ其結果ノ一ニシテ斯學ニ志スモノ、爲
メニ巨大ナル便益ヲ與フルハ余ノ深ク信ス
ル所ナリ

明治廿一年十二月中旬

田所 貢 誌

教育學講義序終

教育學講義再版凡例

- 一 此書ハ米國ノ教育家葛荷諾ノ論旨ニ基クト雖也已
チ得サル所ニハ往々私見ヲ挿入ス
- 一 此書ハ簡約チ主トスルカ故ニ原論中ノ細項暢說ニ
涉ル部分ハ總テ之ヲ概括シテ唯々其要點ヲ指示ス
- 一 原論中ニハ教育ノ特殊成分トシテ智育ヲ詳述セス
此書ハ之ヲ追補ス
- 一 讀者ノ理解并ニ記憶ヲ助成センカ爲メ每講ノ結末
ニ於テ其要領及ヒ順序ヲ圖表ス
- 一 讀者ノ自修ヲ獎勵センカ爲メ卷末ニ三百條ノ問題
ヲ附録ス但シ此問題ハ以テ心理學及ヒ教育學ノ初
歩ヲ指示スルニ過キス

一 此書ノ讀者ニシテ質疑セント欲スルアラハ幸ニ其
勞ヲ憚ル勿レ講義者モ其勞ヲ空シクセサル可シ

明治廿三年一月上旬

講義者 識

教育學講義再版凡例 終

改正教育學講義再版目錄

第一講 教育ノ大意

一 序論

本論

二 教育ノ定義

三 教育ノ區分

四 結論

五 圖表

第二講 知力ノ畧說

一 序論

本論

二 獲識ノ要件

三 知力ノ區別

四 附論

五 圖表

第三講 教授ノ方法

一 序論

本論

二 客觀法

三 主觀法

四 實物課

第講 學科ノ價格

一 序論

本論

二 學科ノ大別

三 學科ノ功能

四 語學ノ講習

五 結案

六 圖表

第五講

教育ノ畧史 (一第)

一 序論

本論

二 古代ノ學校

三 ペスタロッチ

四 附論

五 圖表

第六講

教育ノ畧史 (二第)

一 序論

本論

二 アカシ

- 三 教育ノ方法
- 四 結論
- 五 圖表

第七講

躰育ノ事項

一 序論

本論

二 躰育ノ媒介

三 結論

四 圖表

第八講

智育ノ事項

一 序論

本論

二 知力、齡級

三 智育ノ要點

四 結論

五 圖表

第九講

美育ノ事項

一 序論

本論

二 美妙ノ概說

三 美育ノ媒介

四 結論

五 圖表

第十講

德育ノ事項

一 序論

本論

二 道德ノ概說

三 德育ノ媒介

四 結論

五 圖表

附錄

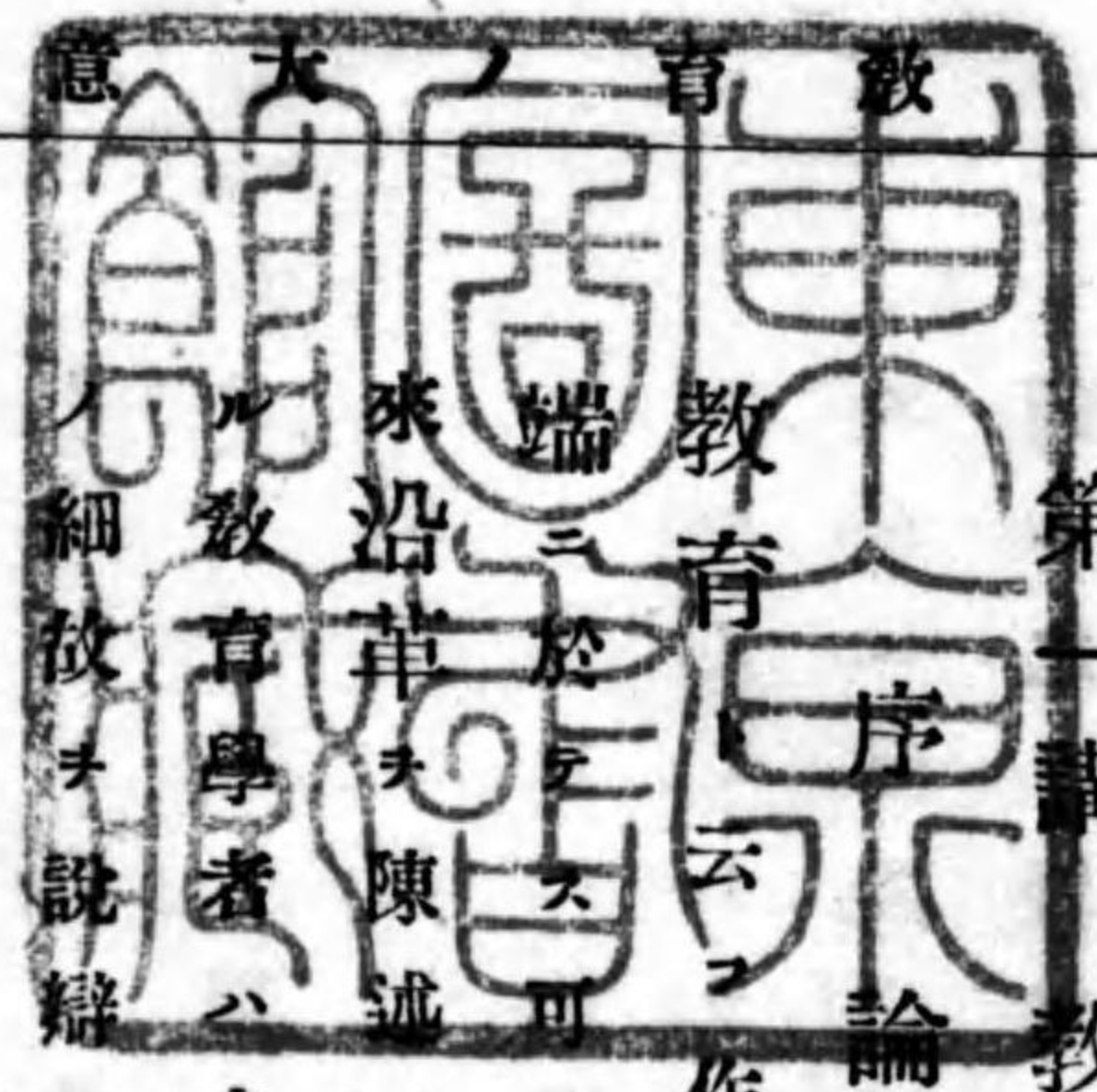
問題三百條

教育學講義再板目錄終

教育學講義

文學士 國府寺新作述

第一講 教育ノ大意



教育ノ大意ヲ論定スルコトハ教育學ノ發
 端ニ於テハシ難クシ先ツ此作業ノ由
 來沿革ヲ陳述シ歸納上其觀念ニ及達スルコトヲ主張ス
 ル教育學者ハ之レ有ラサルコト非スト雖モ初ヨリ其當否
 細故ヲ説辯スルコトハ新ニ此學ニ從事スルモノ、心
 勢ニ應當セサルノ恐アレハ便宜上理由ヲ明舉セスシテ
 直ニ本項ヲ以テ此講義ノ第一歩トシ其可不可ノ判斷ハ
 全ク之ヲ聽衆ノ自得ニ讓任スルカ或ハ適切ナル境遇ニ

至テ之ヲ指示スルコト有ラン蓋シ此問件ハ唯タ教育學
 ニノミ關係スルニ非ス何ノ理學ニテモ皆ナ之ヲ包含ス
 ルモノナレト謂ハユル便宜上之ヲ度外視シ或ハ其全軀
 ノ總念ヲ以テ其攻究ニ着手シ或ハ他ノ方向ヨリ漸進シ
 テ其全軀ノ總念ニ及達スル等各論者ノ一己ノ意匠若ク
 ハ偶然ノ趣旨ニ委託シ深ク焉ヲ稽考スルモノ頗ル稀少
 ナリ然レトモ此問件ノ了察ハ單ニ一般學者ノ思想ニ影響
 スルノミナラス殊ニ教授ノ方法并ニ學科ノ配當ヲ計畫
 スルニ至極必須ナルコトナレハ故ラニ本學第一講ノ冒
 頭ニ之ノ疑議ヲ提出シ因テ將來教育ノ職務ニ目的アル
 者ノ特別注意ヲ誘起セント欲スルナリ(第五講ノ序論ヲ
 參考セヨ)

教育ノ定義

教育トハ各個人ニ存在スル全般ノ能力ヲ發養スル作
 業ニシテ且ツ此發養ニ必須ナル諸方便ヲ包含スル者ナ
 リ而シテ英語ノ「エヂュケーション」獨乙語ノ「エルクツング」等
 ハ皆ナ拉丁語ノ「引キ出ス」ト云フ動詞ニ由來スルモノナ
 レハ固ヨリ教育ナル作業ノ實相ヲ表明スルニ足ラス教
 育ハ單ニ個人ニ整伏スル諸能力ヲ誘起スルニ止マラス
 之ヲ誘起シ之ヲ開展スルニ正當ナル悉皆ノ津梁ヲ具備
 セサル可カラス蓋シ個人ノ心身ハ如何ニテ其生長ヲ遂
 了スルヤヲ思考スルニハ之ヲ草木ニ比較シテ大ニ會得
 ス可キ所アリ草木ハ微々タル小種子ノ泥土中ニ正當ノ
 補滋物質ヲ吸収スルヨリ萌芽ヲ彌張シ逐次ニ枝葉アリ

莖幹アリ妍花ヲ戴帶シ好果ヲ産出スルニ至ルナリ若シ此種子ヨシテ此補滋物質ニ遇着セサルハ斯カル進達ハ決シテ期望ス可カラサルナリ個人ノ諸能力モ亦タ徒ニ潜居蟄伏シテ外界ノ補滋物質ニ遇着セス若クハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ給與スルモノ無キハ恰モ草木ノ種子ノ鐵函中ニ閉置セラル、カ如シ生長進達ヲ酷願スルト雖厄固ヨリ得ヘカラサルナリ之ニ反シ其正當ノ幫助ニ逢遭シ過不及ナキ材料ニ對接スルキハ其生長進達ノ確然ナルコト論ヲ竣タサルナリ然リト雖厄草木ノ生長モ個人ノ進達モ亦タ特殊ノ規律ニ依從スルニ非サレハ必ス完全無瑕ナル能ハサルナリ而シテ此特殊ノ規律トハ即チ機體ノ理法ト其分限ノ定則ヲ云フモノヨシテ之

ヲ例解セハ草木ハ其草木タル所ノ資質アリテ之ニ適宜ナル培耕ヲ得ルキハ枝幹花實皆チ有序統一ニ生長シ互ニ對等調和ノ美觀ヲ表呈ス可シ是レ其完全無瑕ノ進達ナリ若シ徒ニ莖幹又ハ枝葉ノミニ注意シ度外ニ之ヲ補滋スルキハ必ス花實ヲ滅殺ス可シ是レ他ナシ此等ノ諸部カ其生長ノ時期ニ際シ互ニ對等平均ヲ保持スルコトヲ得ス其本然ノ資質ヲ傷損セシカ故ナリ故ニ此等ノ諸部ハ正當ノ權衡ニ依從シ彼ノ此ヲ妨碍スルコトナク共存調和シテ毫末モ相ヒ侵犯セサルコトヲ要須スルモノナリ個人ノ諸能力ヲ發養スルモ亦タ然リ其資質ヲ究盡シ之ニ適宜ナル方法ヲ施行スルニ非サレハ其平等協合ノ進達ヲ成就スル能ハサルナリ而シ此成就ハ即チ教育

ノ目的トスル所ニシテ其良否ヲ判断スルコトハ必ス此目的ノ標準ヲ採用セサル可カラス

教育ノ區分

教育ノ作業ハ前述ノ見解ニ由テ之ヲ三大別シ身軀ノ發養ニ關係スルモノヲ體育トシ知力ノ發養ニ關係スルモノヲ智育トシ行爲ノ修成(即チ意志訓練)ニ關係スルモノヲ德育トス但シ人ハ心身ノ混合物ナレハ此兩成分ノ交渉ノ親密ナルハ固ヨリ論ヲ俟タス教育ハ必ス其各成分及ヒ各成分ノ各局部ニ就キ輕重過不及ナキ進達ノ方法ヲ施行シ其共同和合シテ醇化スルコトヲ企圖セサル可カラス

(甲)體育ノ正鵠ハ第一身軀ノ生長ト第二其強壯トニ在リ此正鵠ニ的中スルト否ヤトハ個人并ニ社會ノ幸不幸ノ由テ分離スル所ナリ智育德育ノ功能モ亦チ身軀ノ健全ヲ待テ充全ニ其結果ヲ表示スルコトヲ得ルモノナレハ體育ノ規律ヲ攻究スルコトハ單ニ身軀ノ發養ニ必須ナルノミナラス大ニ智徳兩育ノ方法ヲ幫助スルモノナリ蓋シ身軀ノ生長ト強壯トハ實際ニハ相ヒ牽連シテ進歩スル事項ナレトモ論理上ニハ生長ノ階梯ハ強壯ノ階梯ニ先ダツ者ナリト思惟スルコトヲ得ヘシ

(一)身軀ノ生長ヲ増加スル媒介物ハ食料ヲ主トシ衣服住所等之ニ次ク蓋シ身軀ノ補裨進達ヲ遂了セント欲スルニハ必ス適當ナル食料ヲ撰擇シ適當ナル分量ニテ適當

ナル時刻ニ之ヲ喫用ス可キナリ又之ヲ喫用セシ以上ハ其善ク消化シテ身軀ノ組織ニ編入セラレノコトヲ要ス衣服住所等總テ身軀ノ保護ニ必須ナル物件モ亦タ其適當ナルモノヲ撰擇シ以テ之カ榮盛ヲ完全スルコトニ注意セサル可カラス

(二) 身軀ノ強壯ヲ得ルニ必須ナル方便ハ勞動ト體操トナリ食料モ幾許カ其強壯ヲ幫助セサルニ非サレ其本分ハ生長ヲ補裨スルニ在リ勞動體操モ亦タ幾許カ生長ヲ幫助セサルニ非サレ其本分ハ強壯ヲ増加スルニ在リ但シ飽食暖衣シテ體肢ノ使用ヲ厭憚シ而シテ健寧無病ヲ希願スルモノハ世ニ之アリト雖是レ固ヨリ得ヘカラサル事項ナリ

(乙) 智育ニ於テモ體育ト均シク其目的トスルモノ二種アリ即チ知力ノ生長ト強壯是ナリ而シテ此目的ニ及達スル方法モ亦タ身軀發養ノ方法ニ類似スルモノナリ

(一) 夫レ身軀ノ生長ヲ完全スル方法ハ主トシテ其組織ニ適當ナル食料ヲ適當ナル時間ト適當ナル分量トヲ固守シテ供用スルニ在リ心神ノ生長ニ欠ク可カラサル食料ハ適當ナル知識是ナリ心神ハ之ヲ其内ニ消化シ及ヒ同化シ以テ其量積ヲ増加スル者ナリ而シテ謂ハユル適當ノ知識トハ即チ人世ノ日常ニ緊要ナル知識ニシテ先ツ此知識ヲ以テ之ヲ發養スルニ非サレハ其一切ノ能性ハ決シテ生長ヲ完全スルヲ得サルナリ蓋シ知識ハ其種類ノ如何ニ拘ラス皆ナ多少心神ノ生長ヲ幫助スル効驗ア

レモ其中各個人ニ最モ緊要ナル者アリ而シテ是レ亦タ其進達ニ最モ剴切ナル者ナリ此知識ハ自己ノ生存即チ身軀ノ健寧ニ關係スルモノ是ナリ之ニ次キ尙ホ欠ク可カラサル一種ノ知識ハ人間權理ノ事項ニ關係スルモノ是ナリ此知識ノ不足ナルヨリ他人ノ爲メニ己ノ本分ヲ掠奪セラレ又タ自ラ他人ヲ侵犯シ彼我ノ協合ヲ廢失シ社會ノ倫理ヲ破壞スル等ノ憂アルナリ但シ此知識ノ教授ハ德育中ノ智育ニ從屬スルモノナリ

(二) 知力ノ強壯ヲ進達スルニモ亦タ身軀ノ強壯ニ於ケルカ如ク心神ノ勞動ヲ以テ其收穫シタル知識ヲ消化シ及ヒ同化セシムルニ在リ而シテ此勞動ノ方法ハ即チ(イ)定律及ヒ主義ヲ覺得スル爲メ順序正シク識材ヲ整列ス

ルコト(ロ)完全ナル論體ニ隨ヒ明瞭ナル言語ヲ以テ識材ヲ表出スルコト(ハ)實際ノ作業ニ此識材ヲ布施應用スルコト是ナリ此三項ニ從テ知力ヲ運轉スルコトニ電勉セサルハ腦中ニ何等ノ識材ヲ注入スト雖モ知力ノ強壯ハ決シテ期望ス可カラズ且ツ其弊害タルヤ身軀ヲ勞動セサルモノ、美食ニ飽饜スルカ如シ教員タルモノハ痛ク此ニ懸慮セサル可カラズ

(丙) 行爲教育ノ目的トスル所ハ一個人ト他人及ヒ全社會トノ關係ヲ完全ニシ人ノ人タルニ正當ナル舉作ヲ遂了セシムルニ在リテ亦タ智育體育ニ於ケルカ如ク生長并ニ強壯ノ兩様ノ事項ヲ包含セサル可カラズ而シテ倫理上ノ舉作ハ甚タ複雑ニシテ心神現象ノ三大部即チ智情

意ト緻密ナル牽連アル者ナレハ此兩件ヲ獎勵スル媒介
 ハ智育躰育ノ津梁ヨリ其錯綜一層甚シキ者ナリ
 (一) 徳性ノ生長ヲ攪催スルニ採用ス可キ材料ハ大凡ソ四
 アリ第一ハ本然ノ情欵ニシテ父母ノ慈愛ニ報答スル感
 激ナリ第二ハ自己ノ經驗ヨリ直接若クハ間接ニ發生ス
 ル同情ナリ第三ハ兩親并ニ教師ノ表示セル實例及ヒ訓
 言ナリ第四ハ人間關係ノ研究及ヒ其定則ノ應用ナリ
 (二) 徳性ヲ強壯ニスル方法ハ主トシテ倫理ノ規律ヲ應用
 シ如何ナル境遇ニテモ之ヲ實踐躬行スルニ在リ蓋シ克
 己壓慾ノ能量及ヒ義務常途ノ意勢ハ只ク習練ニ因テ現
 出スルモノナレハ學校ニ於テ終始之ヲ奮起シ其修練ノ
 機會ヲ廢失セサルコトヲ必要ス

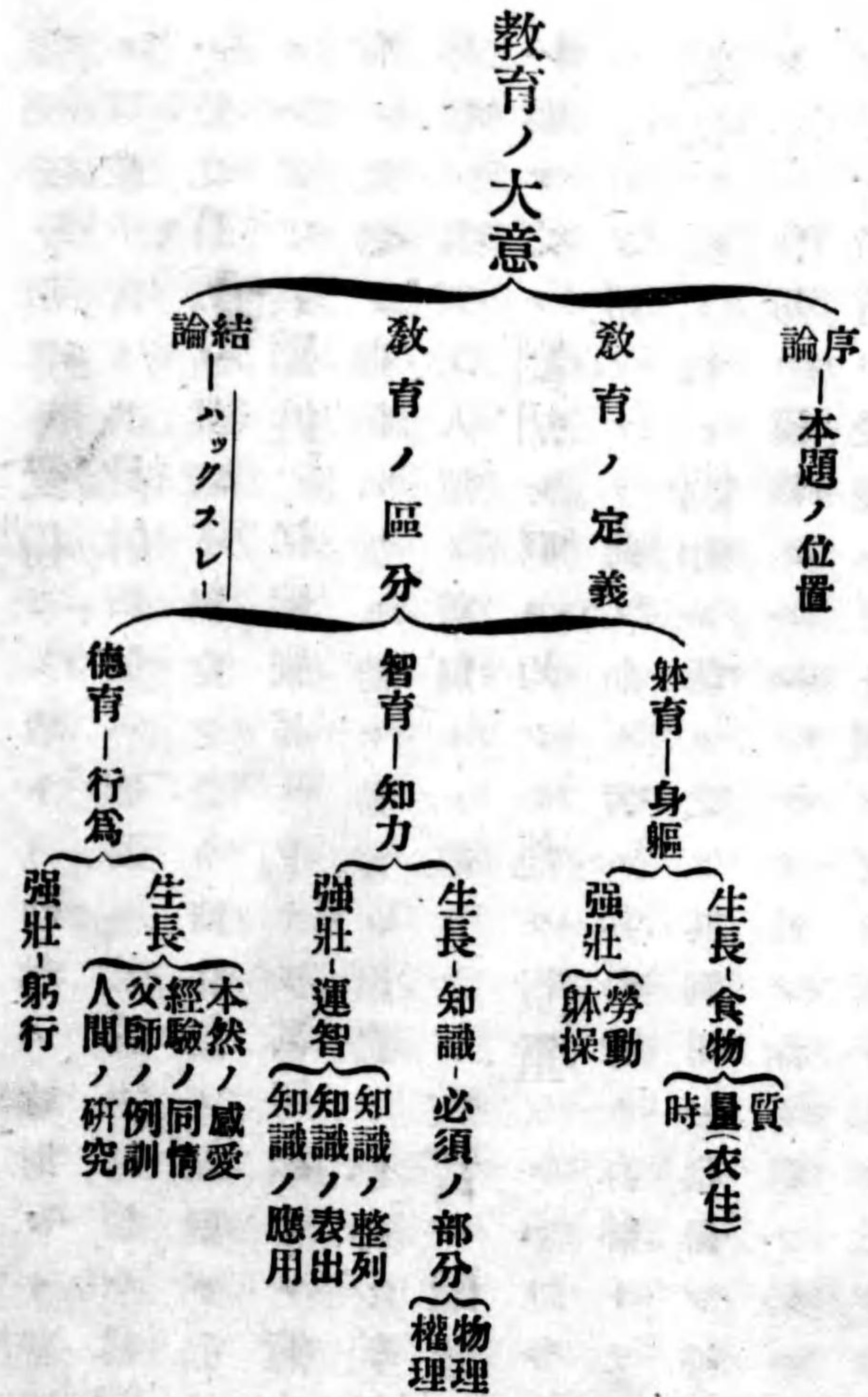
結論

斯ク教育ノ大意ヲ考察スレハ即チ其性質及ヒ範圍ハ略
 ホ明瞭ナル可シ且ツ其旨趣ノ廣濶錯綜ナルコトヲ覺悟
 ス可シ今マ此旨趣ヲ概表スレハ即チ教育ハ人タル者ニ
 存スル諸能力ヲ完全應分ニ發養シ其義務ノ必遂ニ最要
 ナル知識ヲ給與シ其諸能力ヲ善長ナル志向ノ下ニ從屬
 シ其身軀心神ヲ統轄スル定律ヲ遵奉ス可キ慣習ヲ陶造
 スル作業ナリト思惟セラル可シハッソスレハ其普通充分
 ノ教育ト題スル論文中ニ現世ノ學問文化ニ相當スル教
 育ノ状態ヲ撮摘セリ今マ其一斑ヲ揭示シ以テ本論ヲ收
 結セントス
 夫レ強迫教育ノ事項ハ造化自然ノ中ニテハ業ニ己ニ之

ヲ裁可セリ造化自然ハ開闢ノ時代ニ於テ強迫教育ノ議案ヲ決定シ爾來嚴刻ニ之ヲ執行シ更ニ情實ニ斟酌スルコトナク其無知不能ヲ處置スルハ毫モ故意ノ違背及ビ曲事ヲ處置スルニ異ナラス且ツ懲罰ヲ先ニ勸告ヲ後ニシ其罪人ハ自ラ被刑ノ理由ヲ探索發見ス可キナリ然レ俗ニ謂ハユル教育ナルモノ即チ人類ノ干涉スル意匠上ノ教育ハ自然教育ノ不足ヲ補裨シ兒童ヲシテ無知不能及ヒ故意ノ過失ヲ逋免セシカ爲メ造化ノ譴責ノ兆候ヲ發見シ之ニ豫備セシムルコトヲ其目的トスル者ナリ而シテ普通充分ノ教育トハ即チ此意匠上ノ教育ニシテ特ニ人類ヲシテ自然ノ懲罰ヲ避遁セシムルニ止マラス能ク其褒賞ヲ獲取スル方便ヲ授與スルモノナリ蓋シ普

通充分ノ教育ヲ受得セシ者トハ幼稚ノ時期ヨリ善良ナル訓練ヲ被リ其身軀四肢ハ容易ニ志向ニ應答シ其知量ハ造化自然ノ眞理ヲ洞察シ之カ諸作用ノ原則ヲ覺悟スルニ足リ其感性ハ活潑強盛ナレトモ其剛堅ナル意力ハ常ニ道德ノ指揮ニ從ヒ能ク情慾ノ激動ヲ制御シ美妙ノ事物ハ其天工人造ノ差別ナク總テ之ヲ愛賞シ醜惡不善ハ總テ之ヲ黜却シ我ニ均シク他ヲ貴重スルコトヲ修習セシ者ヲ謂フナリ此ノ如キ者ハ其心神ト身軀トヲ舉テ造化自然ト相ヒ調和シ能ク之ヲ其利用ニ供給シ亦タ能ク之カ使用ニ適當スルモノナリ此ノ如キ者ノ外ニ普通充分ノ教育ヲ受得セリト稱ス可キ者ハ未タ之アラサルナリ

右講義ノ圖表



第二講 知力ノ略說

序論

教育ノ作業ハ主トシテ心神ノ活動運用ニ關係スルモノ
 ナレハ之ヲ攻究スルモノハ豫メ其原理ノ要點ヲ考察セ
 サル可カラス之ヲ度外視シテ教育ノ術ヲ得ントスルハ
 恰モ足脚ヲ用ヒスシテ歩行セントスルカ如キナリ然レ
 凡テ教員タル者コノ之ヲ怠慢シ徒ニ諸學科ヲ教授スル方
 法ノ外形ニ注意シ以テ自ラ満足シ生徒ノ心力ヲ修練進
 化スル方法ノ實相ヲ顧慮セサルモノ亦タ甚タ僅少ナラ
 ス是レ特ニ全ク教育ノ目的ヲ廢失スルノミナラス既ニ
 其教授ノ方法ヲ廢失スルモノナリ蓋シ教育ヲ以テ已ノ

任トスルモノハ(一)心神ノ諸能力(二)其作用ノ状態(三)其進
 化ノ順序(四)其發動ヲ攪起スル媒介等ナル諸要項ヲ講究
 シ其原理ヲ收穫シ之ヲ其事業ノ基礎ト爲サ、ル可ラス
 但シ此原理ハ唯タ職トシテ智育ニ關係スルノミナラス
 德育ハ勿論亦々躰育ニモ必須ナル定律ヲ其中ニ含蓄ス
 ルモノナリ故ニ是ヨリ暫ク心理ノ條項ヲ論述ス可シ然
 レモ敢テ盡ク之ヲ網羅セントスルニ非ス聊カ其教員事
 業ヲ會得スルニ割切ナルモノヲ指示スルニ止マレハ即
 チ心神ト識材ノ特別ノ關係及ヒ知性諸作用ノ發動ノ様
 式ヲ辨明シ只タ修學ニ必須ナル能力ヲ排列スルノミ又
 タ本論ニ使用スル言辭ハ易解ヲ主トスルカ故ニ謂ハユ
 ル術語ナルモノニ拘泥セズ

獲識ノ要件

外界若シハ事物ノ知識ヲ占有スルニ三個ノ要件アリ即
 チ(一)知識ノ由來スル事物(二)知識ヲ領收スル心神及ヒ(三)
 兩間交通ノ機關是ナリ而シテ此機關ニ六種ノ大別アリ
 之ヲ六官ト稱シ各ノ特殊ノ功能アリテ外界ノ知識ハ其
 類ノ何タルヲ問ハス皆ナ此等ノ機關ヲ媒介トシテ我内
 境ニ進入スル者ナリ之ヲ詳言セハ物躰ノ壓力輕重等ヲ
 心神ニ通達スル機關ハ筋肉中ニ分派スル神經ニシテ全
 身ノ筋肉ハ皆ナ多少壓力ニ感激スレモ就中腕臂ノ筋肉
 ハ輕重ノ觀念ヲ得ルニ尤モ銳利ナルモノナリ斯レ輕重
 壓力ノ知識ヲ媒介スルモノヲ**筋肉覺**ト稱ス物躰ノ表面

ニ關係スル知識即チ滑粗堅柔ノ如キ觀念ヲ給與スルモノハ皮膚中ニ分派スル神經ニシテ其尤モ精緻ナル局部ハ指端ニ在リ而シテ之ヨリ由來スル心神ノ感激ヲ觸覺ト稱ス此覺ハ又タ寒熱ノ觀念ヲ發生シ且ツ筋肉覺ト聯合シテ廣袤及ヒ方向ノ觀念ヲ發生シ隨テ大小形狀位置等ノ知識ノ基本ト爲ルモノナリ物體ノ溶解ヨリ由來スル甘苦鹹酸等ノ如キハ舌面ノ神經之ニ感激シテ味覺ヲ發生シ物體ノ分子ヨリ由來スル香薰惡臭及ヒ其諸種ハ鼻孔内ノ神經之ニ應接シテ嗅覺ヲ發生シ奏樂談話雷鳴砲聲等ノ如キ物體ノ震動ヨリ由來スル音響ノ觀念ハ内耳ノ神經ヨリ通達シテ聽覺ト爲リ光色及ヒ其諸種諸度ノ觀念ハ眼球ノ神經ヨリ通達シテ視覺之ヲ媒介ス而シ

テ視覺ハ筋肉覺觸覺ト聯合シテ距離大小形狀位置等ノ確正ノ知識ヲ構成スルモノナリ此六官ノ外ニ謂ハユル機體覺ナルモノ有リト雖モ其知識ノ媒介タルコト甚タ稀少ナレハ今マ之ニ説及セス夫レ六官ハ各ノ特殊ノ功能アリテ固ヨリ相互ニ交換スルコトヲ得ス而シテ外界ノ知識ハ他ニ之ヲ媒介スルモノ無ケレハ此等機關ノ完全銳利ハ人生ノ幸福ニ必須ニシテ其正當ノ養成ハ至極緊要ナル事項ナリ然ルニ或ハ其實力眞性ヲ了解セサルカ爲メ甲官ニ依頼ス可キ知識ヲ乙官ノ媒介ヲ以テ通達セシメントスル等ノ錯誤ヲ盲守スルモノアリ是レ特ニ其知識ノ不完全ヲ招致スルノミナラス亦タ此等機關ノ修練ヲ廢失シ且ツ其進化ヲ妨碍スル者ナリ

知力ノ區別

六官盡ク具備シ知識獲取ノ媒介ハ一モ完全ナラサルハ無ク之ヨリ進入スル印象ハ前後連綿タリト雖也我ニ於テ之ヲ收納スル作用ナキハ此印象ハ有レド無キニ均シク心神ハ未タ其何モノタルヲ認悟セス其眞實ノ觀念未タ我ニ發生セサルナリ觀念既ニ我ニ發生スト雖也之ヲ保持蓄貯スル作用ナキハ此等ハ媒介官ノ變化ニ隨ヒ出沒不定ニシテ確乎タル知識ハ尙ホ未タ我有クヲサルナリ知識既ニ我有タルト雖也之ヲ考察思惟シ辨理討究シ或ハ分離シ或ハ融合シ舊ヨリ新ヲ創作シ過去ニ由

テ未來ヲ豫料シ以テ一己ノ心界ヲ組織スル作用アルニ非サレハ知識モ亦タ我ニ裨益ナキナリ然リ而シテ是等ノ作用ハ皆ナ我ニ存在セサルハナシ即チ之ヲ知力ノ三作用ト稱シ謂ハユル智育ハ主トシテ此三作用ヲ發養シ各ノ其至大至善ノ成果ヲ產出セシムルヲ目的トスルモノナリ是ヨリ序ヲ逐テ此三種ノ智能ニ關係スル要點ヲ論述ス可シ

(一) 某事物カ我機關ニ印象スルニ際シ心神ハ他ノ事物ニ己ヲ專傾シ全ク之ニ接對セス或ハ不偏無爲ノ状態ニテ唯タ所動上之ニ接對スルコトアル可シ又タ或ハ自ラ進迎シテ能動上之ニ接對スルコトアリ之ヲ注意ト稱シ所動上ノ接對ヲ假ノ注意ト稱ス即チ諸印象同時ニ表現ス

ルキハ心神ハ其最要ノ興味アルモノニ眞ノ注意ヲ施爲シ其餘ハ假ノ注意ヲ以テ之ニ接對スル者ナリ故ニ注意ナケレハ知力ハ其収納ノ作用ヲ遂行スル能ハス事物ノ印象ハ未タ我有ト爲リ我知識ノ部分内ニ編入セラル、ヲ得サルナリ夫レ注意ノ必須ナルコト斯ノ如シ故ニ之ヲ修練スルハ教育上至重ノ事項ニシテ先ツ其所動ノ状態ヲ變シテ能動ト爲シ次テ此能動ノ状態即チ本分ノ注意ヲ維持スル方案ヲ執守セサル可カラズ

既ニ注意アリ而シテ後チ心神ハ其已ニ進入スル印象ノ何モノタルヲ了悟シ其現實ヲ認識スルコトヲ得ヘシ之ヲ知覺ト稱ス即チ知力本分ノ一作用ナリ而シテ知覺ニ二様アリ一ハ單孤無係ニシテ唯タ一個ノ感激タルニ止

マリ更ニ他ノ感激ヲ誘起セス之ヲ反省スルモ亦チ自餘ノ念緒ヲ攪催スルコト無シ一ハ複雑參駁ニシテ他ノ感激ニ關係シ即チ自餘ノ知覺ト牽連シ比較推度ノ如キ高等ナル作用ノ根源ト爲ル者ナリ故ニ此第二様ノ知覺ハ教育ノ由テ大ニ其効驗ヲ増進スルモノナレハ授業ノ方法ハ專ラ其施行ノ原理ニ依從セサル可カラス夫レ心神ノ作用ハ所動ノ官覺官覺ハ筋覺中ノ一部チ除キ餘ハ皆チ所動ナリヨリ發端シ之ニ能動ノ注意ヲ添加シテ本分ノ知覺ト爲ルニ及ヒ初テ受識作用ヲ具備シ因テ其生長開達ニ必須ナル食物ニ遇着シ即チ思想情緒意志等ノ材料ヲ獲取スル者ナリ故ニ知覺ノ鍛鍊ヲ完全ニスルコトハ至極緊要ニシテ教育ノ善不善ハ亦チ此鍛鍊ノ如何ニ由テ了察スルヲ得ヘキナリ

(二) 知力ハ唯タ觀念ヲ獲取スルニ止マラス之ヲ把住蓄藏シ以テ心神活動ノ材料ヲ供給スル能量アルモノナリ今マ之ヲ留識作用ト稱ス此作用即チ謂ハユル記憶ヲシテ缺點ナカラシムルニハ印象ノ深濃若クハ反覆ヲ必須スルモノナリ而シテ記憶ニハ二種ノ大別アリ是ヲ(一)專設記憶(二)聯合記憶トス夫レ單孤無係ノ知覺ハ更ニ他ノ念緒ニ交渉スルコト無ク之ヲ把住スルコトハ一々特別ノ努力ヲ要求スル者ナリ故ニ此等ノ蓄藏ヲ專設若クハ獨立記憶ト稱ス又タ二個以上ノ殊異ナル知覺同時ニ發生シ若クハ密接シテ現出シ互ニ時間境涯狀勢或ハ次第ノ連絡ヲ保有スルコトアリ之ヲ把住スル努力ハ一個ノ單孤知覺ヲ把住スル努力ト殆ト其度ヲ同フスト雖モ其成果

ニ至テハ一層廣大ニシテ即チ此連絡中ノ一件ヲ回想スレハ他ハ隨テ提起セラル可シ故ニ此種ノ把住ヲ聯合若クハ唆發記憶ト稱ス又タ諸種ノ知覺ハ類似不類似若クハ依從ノ關係ニ由テ一緒ニ之ヲ留置スルコトヲ得ヘシ但シ類似トハ棉花ト雪片ト或ハ激怒ト暴風トノ如ク其形質ノ間ニ肖全ノ現象アルコトヲ云ヒ不類似トハ剛柔黑白上下賢愚ノ如ク反對ノ差異アルコトヲ云ヒ依從トハ火ノ薪ニ於ケル又ハ呼吸ノ空氣ニ於ケルカ如ク追隨ノ觀念ヲ發生スルコトヲ云フ此ノ如キ關係ニ由テ知識ヲ把住スルトキハ少量ノ努力ヲ以テ多量ノ成功ヲ占有スルコトヲ得ヘシ故ニ學科ノ教授ニハ主トシテ此種ノ記憶ニ仰訴シ之カ作用ノ理法ニ由テ課業ノ材料ヲ齊

整シ其相互ノ連絡關係ヲ明示シ以テ專設記憶ノ徒勞冗費ヲ省減セサル可カラス蓋シ記憶ノ修練ハ心神發養ノ一部タリト雖モ之ニ供給スル材料ヲ精撰セス或ハ狼妄ニ之ヲ苦役シテ其強壯ヲ催致セントスルハ大ニ正道ニ違背スル者ニシテ教育上危險ナル妨碍ヲ發生シ其弊害ハ遠ク身軀行狀ノ兩範圍内ニモ徹通スル者ナリ

(三) 心神ハ受識作用ヲ以テ外界ヨリ觀念ノ材料ヲ收納シ留識作用ヲ以テ之ヲ内界ニ貯蓄シ終ニ外界ヲ離脱シテ自己ノ倉庫ニ就キ一個獨立ノ活動ヲ遂行スルモノナリ之ヲ用識作用ト稱シ即チ(イ)想像(ロ)推理ノ能量ヲ包含ス

(イ) 物件ノ知覺ハ各ノ一種ノ秩序及ヒ一種ノ結合アル者ナレモ心神ハ能ク之ヲ截斷解剖シ自己ノ意匠ヲ以テ更

ニ其分子ヲ撰擇シ自然從來ノ現象ヲ離脱スル新結合ヲ設立スルコトヲ得ル者ナリ之ヲ想像構造若クハ創製ト稱シ人類ノ大能量ノ一タリ然ルニ之ヲ世界ノ實際ニ裨益ナキモノト思惟シ全ク其養成ヲ怠慢シ甚キニ至リテハ之ヲ只ク詩人畫工ノ專有器ニシテ慇懃社會ノ障礙物ナリト誤認スルモノアリ此誤認ハ真正教育ニ最モ妨害アルモノナリ蓋シ人類ヲシテ造化自然ヲ制御シ六官ノ範圍ヲ超越スルコトヲ得セシムル者ハ唯ク此能量ナリ知識ヲ攻究スルモノハ之ニ依頼シテ理學及ヒ哲學ノ至大至高ノ區域ニ侵入シ發明ニ從事スルモノハ之ニ依頼シテ字内ノ形勢ヲ改更シ人文ノ進歩ヲ催促スルニ足ル最巧最妙ノ機械ヲ產出ス之ヲ無用ノ長物ト謂フハ固ヨ

リ僻見ノ頂極ニシテ世界開明ノ意義ヲ了解セサル者ナ
 リ凡ソ人類ハ其職分境遇ノ種類ヲ論セス皆ナ此能量ノ
 養成ヲ必須セサルヲ得ス而シテ之ヲ養成スルニ二個ノ
 要點アリ即チ其發動ヲ誘起スルコト及ヒ其發動ヲ正當
 ニ節制スルコト是ナリ而シテ此前者ノ目的ニ及達セン
 ニハ先ツ此能量ノ性質ヲ會得シ因テ新構造ヲ必須スル
 課業ヲ修習セシメサル可カラズ後者ノ目的ハ先ツ十分
 ニ事物ノ知覺ヲ練習シ因テ無根據ノ假設ヲ以テ其缺點
 ヲ補充スル弊害ヲ除去シ一様ニ高等ノ智能ヲ強壯ニシ
 常ニ有功ノ構造ヲ追求セシムルコトニ由テ及達ス可シ
 (ロ)心神ハ異殊ノ物件及ヒ異殊ノ思想ノ間ニ存在スル關
 係ヲ了解シ諸種觀念ノ連鎖中ニ流通スル一般ノ眞實ヲ

洞察シ果ヨリ因ニ逆沂シ因ヨリ果ヲ測度シ定律ヲ豫期
 シ大法ヲ證明シ心物ノ統系ヲ整頓シ終ニ之ヲ一緒ニ結
 束シ想像ノ調理ヲ指揮シ其確固ナル成功ヲ得セシムル
 作用ヲ施行スルモノナリ之ヲ推理ト稱シ即チ知力ノ最
 高態ナリ(第八講ヲ參考セヨ)
 知力ノ作用ハ略ホ前論ニ枚舉シタルカ如シト雖モ尙ホ
 其一般ノ作用トモ稱ス可キ活動アリ即チ總テ心神ニ對
 向スル事物ヲ辨別スルコト是ナリ而シテ此辨別ハ或ハ
 單純ノ知覺ニ關係シ或ハ想像并ニ推理等ノ至極錯雜ナ
 ル作用ヲ包含スルコト有リ其單純ノ知覺ニ關係スルモ
 ノハ甚タ簡易ニシテ各種事物ノ收納ニ必須ナル差異ノ
 常識タルニ過キスト雖モ其想像推理等ニ交渉スル者ニ

至テハ運智ノ最高最大ナルモノト謂ハサルヲ得ス即チ
 用識作用ノ計畫セシ諸事物ノ當否ヲ審判シ又タ時機境
 遇ニ隨テ諸事物ノ利害ヲ裁決スルカ如キコト是ナリ蓋
 シ心神ノ前面ニ對向スルモノハ悉皆此作用ノ處置ヲ被
 戴シ而シテ他ニ控訴ス可キ所アラサルナリ今マ之ヲ斷
 定ト稱ス而シテ或ハ此作用ヲ一種ノ特殊作用ト爲サス
 寧ロ他ノ特殊作用ノ一部ト爲ス者アリ例ヘハ兩個ノ事
 物ヲ分離視スルハ完全知覺ノ必須部タリ兩個ノ思想過
 程ヲ分離視スルハ完全推理ノ必須部タリト謂フカ如シ
 然レ實際ノ教育上ニテハ此兩説ノ何レヲ擇採スルモ同
 様タル可シ唯タ斯ノ如キ知力作用ノ存在ヲ承認スルヲ
 以テ足レリトス但シ之ヲ用識活動ノ一種トスルモ亦タ

不可ナキナリ(第八講ニハ純粹ノ論理上ヨリ之ヲ見解ス)
 又タ知力ノ活動中ニハ既ニ講述セタル諸態ノ混合ヨリ
 組立スル活動ナレバ殆ト一種固有ノ狀勢ヲ明示スルカ
 故ニ特殊ノ名目ヲ得タルモノアリ是レ亦タ教育者ノ攻
 究ヲ需要スル所ナリ(イ)諸事物若クハ思想ノ類同不類同
 ヲ看破スル作用ヲ比較ト稱ス即チ同時ニ觀察スルコト
 ナ得ヘキ兩個ノ事物ヲ比較スルニハ一緒ニ此兩件ヲ知
 覺スル作用ト斯ク知覺シタル諸性質ヲ斷定スル作用ト
 ナ包含ス可シ又タ之ヲ同時ニ觀察スルコトヲ得サル時
 ハ記憶ノ幫助ニ依頼セサル可カラズ又タ思想ノ景況ヲ
 比較スルニハ知覺記憶想像推理等ノ諸作用ハ皆ナ之ニ
 干與セサルヲ得ス(ロ)過去ノ知覺若クハ其結合ノ心畫ヲ

製出スル作用ヲ造念ト稱ス過去ノ知覺ノ造念ハ單ニ明瞭活潑ナル追懷タルニ過キスト雖而結合上ノ造念ニ至テハ其結合ヲ組織ス可キ材料ヲ回喚スル記憶ノ作用ト此成分ヲ排列シテ謂ハユル心畫ヲ完成スル想像ノ作用トヲ要須ス可シ又タ錄載若クハ演述上ノ事物ニシテ未タ自ラ實驗セサルモノヲ考案スルコハ親熟ナル事物ノ知覺此知覺ヨリ獲得セシ觀念ノ記憶此觀念ヲ排列結構スル想像及ヒ此想像ヲ錄述上ノ事物ニ符合セシムル推理等ノ諸作用ヲ包含ス可シ(此外尙ホ數種ノ特殊混合作用アリト雖而之ヲ論明スルハ専門心理學ノ本分トシ爰ニハ唯タ其教育學ノ豫備ニ欠缺ス可カラサルモノ、ミヲ振擻ス)

附論

心神ノ發動ハ親密ニ言語ト關係シ觀念并ニ思想ハ皆ナ各ノ名辭文章ノ代表ヲ需要シ心神ハ新觀念ヲ獲取スル毎ニ必ス之ヲ現出ス可キ名辭ヲ探求シ其之ニ適合シタルモノ無キハ數名辭ヲ連結シ或ハ全ク新名辭ヲ陶造シ以テ之ヲ現出ス蓋シ觀念ノ受納及ヒ活用ハ之ヲ代表スル言語ノ存在セサルハ決シテ完然ナルヲ得サルモノナリ(ハミルトン氏ハ其著作ノ論理書中ニ言語ノ功能ヲ屬國ヲ鎮守スル城堡ニ比較シ又ク隧道ヲ鞏固ニスル拱壁ニ譬喩シ其思想ノ攻取運動及ヒ知力ノ開鑿事業ニ必須ナル所以ヲ解明セリ)故ニ思想ト言語ニハ常ニ共同

ノ進歩ナカル可カラズ但シ言語ニハ(一)知識若クハ思想ヲ現出シ及ヒ(二)知識若クハ思想ヲ保存スル兩様ノ職分アリ總テ念象ハ其表章ヲ欠缺スルキハ完全ニ之ヲ貯蓄スルヲ得ス或ハ悉皆之ヲ忘失ス可シ又タ言語ノ念象ヲ包有セサルモノハ恰モ鸚鵡ノ嘲喧ニ似テ意義ナキ音聲タルノミ故ニ思想ハ必ス言語ニ先ツ可シト雖田言語ハ亦タ必ス思想ニ後ル可カラズ斯ノ如ク思想ト言語トハ常ニ相ヒ伴連シ實際上ニハ之ヲ分離スルヲ得ス故ニ此兩者ヲ兼備スルコトハ心神開發上最モ要須スル所ニシテ少クモ教授時間ノ一半ハ必ス之ヲ言語ノ修練ニ使用シ生徒ヲシテ明瞭正確ナル名辭文章ヲ領收シ其思想ヲ精密ニスル補助ヲ占有セシメサル可カラズ

右講義ノ圖表

序論—教育上知力攻究ノ必須

獲識ノ要件
知識ノ由來スル事物
知識ヲ領收スル心神
兩間ニ媒介スル機關

知力ノ略説

受識作用—知覺
留識作用—記憶
用識作用—想像
推理想象
斷定

孤立
聯合
混合作用

比較
造念
參雜
追懷

簡易
錯綜
純
雜
運知

附論—開智上言語練習ノ必須
言語ノ位置
言語ノ職分
言語ノ修成

第三講 教授ノ方法

序論

授業ノ原理ヲ探索シ其方法ノ改良ニ着手シタルハ寔ニ
 輓近ノコトコシテ元來教員タルモノハ已ノ師導ノ施行
 セシ方法ヲ以テ満足シ自ラ亦タ之ヲ因襲墨守セリ而シ
 テ此方法ニシテ現今尙ホ其弊害ヲ遺留スル者アリ(一)生
 徒ヲシテ專ラ教科書ノ文字ヲ諳記セシムルコト其一ナ
 リ其弊害タルヤ能動ノ注意ヲ言語ニ凝聚シ其表出スル
 思想ハ全ク忽諸ニシ即チ空虚ノ知識ヲ貴重シテ眞實ノ
 學問ヲ輕蔑シ心神ヲ獎勵セスシテ却テ之ヲ萎靡シ庠序
 ヲシテ小兒發達ノ障礙物タラシムル者ナリ(二)生徒ニ過

難ノ課業ヲ強付スルコト其二ナリ其弊害タルヤ少小ノ
 事件ヲ修成スルニ太多ノ勤勞ヲ需要シ澁苦ヲ嘗盡シテ
 知力ヲ徒費シ頻ニ庠序ヲ厭忌セシムル情感ヲ誘起スル
 者ナリ(三)生徒ノ觀察活動ヲ怠慢スルコト其三ナリ其弊
 害タルヤ日常實際ノ事物ヲ忘却シ且ツ高等運智ノ基礎
 タル可キ諸現象ヲ度外視シ即チ庠序ノ庠序タル本分ヲ
 破滅スル者ナリ是レ往昔ヨリ教授上ニ傳來セシ惡習ノ
 概略ナリ此等ノ惡習ヲ悉皆除去セントスルハ方今眞正
 教育家ノ黽勉シテ止マサル所ナリ
 又タ萬國ノ史論ヲ攻究シ人類全躰ノ景況ヲ關視スルニ
 其開進ノ**狀態ハ心神發達ノ順序ニ符合シ**必ス一定ノ方
 針ニ追隨スルコト明瞭ナリ蓋シ太古野蠻ノ民族ハ六官

ニ感受スル外界現象ノ壓制ニ匍匐セシ者ナルガ漸次ニ
 諸種ノ變遷ヲ經歷シ先ツ知覺ノ活動ヲ銳利ニシ且ツ之
 ナ煉淨シ終ニ理性ヲ以テ六官ヲ驅逐シ疎迂虛耗ナル觀
 念ヲ醇化シ確實精正ナル思想ヲ組織シ即チ現今文明國
 ノ衆庶ト爲レリ又タ翻テ個人發達ノ摸樣ヲ考察スレハ
 其變遷ハ大ニ之ニ類似スルモノニシテ即チ其幼稚ノ時
 期ニハ外界ニ對向シテ無力ナルコト理性ノ六官ニ服從
 スルコト觀念思想ノ空漠ナルコト等ハ更ニ野蠻蒙昧ノ
 態度ニ相異スル所ナシ而シテ其成年ノ時期ニ至ルヤ乃
 チ外界ヲ統御シ内境ヲ齊整シ歩々運智ノ作用ヲ高尙ニ
 スルコト恰モ文明國人ノ如シ此兩様ノ事實ニ由テ觀レ
 ハ知力ノ開進ニハ確然トシテ左右ス可カラサル原則ア

ルナリ而シテ此原則ハ皆チ教授ノ方法ヲ處理スル基本
 ト爲ス可キモノナリ

客觀法

夫レ心神發達ノ第一步(ナルハ即チ教育ノ第一步)ハ六官
 ノ作用ニ由テ物躰ノ性質ヲ現覺シ其關係事件ヲ實驗シ
 以テ諸種ノ知識ヲ獲取スルニ在リ而シテ此初等ノ知識
 ハ心神ノ全活動ノ基本タル可キモノナリ其第二步ハ兩
 個以上ノ題項ヲ比較シ其肖合不肖合ヲ認定スルニ在リ
 此作用ハ物躰ノ性質(即チ形狀大小色相等)ニ始マリ其關
 係事件ニ及フモノナリ而シテ思想中其相ヒ肖合スル者
 ヲ連結シ一團列ヲ造設シ肖合セサル者ヲ分離シテ別ニ

團列ヲ組立シ判然之ヲ彙類シ以テ其異同ヲ辨明スルヲ其第三步トシ是等團列ニ貫通スル實性即チ一般ノ真理ヲ獲取スルヲ其第四步トス而シテ心神ノ作用ハ此ニ於テ全ク主觀ノ範圍ニ進入スルナリ右ノ如ク單純ノ知覺ヨリ序ヲ逐フテ普通ノ真理ヲ發見スル方法ハ(一)獲識ニ必須ナル初步ノ活動ヲ包含スルモノナレハ運智上ニハ最先ノ位置ヲ占有シ(二)外界ノ實驗ニ由テ開始スルモノナレハ心神上ニハ客觀ノ範圍ニ從屬シ(三)事物ヲ聚集連結スルモノナレハ攻學上ニハ總合ノ作用ヲ施爲シ(四)定律若クハ主義ニ誘導スルモノナレハ論理上ニハ歸納ノ過程ヲ具備スルモノナリ今マ此方法ヲ單ニ客觀法(或ハ歸納法)ト稱ス

客觀法ハ心神ノ養成上ヨリ觀ルキハ主トシテ其生長ヲ補裨スルモノナレハ其充全ナル熟達ハ之ヲ除キテ他ニ追求ス可キ幫助ナシ且ツ諸能力ヲシテ自然正規ノ秩序ニ隨ヒ其活動ヲ遂行セシムルニハ必ス此法ニ依頼セサルヲ得ス又タ知識ノ程度上ヨリ論考スレハ總テ外界ノ正想ヲ自得スル定道タルノミナラス亦タ高大ナル發明ニ上進スル津梁ナリ蓋シ(各個人ハ此媒介ヲ以テ宇宙ノ事實ヲ看破シ萬象ヲ統轄スル規律ヲ通察シ一國民ハ此幫助ニ依テ始テ造化ノ機密ニ侵入シ文化ノ端緒ヲ開立スルコトヲ得ル者ニシテ)近世理學ノ隆盛ナルハ知識攻究上頻ニ此法ヲ實施セシニ由ルモノナリ今マ之ヲ序ノ授業上ニ採用スルハ理學ノ已ニ徵證シタル利益ヲ一

般教育ノ範圍内ニ承認スルニ外ナラサレハ固ヨリ疑議
ス可キコトニ非サルナリ

主觀法

一ノ題項ニ就キ其事實ノ獲取比較及ヒ彙類ヲ完結シ其
普通ノ大理ニ及達シ(即チ既ニ客觀法ヲ經過)セシキハ其
知識ハ全ク心神ノ所有ニ屬シ其内界活動ノ根源ト爲ル
モノナリ而シテ其第一步ハ題項ノ定義ヲ構作スルニ在
リ蓋シ定義ハ單純ト實正トノ二件ヲ以テ其必須ノ成分
トスル者ナレハ其表出ス可キ名辭若クハ事物ヨリ一層
簡易明瞭ナル言語ヲ採用シ唯々之カ真義ノ全軀ノミヲ
包容シ毫モ之ヲ増減スルコトナク亦々必ス重複、苦難、輪

解等ノ過失ヲ避禦ス可シ第二步ハ題項ヲ區分シテ其諸
部ヲ辨別スルニ在リ而シテ此區分ハ必ス一元ノ基礎ニ
據リ諸部ハ必ス的確ノ差異ヲ含有ス可シ但シ此差異ノ
標準ハ題項ノ性質ニ隨ヒ或ハ自然ニ或ハ意匠ニ任托ス
又タ諸部ハ其相互依從ノ順序ヲ逐テ之ヲ排列スルコト
ヲ要求ス是ヲ主觀彙類ト稱ス第三步ハ前歩ニテ區分セ
シ諸部ノ各個ヲ新題項ノ如ク思惟シ其定義ヲ構作スル
ニ在リ第四步ハ更ニ諸部ノ各個ヲ區分スルコト即チ細
別ヲ設立スルニ在ルナリ斯ノ如キ定義及ヒ區分ヲ重沓
シ終ニ全題項ノ根源タル結局ノ事實ニ及達ス可シ是ニ
於テ心神ノ活動ハ復タ客觀ノ範圍ニ歸着スルモノナリ
右ノ如ク心神所有ノ知識ヨリ順序ヲ逐テ結局ノ事實ニ

及達スル方法ハ(一)初步ノ活動ニ次テ發生スルモノナレ
 ハ運智上ニハ第二着ノ位置ヲ占有シ(二)内界ニ存在スル
 題項ヲ以テ開始スル者ナレハ心神上ニハ主觀ノ範圍ニ
 從屬シ(三)其題項ヲ剖割スル者ナレハ攻學上ニハ分解ノ
 作用ヲ施爲シ(四)一般ノ大理ヨリ起來スル者ナレハ論理
 上ニハ演繹ノ過程ヲ具備スル者ナリ今マ此方法ヲ單ニ
 主觀法ト稱ス

主觀法ハ心神ノ養成上ヨリ觀ルルハ職トシテ其強壯ヲ
 補裨スルモノニシテ其完全ナル状態ハ之ヲ除キテ他ニ
 追求ス可キ幫助ナシ而シテ此法ノ心神ニ發生スル影響
 ハ猶ホ筋肉操練ノ身軀ニ於ケルカ如ク主功ハ其勢力ヲ
 増進スルニ在レ也亦タ幾分カ其生長ヲ獎勵ス又タ知識

ノ程度上ヨリ論考スルルハ其應用ノ方針ヲ指示シ諸現
 象ヲ定律ノ境內ニ統轄シ且ツ定律ノ證明ヲ諸現象中ニ
 表出スル者ナリ蓋シ主觀法ハ人類ノ頼テ其知識ヲ有益
 ノ事業ニ應用シ其福索ヲ擴張スル者ナレハ即チ教育ノ
 諸課業ヲ結了スル常道ナリ然レモ此法ノ効驗ノ多少ハ
 專ラ客觀基礎ノ廣狹ニ依從スル者ニシテ若シ其淵大深
 厚ナルルハ睿智良能ノ行路ヲ通窮シ社會幸利ノ端緒ヲ
 開立シ其觀隘淺薄ナルルハ徒ニ虛想僞案ノ媒介ト爲リ
 眞正知力ノ進歩ハ固ヨリ期望ス可カラス中古風ノ學問
 ハ往々此弊習アリテ特ニ實際ノ要務ヲ欠缺シ世運ノ順
 合ニ適當セサルノミナラス亦タ心神ノ元氣ヲ濫費シ反
 テ其啓達ヲ妨害スル者ナリ

兩法ノ併立

前論ニ由テ觀レハ完全ナル教育ハ必ス客觀主觀ノ兩法ヲ需要シ其間ニ輕重ノ差別ナク均一ニ之ヲ施行セサル可カラス而シテ之ヲ施行スル時期ノ前後ハ亦タ自ラ其性質上ニ固定シ更ニ左右ス可カラサルナリ然レモ一題項ヲ講習スルニ必ス其主觀討究ニ着手スルニ先タテテ全躰ノ客觀穿鑿ヲ窮盡ス可シト謂フニ非ス其一區分毎ニ兩法ヲ施行スルコトヲ得ヘシ且ツ夫レ客觀法ハ専ラ實際ノ事物及ヒ其細故ヨリシテ一般ノ主義ヲ探求スル者ナレハ其境界ハ稍ヤ陝隘ナラサルヲ得ス然ルニ主觀法ハ此主義ヲ可成ノ極域ニマテ推及スル者ナレハ大ニ

其境界ヲ廣濶ニシ考案ノ範圍ヲ伸暢ス可シ又タ客觀法ハ健寧ナル思想ト確正ナル斷言トニ欠ク可カラサル材料ヲ給與シ主觀法ハ此材料ヲ採納シ之ヲ整頓シテ特殊ノ目的ニ應用スル者ナリ故ニ教員ノ事業ニ於テハ客觀法ハ生徒ノ知覺力ヲ開進シ注意ヲ精密ニスル慣習ヲ養成シ理法發見ノ津梁ヲ指示シ正論ニ及達スル具道ヲ表顯スル者ナリ主觀法ハ知識ノ順序ヲ整頓シ其從屬ノ關係ヲ明瞭ニシ之ヲ提出スルニ必須ナル次第ヲ確立スル者ナリ蓋シ教員及ヒ生徒ハ主觀上ノ原則ノ應用ニ由リ其未タ客觀上ニ穿鑿セサル成果ニ遇着スルコトヲ得ヘシト雖モ此事ヲ完遂スルニハ二個ノ條件ヲ承認セサル可カラス即チ(一)斯ノ如キ原則ハ客觀法ヲ以テ獲取シタ

ル者ナラザルヲ得ス(一)其應用ノ範圍ハ之ヲ獲取シタル
 範圍ニ類似スル者ナラサルヲ得ス此ニ由テ觀レハ授業
 上并ニ修習上此兩法ノ併立ヲ必須スル理由及ヒ此兩法
 ナ前後轉倒スル弊害ハ自ラ明瞭ナル可シ

實物課

學校ノ教授法ハ(既ニ本講ノ序論ニ陳述セシ如ク)近來マ
 テ諸種ノ缺點ヲ含有シ人類自然ノ情勢ニ背戾セシカ爲
 メ庠序ハ唯タ小兒ノ地獄視スル場所ト爲レリ此時ニ當
 テ實物課ト稱スル新法始テ教育世界ニ發現シ其能ク生
 徒ノ注意ヲ攪催シ之カ興味ヲ誘開シ直接ノ經驗ニ仰訴
 シテ觀察ノ作用ヲ獎勵シ自然ニ懶惰怠慢ヲ制止スル勢

カアルコトハ固ヨリ器械樣舊法ノ企及スル能ハサル所
 タリ因テ此新法ハ一方ニハ其眞價ニ超越シタル信任ヲ
 博得シ學問ハ悉皆之ニ由テ爲ス可シト認認シ即チ初等
 ノ知識ハ實物ニ由テ最モ善ク獲取ス可キカ故ニ高等ノ
 知識モ亦タ盡ク之ニ由テ獲取セサル可カラスト推考シ
 徒ニ自己ノ經驗ヲ貴重シ他人ノ思想ヲ輕蔑シ全ク讀書
 ヲ無用視スル極端者流ヲ輩出シ又タ一方ニハ之ヲ誤用
 スルモノアリテ或ハ生徒ノ既ニ習熟シタル觀念ヲ復タ
 更ニ實物ヨリ獲取セシメントシ由テ舊法ト同様ナル無
 興味ノ感覺ヲ惹起シ或ハ課業ノ次第ヲ錯乱シ其相互ノ
 關係ヲ損破シ因テ生徒ノ觀察力ヲ濫費セシムルカ如キ
 弊害ヲ醸生セシカ爲メ此法ハ大ニ反動ヲ招致シ其眞價

ヲ降貶シテ之ヲ全ク不順理ナル教育手段ナリト揚言スル僻論家ヲ輩出セリ然レモ此法ノ眞價ハ右兩端ノ中間ニ在ルモノト思惟ス可キナリ蓋シ前段中ニ説明セシ如ク外界ノ初等知識ハ必ス現實ノ事物ヨリ六官ノ媒介ヲ以テ心神ニ傳通セサルヲ得ス而シテ實物課ハ即チ此傳通ノ次第ヲ整頓シテ生徒ヲシテ正當ニ現存ノ事物ニ對接シ其觀察力ヲ鍛鍊シ其未タ嘗テ眷顧セサル諸性ヲ探究シ由テ將來高等ノ思想ヲ運用スルニ欠ク可カラサル基本ヲ確立セシムル方便クルニ外ナラス故ニ其知識獲取ニ必須ニシテ最モ庠序ノ教授ニ適應シ決シテ不順理ノ手段ニ非サルコトハ亦タ疑議ス可カラサルナリ

形狀及ヒ其差異ノ觀念ハ實物ヲ檢査シテ容易ニ之ヲ覺

知ス可キモノナレハ庠序ニ於テハ諸種ノ平面形並ニ立躰形ヲ準備シ生徒ヲシテ幼稚ノ時期ヨリ之ニ親熟セシメサル可カラス又タ諸種ノ色彩并ニ其濃淡ノ類別等ハ之ヲ現有スルモノヲ檢査スルニ非サレハ明瞭ニ判定ス可カラサルモノナレハ此觀念ヲ精密ニスルニハ必ス實物ノ攻究ニ由ラサルヲ得ス其他位置、大小、數額等ノ觀念モ亦タ皆之ニ由テ最モ精密ニ通曉スルコトヲ得ルモノナリ故ニ有形理學ノ初步ハ必ス實物ノ直察ニ依頼シ若シ之ヲ忽諸ニ付スルハ眞正ノ推測ハ決シテ完遂ス可カラスシテ此種ノ理學ハ終ニ未開ノ區域ヲ脱出スル能ハサルナリ而シテ庠序ニ於テ此直察ヲ執行セシムルハ即チ實物課ニ在ルナリ然ルニ有形理學ヲ教授スルニ

生徒ヲシテ專ラ書籍ニ由テ其初步ノ知識ヲ獲取セシメ
 他人ノ思想ヲ以テ自個ノ現覺ニ代用シ其未タ事跡ヲ承
 認セサルニ先タテ既ニ之カ原則規律ヲ修習セシムル方
 法アリ而シテ其大弊アルニモ拘ハラズ世ニ流行スルコ
 ト頗ル廣潤ナリ是レ外面ノ知識ヲ以テ内躰ノ知識ニ更
 替スルモノニシテ單ニ時間ト努力トヲ濫費セシムルノ
 ミナラス心神ヲ傷害シテ其真偽虛實ノ辨別力ヲ萎靡セ
 シムル騙術ナリト謂ハサルヲ得ス教育ノ當任者ハ深ク
 此ニ注意ス可キナリ
 實物ハ一層廣潤ナル意義コテハ我思想ノ題項ト爲リ得
 ル現象ノ全般ヲ含蓄シ必シモ其官覺ニ媒介シテ發生ス
 ルモノニシテ止ルニ非ス心神ハ具形ノ個躰(例ハ林檎)

外觀ノ性質(例ハ色澤)知力ノ作用(例ハ記憶)情緒ノ發
 動(例ハ愛慕)實行ノ勢力(例ハ道念)等ヲ考稽スルコ
 トヲ得ヘシ此等ノ諸件ハ皆ナ實物ナリ而シテ總テ實物
 ハ其有形無形ヲ論セス各ノ其本性、特質及ヒ關係アリテ
 心神ハ盡ク之ヲ獲取セサル可カラス而シテ之ヲ獲取セ
 シムル作用ハ即チ實物教授ナリ故ニ此意義コテハ實物
 課ハ殆ト思想全般ノ必須基本タリ且ツ夫レ思想ノ材料
 ハ外界實物ノ觀察ヨリ由來シ其順序モ亦タ此實物ノ因
 果依從ノ觀察ヨリ發生スル者ナレハ論理ノ作用及ヒ其
 他有秩ノ思想ニ緊要ナル諸念ハ皆ナ規律ノ整頓セル實
 物教授ニ於テ最モ強ク之ヲ表出シ最モ深ク之ヲ心神ニ
 捺印スルコトヲ得ヘシ蓋シ人類ハ思想ト現覺トニ依テ

萬象ヲ網羅シ之カ定則ヲ承認シ隨テ論理ノ能力ヲ啓開シ處世ノ本務ヲ遂行スルニ至ルナリ而シテ實物課ハ大ニ此事ヲ補裨スルモノニシテ即チ學者ノ興味ヲ增加シ其心神ノ活動ヲ獎勵シ因テ曖昧模糊タル知識ヲ進化シテ精確有用ノ念象ヲ構成シ且ツ其經驗ノ範圍ヲ擴張シ歸納理法ノ證明モ定則演繹ノ應用モ皆ナ之ニ由テ其檢査ヲ完了シ結局ノ事實ニ遇着スルコトヲ得ル者ナリ

實物課ニハ左ノ利益アル可シ

- 第一 知覺ヲ鍛鍊スルニ最良最好ノ媒介ヲ供給ス
- 第二 理學各科ノ初步ニシテ殊ニ有形理學科ヲ補助ス
- 第三 有序有法ノ思想ニ必須ナル基本ヲ開立ス
- 第四 心神ノ活動ヲ獎勵シ發明創作ノ氣力ヲ養成ス

第五 定則ノ證實并ニ其應用ノ津梁ヲ供給ス

此利益ヨリ直生スル成績ハ修學時間ヲ省減シ及ヒ快活有用ノ課目ニ從事スルコトヲ得セシムルニ在リ然レモ此教授法ヲ誤施スルカ爲メ其良果ヲ殘害シ其信任ヲ減却スルコトアレハ之ヲ執行スルニ必守ス可キ警戒ヲ枚擧スルコト左ノ如シ

- 第一 書籍ヲ使用ス可カラス(ト云フ由縁ハ此教授法ノ名稱ニテ既ニ了然タレハ更ニ此警戒ヲ要須セサルカ如シト雖モ教員ノ中至極愚鈍ニシテ其袖珍ノ教授論ニ例示セル課業ヲ生徒ニ暗誦セシメタルモノアリ)
- 第二 明瞭ナル目的ナカル可カラス(若シ此目的ニ及遠

- 第三 セサルハ此教授ハ成功ナキモノナリ
適當ノ秩序ナカル可カラス(各課業ハ相ヒ牽連シテ前後交モ應援シ生徒ヲシテ自ラ其關係ヲ發明シ及ヒ記憶ヲ補助スルヲ得セシム可シ)
 - 第四 生徒ノ既ニ親熟セル觀念ヲ反覆ス可カラス(課業ノ興味ハ其新奇ナル所ニ在リ之ヲ欠クハ其印象微弱ニシテ勢力稀少ナリ)
 - 第五 生徒ノ自ラ看破ス可キ事項ヲ指示ス可カラス(教員ハ唯々生徒ヲ誘導シ其觀察ヲ精密ナラシメ及ヒ其觀察ノ結果ヲ正說セシムルニ止マル可シ過度ノ説明ハ却テ生徒ノ進歩ヲ障碍ス)
- 又々實物課ノ限界ヲ約言セハ

- 第一 客觀法ニ於テハ初歩ノ楷梯ヲ構成ス(即チ事物ノ辨別比較彙類等ノ材料ヲ授與ス)
- 第二 主觀法ニ於テハ最後ノ分解ヲ遂了ス(是レ定律ノ證實及ヒ其應用ニ欠ク可カラサル所ナリ)
- 第三 純想作用ニ於テハ唯々間接ノ助力アルノミ(心神ノ活動既ニ個體ノ範圍ヲ經越シ念象ノ區域ニ進入スル後ハ實物ニ直接スル要須ナシ)
- 心神修練ノ完結ハ形而上ノ知識ヲ獲取シ抽象體ノ法則ヲ處理スルニ在リ而シテ此大成ハ
- 第四 實物課ヲ受得セス確識ノ基本ヲ欠缺セシカ爲メニ障碍セラル
- 第五 又々之ニ依頼スルコト過久ニシテ現覺外ニ獨立

ノ思想ヲ運用スル能ハサルニ至テ沮止ス
今マ此條末ニ於テ尙ホ警戒ス可キ一事アリ實物ノ攻究
中其實物自個ニ興味ヲ專有セラレ之ヨリ獲取ス可キ知
識ヲ忘却スルコト是ナリ是レ守錢奴ノ財寶ニ於ケルト
同様ニシテ一種ノ狂氣ニ侵惑セラレ全ク人生努力ノ正
鵠ヲ廢失スルモノナリ

系論

右ノ講述ニ由リ學科ノ順序并ニ授業ノ方法ヲ制定スル
ニ必須ナル條規ヲ指示スルコト左ノ如シ
第一 外界ノ初着觀念ハ六官ノ直驗ヲ以テ獲取ス可シ
第二 六官ハ規律確正ノ實物課ヲ以テ之ヲ修練ス可シ

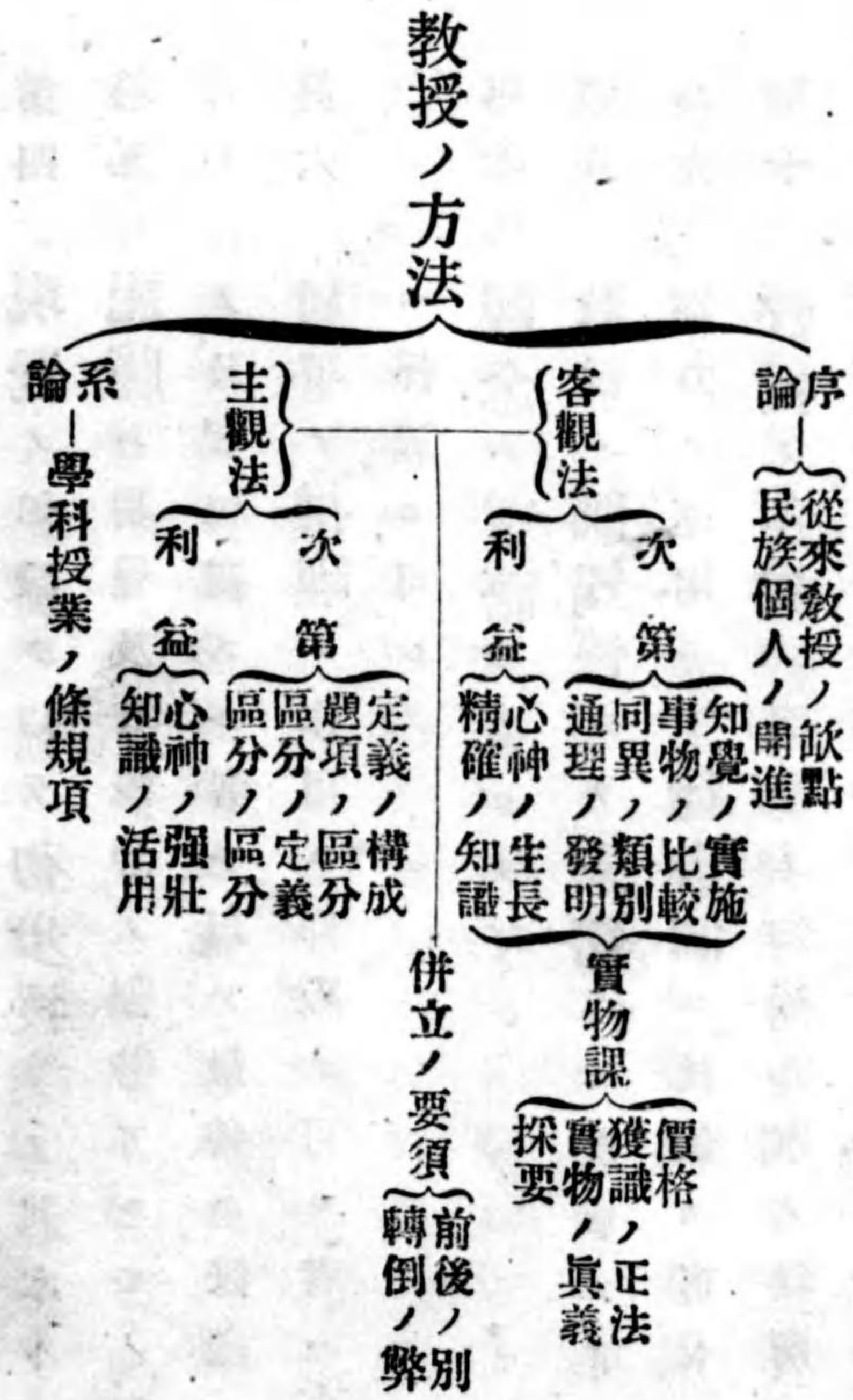
- 第三 注意ハ適當ノ實物課ニテ最善ク維持セラル可シ
- 第四 現覺ノ知識ヲ以テ初步授業ノ基本ト爲ス可シ
- 第五 記憶ハ現覺及ヒ觀念ノ強勢アルモノ、沓復スルモノ及ヒ相關スル者ヲ以テ最善ク修練セラル可シ
- 第六 題項ノ推理ノ作用ニ仰訴ス可キ者ハ高等ノ課業ニ係屬ス可シ
- 第七 觀念ハ言語ニ先タツ可シ
- 第八 教授ハ既知件ヨリ未知件ニ及ホス可シ
- 第九 知力ノ運用ハ生徒自個ニ放任ス可シ
- 第十 教授ノ各程ハ充全ノ知覺、詳審ノ理解、明瞭ノ辯表ヲ包含シ且ツ可成ノ境遇ニハ思想ノ實行ヲ包含ス可シ

ヘーゲルハ人類ノ動物性若クハ自然性ヲ倫理性ニ化成スルコトヲ以テ教育ノ目的ト爲セリハルバトスベシサレモ亦タ人類ノ充全生活ヲ豫備スルコトヲ以テ教育ノ本務ト爲シ之ニ由テ其良否ヲ判斷ス可キコトヲ論述セリ今マ此說ヲ容取シ教育ハ行爲ノ善正生活ノ圓滿ヲ幫助ス可キモノナリトスルキハ必ス之カ遂達ニ最適スル學科ノ如何ヲ思考シ之ニ干涉スル古來ノ慣習ヲ變革シテ目下至當ノ標準ヲ採用セサルヲ得ス夫レ慣習ハ其種ノ如何ヲ問ハス初ハ人生ノ必須件ヨリ發起シ其幸福ヲ増進ス

第四講 學科ノ價格

序 論

右講義ノ圖表



ル利用アリシモノ(コシテ過去ノ權威ノ現世ニ保存セラ
ル、ハ即チ此ニ在ル)ナリ故ニ此利用ノ頽廢スルニ至レ
ハ之ヲ變革(其權威ヲ撲滅)セサルヲ得スト雖此事實ヲ
謀企スルニハ亦タ必ス十分ニ其緣由ヲ證明セサルヲ得
ス而シテ此證明ニハ二個ノ元素ヲ包有セサル可カラス
即チ(一)毀壞上(舊法ノ不充全并ニ不順理ナルコト)(二)構成
上(新規ノ一層高尙ニシテ且ツ善良ナルコト)ノ確憑ナカ
ル可カラス此元素ノ抗對アリ以テ社會進步ノ平權ヲ維
持シ由テ人文ノ實相ヲ完成スルコトヲ得ルナリ斯ク一
般ニ變革作業ヲ統理ス可キ主義ハ亦タ之ヲ教育上ノ變
革作業ニモ應用ス可キナリ故ニ古來ノ慣習ニ起因スル
學科ヲ改正セント欲スル者ハ其學科ノ過失ヲ了示シ現

世ノ要求ニ適切ナル制度ヲ提出セサル可カラス但シ次
段ニハ敢テ人間ノ知識ヲ理學上ニ彙類シ之ニ配當スル
諸學科ヲ詳論セントスルニ非ス唯タ實際上ノ問題ヲ解
明スルニ補益ス可キ概目ヲ舉グルノミ

學科ノ大別

學科ハ教育上二類ニ大別スルコトヲ得ヘシ即チ(一)直接
ニ心物ノ事實及ヒ理法ヲ講述スル學科(二)其會得及ヒ發
達ヲ補助スル學科トシ第一類ハ本躰ノ知識第二類ハ假
躰ノ知識若クハ獲識ノ方便ヲ包含スルモノナリト思惟
スルコトヲ得ヘシ而シテ庠序ニ於テ施行スル課業中ニ
ハ亦タ此兩躰ヲ兼有スルモノアリ語學、數學是ナリ夫レ

言語ハ知識ヲ表出貯蓄スル功用アレハ此功用ハ只タ一種ノ方便ニシテ知識自個ニハ非サルナリ故ニ文法、讀書習字ノ如ク專ラ此功用ニ關係スルモノハ皆ナ第二類ノ學科ナリ然レハ原語ノ組織及ヒ沿革又ハ其レト人間開明トノ交渉等ノ研究ハ即チ第一類ノ學科ナリ而シテ數學モ亦タ單ニ事物定量上ノ關係ヲ辨別スルニ必須ナルモノト思惟スルキハ知識ノ方便タルニ過キサレハ具形ノ範圍ヲ超越セシ關係ノ理法ヲ發見スル爲メニ研究スルキハ本躰ノ知識ヲ供給スルモノナリ(マコーレ曰ク「ベッコ」ハ人類ノ幸福ヲ以テ知識ノ正鵠ト爲シ因テ數學ハ他ノ理學ニ對シテ附属或ハ補助ノ位ヲ求ム可ク是ヨリ高等ノ地ヲ望ム可カラサルコトヲ論定シ數學ハ格物學ノ

下婢ナリ其下婢タル行狀ヲ守ル可キナリト云ヒ又タ何ノ奇運アリテ其夫人ノ上ニ位スルコトヲ求ムルニ至リシヤハ了解スル能ハスト云ヘリト)蓋シ方便ノ使用ハ實際ノ勞動ニ由テ遂成ス可キコトハ經驗ノ確證スル所ナリ而シテ教育ハ本躰知識ノ獲取ヲ專一トスルモノナレハ生徒ノ努力ハ主トシテ此ニ對向セサル可カラス其方便タル假躰知識ハ此努力ノ施行中偶然之ニ親熟ス可シ換言スレハ生徒ハ能動ノ注意ヲ以テ本躰知識ニ從事スル同時ニ所動ノ注意ヲ以テ假躰知識(即チ言語文字ノ使用及ヒ算術幾何ノ初步等)ノ多分ヲ獲取ス可シ夫レ心神ハ其活動ヲ攪起シ其生長及ヒ幸福ヲ増進スル爲メニ本躰知識ヲ必須スルモノナリ語學、數學ノ心神ニ

於ケルハ恰モ七子又子ノ空腹ニ於ケルカ如シ功能ナキニ非サレト緊要ノ食物即チ知識其物タラサルチ奈何セシ然レト此比較ハ既ニ前段ニ說明セシ如ク只タ初等ノ範圍ニ適合スルノミニシテ高等ノ地位即チ言語數理自個ノ知識ヲ研究スル境遇ニハ穩當ナラサルナリ而シテ本躰知識ヲ供給スル學科ハ復タ二種ニ區分スルコトヲ得ヘシ即チ(一)人類而下ノ現象ヲ講述スル學科及ヒ(二)人類并ニ其事業ヲ講述スル學科是ナリ概シテ格物學或理學及ヒ致知學生理學或生理學若クハ物性學及ヒ人性學ト稱ス蓋シ正說スレハ總テ順序ノ整頓セル知識ノ一科ヲ研究スルコトヲ理學ト稱シ理學ノ指示スル關係ノ定則及ヒ存在ノ因縁ヲ研究スルコトヲ哲學ト稱ス

學科ノ功能

教育上本躰ノ知識ヲ必須スル所以ハ其(一)心力ノ開進ヲ補助シ及ヒ(二)實際ノ利益ヲ給與スルニ在ルナリ然ルニ(假鉢知識ヲ誤認シテ本躰知識ナリト思惟スルノ弊害ハ勿論)本躰知識ト雖モ定規ノ順序ヲ以テ之ヲ注入シ修習ノ時期依從ノ關係共ニ精正ナルニ非サレハ此兩結果ヲ呈出スルヲ得サルナリ故ニ學科ノ功能ヲ考察スルニハ豫メ此事ヲ准過セサル可カラズ總テ雜駁混亂ナル知識ハ損害アルモ利益ナク失策不幸ノ根本ヲ爲スモノナリ(一)先ツ心力ノ開進上ヨリ學科ノ功能ヲ考察スルニ(イ)物性學ハ知覺即チ受識作用ノ啓達ニ欠ク可カラサル形質、

事實及ヒ觀念ヲ給與スルモノナリ而シテ此等ノ諸件ハ皆ナ外界ノ現象ヨリ獲取スル材料ニシテ知覺力ノ發動カ其頂極ノ状態ニ到及スルニハ之ヲ除キテ他ニ依頼ス可キ津梁ナシ且ツ此初步ノ材料ヲ忽諸ニ付スルキハ高等心力即チ用識并ニ斷定力ヲシテ正當ノ作用ヲ完遂セシムルヲ得サルナリ又タ物性學ハ記憶即チ留識力ノ啓達ニ最適スルモノナリ蓋シ記憶ハ觀察(受識)及ヒ反省(用識)及ヒ斷定(發動)ノ結果ヲ貯蓄スルモノナレハ此發動ヲ鼓舞スルニ至良ナル學科ハ即チ其作用ヲ獎勵スルニ至良ナルモノナリ且ツ記憶ノ最高状態ハ聯合律ニ由ルモノナル(ハ既ニ知力ノ概論中ニ明瞭ナリシ)カ物性學ハ殊ニ此律ヲ活用スル傾向アレハ是レ亦タ其功能ノ一部ト

謂フ可シ
(ロ) 人性學ハ物性學ノ提出スル事實及ヒ關係ヨリハ一層錯綜ナル事實及ヒ關係ヲ表呈スルモノナレハ講習ノ順序ハ物性學ノ後ニ在リト雖モ亦タ知覺及ヒ記憶ノ發動ヲ補裨シ即チ之ヲ一層高尚ニスル功能アリ而シテ知覺及ヒ記憶ヲ養成スルニ至重ナル者ハ又タ反省作用ヲシテ至大ナル活動ヲ施爲セシムル者ナレハ人性學ノ反省作用ニ利益アルコトハ亦タ自ラ了然タリ蓋シ本體知識ノ普通ノ効驗ヲ商量スルニ(甲) 事實攻究ノ願望ヲ催起スル傾向アリ詳言スレハ推測ノ下題ヲ精撰密結シ思想ノ基礎ヲ確定シ案項ノ證明ヲ追求スル等ノ習慣ヲ誘出ス可シ而シテ(乙) 此習慣ハ能ク真理ノ愛慕ヲ維持シ因テ守

正ノ情操及ヒ遂善ノ意志ヲ養成ス可シ故ニ本躰知識ヨ
 リ來由スル運智ノ方法ハ實際ノ境界ニ於テハ德義ノ棟
 柱ヲ構立シ品行ノ根據ヲ設置スル者ナリ
 (二) 次ニ學科ノ給與スル利益ヲ考察スルニ(イ) 物性學ハ主
 トシテ人類ノ存在及ヒ幸福ニ欠ク可カラサル知識ヲ包
 含シ其範圍甚タ廣大ニシテ(甲) 無機界(乙) 有機界ノ兩部(即
 チ動物植物)及ヒ(丙) 物(塊并ニ分子ノ作用ヲ統轄スル勢力)ノ
 諸類即チ約言スレハ我カ全環象ノ事實ヲ講明スル者ナ
 レハ其付授スル真理ヲ怠慢スルキハ疾病艱苦死亡等ヲ
 招致ス可ク之ヲ了解スルキハ大ニ此災害ヲ防避スルヲ
 得ヘシ故ニ物性學ノ知識ハ知識總額中ノ第一位ヲ占有
 スル者ナリ殊ニ此學ハ諸工業ノ狀態及ヒ有形世界ノ改

長ニ關係スル者ニシテ初ハ(太古人民ノ)野鄙不熟ノ工業
 ヨリ發起シ漸次ニ其顯示スル事實ヲ聚集シ之カ定律ヲ
 推測セシヨリ翻テ其進歩ヲ補助シ終ニ往昔未曾有現時
 必須ノ成果ヲ產生シ即チ今日チシテ古代ニ超越セシム
 ルモノハ職トシテ之ニ由ルナリ而シテ又チ數學ト合用
 スルキハ土木術及ヒ衛生法ヲ完全ニスル者ナリ蓋シ此
 學ノ元素ハ各處ニ現存シテ我注意ヲ要求シ且ツ我有形
 上ノ幸福ニ關係スルコト極メテ親密ナレハ隨テ我心神
 ニ印象スルコト最モ深強ナリ故ニ他ノ學ノ事項ニ比較
 スレハ獲取ノ勞動僅少ニシテ量頗ル夥多ナル者ナリ
 (ロ) 人性學ハ教育ヲ大成スル爲メニ研究スル者ニシテ其
 包含スル部門ハ(甲) 人類ノ區分(乙) 其地球上ノ配布(丙) 人類

ト其全環象トノ關係(丁)其造化ヲ制御スル事業(戊)其地球上ニ遂行セシ變革(己)心神ノ性質并ニ發動及ヒ(庚)心神三様(即チ智德美)ノ成果是ナリ是等ノ學科ハ頗ル其假躰ノ智識ニノミ止リ易シト雖モ實際ニ活用スルコトハ必ス其本躰ノ智識ニ及達セサル可カラス且ツ其修習法ハ博物學及ヒ其他ノ物性學ニ於ケルカ如ク特殊ノ事項ヨリ正當ノ順序ニ追隨シテ普通ノ定律ニ進着スルコトヲ要求スル者ナリ又チ人性學ヲ了解スルコトハ必ス色界ノ事項及ヒ定律ヲ明知セサル可カラス何トナレハ思想并ニ行爲ハ其境遇ノ差別ニ拘ハラズ皆チ大ニ外部ノ模様ニ關係スル者ナレハナリ例ヘハ各國民ノ性質ハ之ヲ圍繞スル形勢ノ爲メニ著シク陶冶セラレ而シテ此形勢ハ大ニ

色界ノ狀態ニ依從スルカ如シ又チ歷史上ノ事項ヲ會得セントスルコト先ツ其地方ノ實景ヲ熟察スルニ非サレハ能ハサルカ如シ
人性學ノ諸科ノ中最モ教育ニ重要ナル者ハ心理、倫理、社會學及ヒ歴史トス是等ハ各ノ心力ノ開進ヲ補助スル本躰知識ヲ付授シ且ツ其顯出スル真理ハ人類至高ノ幸福ヲ獎勵スルコト必須ニシテ一己ノ行爲及ヒ國民ノ文化ヲ先導スルニ欠ク可カラサル者ナリ(然ルニ心理、倫理及ヒ社會學ノ重要ナルコトハ他ノ講述中ニテ明瞭ナレハ)今マ特ニ歴史學ノ重要ナルコトヲ其三様ノ面像若クハ區分ニ就テ考察スルニ(甲)時代學即チ記錄及ヒ傳説上ノ歴史ハ人類カ自然消長ノ定律ニ隨テ太古未開ノ狀態ヨリ

現今文明ノ形勢ニ及達セシ諸種ノ變化ヲ指示スル者ニシテ國家ノ興亡隆替ニ干與スル箇條ヲ分解シ道德ノ權威ヲ表明シ社會轉動ノ元素中ノ臨時不定ナルモノト恒常確存スルモノトヲ辨別シ個人并ニ國民開進ノ規矩ヲ覺了セシム可シ(乙)博言學ハ傳記ノ缺點ヲ補充シ且ツ其及達スル能ハサル時代ニ遡溯シ大ニ攻究ノ範圍ヲ伸暢スル者ニシテ(單)知識顯出ノ餘資ヲ獲取スル爲メニ止マラス本躰ノ知識ノ爲メニ之ニ從事スルハ人類ノ起原及ヒ命數ノ證據ト爲ス可キ要件ニ遇着スルコトヲ得ルナリ但シ言語ノ組織ハ太古ヨリ現世ニ至ルマテノ心神醇化ノ模様ヲ留藏スルモノナレハ努力シテ之ヲ討尋スレハ大ニ其勞ヲ賠償スルコト足ル成果アル可シ(丙)古物

學ハ即チ往昔ノ牌標器什干戈等ヲ攻究スルモノニシテ言語ノ及達スル能ハサル世期ノ狀態ヲ表呈ス可シ蓋シ古物ハ舊譜ニ載録セサル廢墳遺趾等ヨリ土中ニ埋存セシ雷錘石鏃ノ如キニ至ルマテ皆チ幾分カ過去ノ事實ヲ攜帶シ口碑及ヒ書籍ノ短所ヲ補充シ頗ル人類經歷ノ探索ヲ助成スルモノナリスル略述セシ史學ノ三面像ハ人智開闢ノ初代ニ遡溯シ一個人及ヒ全民族ノ進化ニ關係スル諸元素ヲ認識セシムル者ニシテ單ニ過去ノ事實ヲ通曉セントスル嗜欲ヲ満足セシムルノミナラス我心神ノ能力ヲ完成シ我存在ノ傾向ヲ理解シ我ヲシテ我境遇ニ適應セシムルコト欠ク可カラサル知識ヲ給與スルモノナリ然レモ斯ク多邊深遠ナル學科ハ高等ノ課程ニ係屬

スルモノニシテ初等ノ課程ニ於テ物性學ノ知識ニ熟達
セシ後ニ非サレハ其攻究ノ利益ヲ完有スル能ハサルナ
リ

語學ノ講習

外國語ノ攻究ニハ三種ノ正鵠アリ (一) 獲識及ヒ表識ノ方
便ヲ増加スルコト其一ナリ蓋シ語學ノ初歩ニハ言辭ノ
意義及ヒ特有ノ話則ヲ主トセサル可カラズ是レ固ヨリ
本躰ノ知識ヲ付授スルニ非ス唯タ之ヲ獲取スル津梁ヲ
給與スルモノナレハ方便トシテハ有用ナレモ目的トシ
テハ甚タ貴重スルコト足ラサルナリ但シ外國語ニ熟達ス
ルキハ交通ノ媒介ヲ増加シ因テ貴重ナル目的ヲ遂行ス

ルコト有レテ熟達スルニ至ラスシテ止ムキハ寧ロ之ニ
消費スル時間ヲ以テ我國語ヲ完修スルノ利益アルコト如
カス (二) 外國ノ文章ヲ會得スルコト其二ナリ此目的ヲ以
テ外國語ヲ攻究スルハ高等ノ課程ニ係屬スルモノニシ
テ其成果ハ心神ノ開進及ヒ練習ニ在ルナリ但シ純粹文
章ノ真味ヲ賞玩スルニハ必ス其言語ニ熟達セサル可カ
ラサレテ理學哲學ノ如キハ其譯書ニテモ均シク之ヲ了
解スルコトヲ得ヘシ且ツ純粹文章上ノ著述トテモ未タ
熟達セサル原語ニテ之ヲ攻究スルヨリハ寧ロ其長譯書
ニ就キ之ヲ賞玩スルノ好趣アルニ如カス (三) 博言學ヲ補
助スルコト其三ナリ人類歷史上ノ事實ヲ探索シ及ヒ言
語自個ノ定律ヲ發明スル爲メニハ外國ノ文辭ヲ攻究ス

ル必要アリト雖是レ亦タ高等若クハ専門ノ課程ニシテ一種特別ノ學業ヲ大成スル媒介タルノミ又タ古語ノ攻究ニ就キ(テハ之ト數學及ヒ物性學トノ効驗比較ヨリ發起スル諸種ノ議論アレハ此處ニハ唯タ)專ラ之ヲ以テ普通學ノ基礎ト爲サントスル得失ヲ畧考スルニ拉丁及ヒ希臘語ノ修習ヲ主張スルモノハ(一)此等ノ古語ハ數百年間諸大家ノ職トシテ使用セシモノナレハ之ノ外他ニ完全廣濶ナル知識ヲ獲取スル媒介ナシ(二)廣濶ナル學問ハ必ス古代ノ生活及ヒ思想等ノ知識ヲ包含ス可シ(三)古語ノ修習ハ長久ノ耐忍注意ヲ要求スルカ故ニ心神ヲ嚴密ニ鍛鍊スル功能アリ(四)古語ヲ翻譯スルコトハ國語使用上ノ辨別力ヲ養成ス可シ(五)古語ニ熟達ス

ルコトハ總テ現世ノ國語ヲ了解スルニ必須ナリ等ノ利益ヲ列舉暢述スルト雖是レ此等古語ノ修習ヲ以テ尋常課業ノ一部ト爲スハ到底實際ニ適合セサルコトナリ何トナレハ普通學校ニ於テハ右ノ(主張者ノ思惟スル如キ)成果ヲ呈出スルニ至ルマテ此等ノ課業ニ従事スルコト能ハサレハナリ故ニ第一第二及ヒ第五ノ利益ハ全ク無功タル可シ第三ノ利益即チ心神ノ鍛鍊ニ至リテハ必シモ古語ノ攻究ヲ以テ其最良方便ト爲スヲ得ス數學及ヒ物理學ハ或ハ之ニ超過スル効驗アル可シ殊ニ心神ノ自動勢力及ヒ發明作用ヲ攪起スルニハ物性學ヲ以テ其最良方便ト爲ス可キコトハ更ニ疑議スルモノナシ又タ第四ノ利益即チ辨別力ヲ養成ニ至リテハ現世ノ國語ヲ修習

スルモ亦タ同様ノ成果ヲ呈出ス可シ必シモ古代ノ死語ニ拘泥スルノ理由ナキナリ
前段ノ講述ニ由リ語學論ノ要點ヲ枚舉スルコト左ノ如シ

第一 言語ノ多分ハ其使用中遇然ニ之ヲ獲識ス可シ
(而シテ此獲識ハ幼稚ノ時期ヨリ始マリ生涯絶止スルコトナシ)

第二 文法學又ハ博言學ノ形式ニテ直接ニ言語ヲ攻究スルコトハ(心理學ニ近密ナル主義ヲ包含スルモノナレハ)高等ノ學科ニ係屬ス可シ

第三 我國語ノ攻究ハ(最モ直接ニ言語ノ熟達ニ誘導スルモノナレハ)諸語學ノ基本ト爲ス可シ

第四 古語ノ攻究ハ(普通ノ學科ト爲スヨリハ軍ロ)一種特別ノ事業ニ係屬ス可シ之ヲ現今教育ノ基本又ハ學問完成ノ專方ナリト思惟スルハ理由ナキナリ

第五 右ニ枚舉シタル次第ヲ顛倒シ言語ノ攻究ヲ以テ教授ノ基本ト爲スハ心神生長ノ定律ニ違背スル(コトニシテ言語ヲ以テ觀念ニ代用シ心力ヲ空論ニ徒費シ眞理事實ヲ忽諸ニスル)弊習ヲ釀成ス可シ

結案

學科價格論ノ歸着スル主要點ヲ約述スルコト左ノ如シ

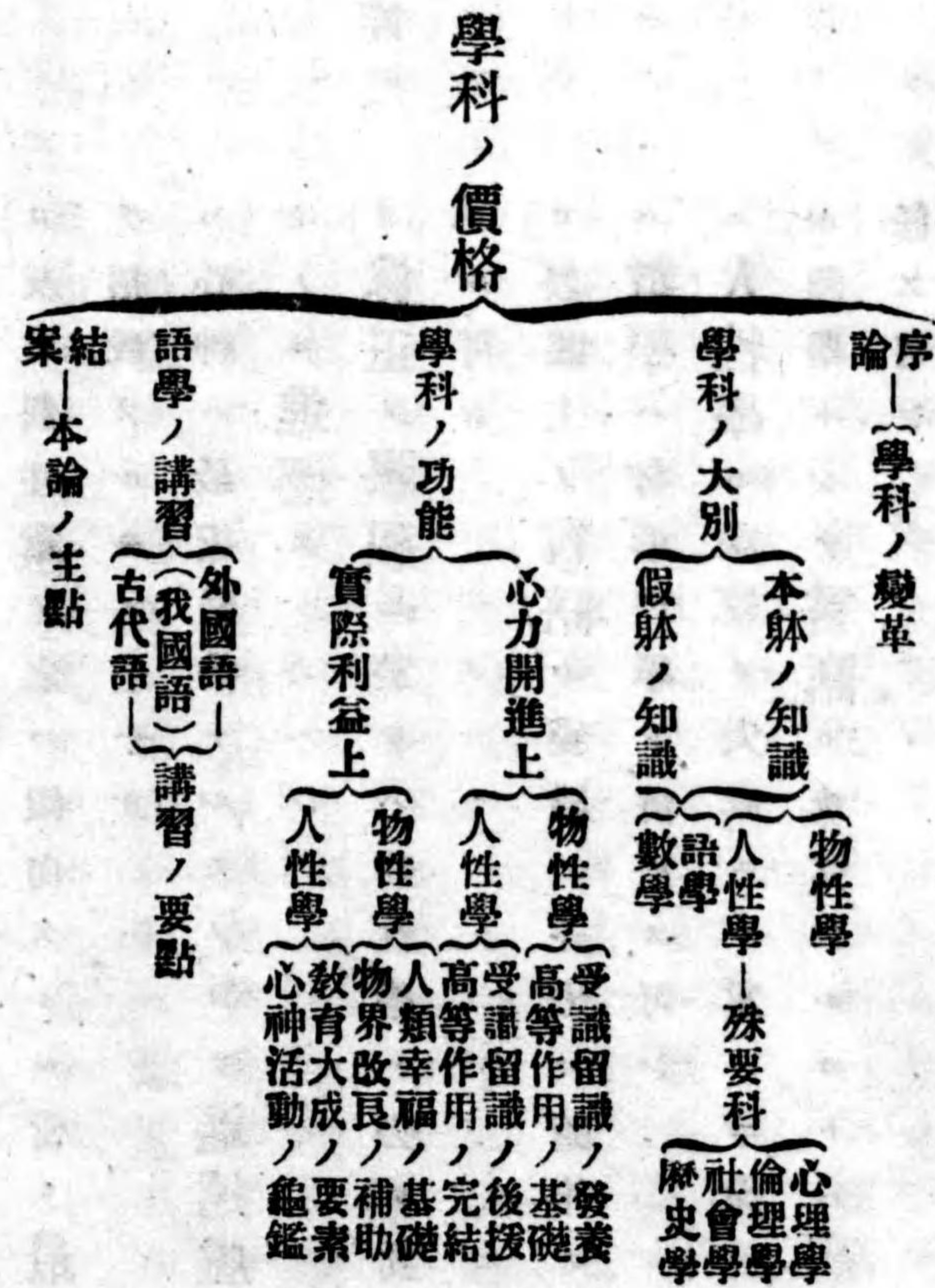
第一

- (イ) 本躰ノ知識ハ心神ノ開進并ニ實際ノ功用ニ必須ナル材料ナリ
 - (ロ) 心神ノ開進ニ最要ナル學科ハ我生活ニ最大ノ關係アルモノ是ナリ
 - (ハ) 心神ノ正規生長ヲ獎勵スル順序ハ依從ノ定律ニ基ツキ理學諸科ヲ教授スル順序ニ符合スルモノナリ
 - (ニ) 心神ノ諸能ヲ攪起スルニ最効アル方法ハ理學中ノ眞義ヲ啓發スルニ最適スルモノ是ナリ
- 第二
- (イ) 教育ノ二大目的(即チ開進并ニ功用ヲ獎勵スルニ最良ナル知識ノ種類ハ我ニ最近シテ我注意ヲ攪起スルコト最強ナルモノ是ナリ)

第三

- (ロ) 及ヒ我注意ノ之ニ傾向スルニ當リ最大ノ興味ヲ招致スルモノ是ナリ
 - (ハ) 心神ハ最近最易ナルモノヨリ遙遠虛形難知ノモノニ進遷ス
- 第三
- (イ) 眞正ノ課程ニ於テハ物性學ハ必ス其一基本ト爲ル可シ
 - (ロ) 表識上ノ言語ハ獲識ノ各歩ニ隨伴ス可シ
 - (ハ) 數學ハ有形理學ト併用ス可シ
 - (ニ) 人性學ハ課程ヲ大成スル爲メニ採用ス可シ
 - (ホ) 理學トシテ言語ヲ攻究スルコトハ高等科ニ托任ス可シ

右講義ノ圖表



第五講 教育ノ略史(第二)

序論

既ニ教育ノ大意授業ノ方法學科ノ價格等教育全部ニ通
 涉スル主項ヲ解釋シ次テ教育ノ區分(即チ體智德三育)中
 ノ細件ヲ論究スルニ先タテ聊カ歐米教育制度ノ今日ノ
 狀態ニ進達セシ由來ヲ演談ス可シ抑モ教育ノ學理ヲ講
 明スルニ或ハ其沿革ヲ以テ之カ第一歩ト爲シ歸納牀ヲ
 採用シテ漸々ニ其全体ノ範圍ヲ確定シ終局ニ於テ其區
 分ノ特項ヲ指示スル者アリ又々或ハ其大意ヨリ開緒シ
 テ其區分ニ說及シ而シテ其歷史ヲ以テ收尾スル者アリ
 蓋シ教育ノ歷史ハ教育ナル觀念ヲ諸種異様ニ實施セシ

成果ヲ載録スルモノナレハ之ヲ了解スルニ先タテ大凡
 ソ其大意ヲ考察セサル可カラズ故ニ其大意ヲ第一步ニ
 表出スルハ講明順序ノ其宜ヲ得タルモノナリ然ルニ其
 區分ノ委細ニ至リテハ必ス現今目下ノ事情ニ密接シ即
 テ其當世實施ノ狀態ヲ包含シ而シテ此狀態ハ復タ必ス
 其進化ノ階梯ナキ能ハサルモノナリ故ニ未タ其由來ヲ
 指示セスシテ直ニ之ニ説及スルハ講明ノ正路ニ背反ス
 ルモノナレハ是ヨリ姑ク其沿革ノ要點ヲ叙記スルハ全
 シ道理ナキコトニ非ス但シ此事ハ聽講者ノ既ニ自得ス
 ル所ナル可シト雖モ第一講ノ序論ニ回顧シ聊カ焉レヲ
 補充スルノミ(教育史ヲ以テ教育學ノ第一步ト爲スハ獨
 乙ノ哲學者ヲウロノ主唱セシ所ナリ)

古代ノ學校

宗教改革以前ノ歐洲教育ノ軀裁ヲ考察スルニ民庶ハ全
 シ無識文盲ノ境界ニ屈居シ讀書習字ノ如キハ唯タ上流
 社會ノ專有セル妙技ニシテ(其中ニモ善ク之ニ熟達スル
 モノ甚タ鮮少ナリ)高等教育ハ僧徒ノ指間ニ檢束セラレ
 宗門ノ利益ノ外ニハ殆ト之ヲ施行セス公衆普通學校ノ
 觀念ノ如キハ毫末モ世人ノ頭腦ニ存在セサル所ナルノ
 ミナラス平民教育ノ事業ハ當時ノ形勢ニ背反セシ者ニ
 シテ社會改進ノ思想ヲ享有スル識者ト雖モ未タ其觀念
 ニ遇着セス謂ハユル文明ナル者ハ實ニ之ヲ期望ス可カ
 ラサル景況ヲ表呈セリ然ルニ印刷術ノ創起及ヒ宗教改

革ニ伴生セシ事情ハ盛ニ讀書學校ノ需要ヲ擴張シ逐次ニ其設立ヲ蔓延シ終ニ歐洲中ノ最モ開化セシ地方ニハ其甚タ普通ノ物象ト爲ルニ至レリ而シテ是等學校ハ一分ハ從來習慣ノ勢力ニ由リ一分ハ之ヲ管理スルニ足ル良師ナキニ由リ復タ自然ニ僧徒ノ掌握スル所トナリ其課業ハ綴字及ヒ讀書ノ初歩、宗教條目ノ問答、格言要訣ノ請記等ニシテ或ハ之ニ習字科ヲ加入セリ然レド其教授ノ方法ハ徹頭徹尾機械様ニシテ生徒ノ理解力ヲ發達セシムルコト及ヒ其實用トナル可キ知識ヲ給與スルコトノ如キハ未タ是等學校ノ掛慮セサル所タリ且ツ又タ是等學校ノ教員ニシテ偶マ僧徒ノ列内ニ在ラサル者ハ皆ナ被創兵卒カ若クハ老衰人ニシテ教授ノ才能アルカ爲

メニ其職ヲ得タルニ非ス唯タ他餘ノ業務ニ適合セス將來貧困シテ社會ノ負擔トナル可キ恐アレハ便宜上之ニ登任セラレシモノナリ而シテ歐洲ノ平民學校ハ第十八世紀ニ至ルマテハ概テ此狀態ヲ變更セス尋常教育ノ價格ハ眞ニ最下ノ程度ニ止レリ是ノ時ニ當リルソウ佛國ニ奮起シ社會組織ノ新想ヲ構成シ兼テ普通教育ノ考案ヲ提出シ大ニ世人ノ眼界ヲ開拓セリ

ヘスタロッチー

ヨハン、ハインリヒ、ペスタロッチーハ紀元千七百四十六年一月十二日瑞西チウリヒ府ニ出生シ博愛ノ資性アリテ常ニ同衆權理ノ其平ヲ得サルコトヲ憂慮セリ而シテ

ソウ(ヨリ少キコト三十四歳)ノ著書ヲ閱讀スルニ至リ更ニ其感慨ヲ増發シ奮勵シテ社會ノ公益ヲ謀圖シ殊ニ普通教育ノ實施ニ熱心シ其問題ニ就キ數多ノ論策ヲ提出シ又タ「リエンハルト」並ニケルツルト「ナル小説ヲ作爲シ其中ニ家庭教育ノ意見ヲ吐露シ大ニ同邦及ヒ獨乙人民ノ喝采ヲ博得セリ終ニ自ラ私校ヲノイホフノ田園ニ創立シベルン府ノ惡少年ヲ聚集シ教訓ヲ丁寧ニシテ其醜性ヲ洗滌スルコトニ努力セリ是ヲ近世文明諸國ニ流行スル勸化學校ノ嚆矢トス然レモ此舉ハ其統轄ノ能量ヲ欠缺スルコト、教員タルノ經驗ニ淺薄ナルコト及ヒ會計ノ管理ニ拙劣ナルコトヨリシテ全ク失敗シ爲メニ其家産ヲ傾盡シ齡五十三歳ニシテ無職無財ノ厄難ニ際會セリ

是ノ時ニ當リ佛蘭士ニ革命ノ大乱アリテ瑞西モ亦タ烈ク其兵害ヲ招致シルツアル湖ノ南岸ハ只タスタンツノ孤村ヲ除キ舉テ空漠タル焦土ト爲リ窮民ノ情狀ハ實ニ慘怛ヲ極メリ因テペスタロッチハ仁惠者ニ倚頼シテ義金ヲ釀合シスタンツノ一廢寺ヲ假用シテ寄宿學校ヲ開設シ無告不幸ノ小兒ヲ入舍セシメ之ニ衣食之ト起臥シ以テ教訓ノ事業ニ黽勉セリ然レモ書籍器械等ヲ購求スル餘資ナケレハ學科ハ已ヲ得ス之ヲ口授シ何物ニテモ生徒ノ知欲ニ適應シ其興味ヲ攬起スルニ足ル者ハ總テ之ヲ教訓ノ媒介トセリ一日梯子ノ義理ヲ説明セントシテ其圖ヲ探覓スレモ得ル能ハス頗ル困却ノ容貌アリ一生徒突然大呼シテ曰ク「先生、戶外ニ眞ノ梯子アリ以テ圖

ニ代フ可キカト是ニ於テベスロツチハ立トコロニ實物ノ其代標ニ優勝スルコトヲ發見セリ是ヲ實物教授ノ嚆矢トス斯クシテ此學校ハ著明ナル成績ヲ表呈シ世人ノ欽仰ヲ招致シ其生徒ハ疾速ニ實物ヲ了解スルニ至リ且ツ其實物ニ傾射セシ注意ハ決シテ讀書及ヒ習字ノ進歩ヲ妨碍スルコトナク却テ之ヲ獎勵スル影響アリテ課業勤勉ノ倦厭ヲ防禦シ從前ハ苦難ノ科目モ今ハ反テ快樂ヲ催起スル方便ト爲レリ而シテ此智育ノ狀勢ト此學校ノ特態トハ相ヒ牽連シテ莫大ナル奮激ヲ德行ノ養成上ニ波及シタレハペスタロッチハ其眞正教育ノ結果タリト思惟スル公義及ヒ善愛ノ要則ヲ容易ニ生徒ノ心底ニ通徹スルコトヲ得タリ一日近村ニ火災アリテ數多ノ小兒

其不幸ニ困惑スルニ當リ全校ノ生徒ハ之ニ已ノ寢食ヲ分與シテ只管ラ其救助ニ努力セリ是レ其德育成績ノ一例ナリ此學校開設後僅ニ一年ニシテ佛軍再ヒ來侵シ兵營ヲ造作スルカ爲メ終ニ之ヲ破壊セリペスタロッチハ毫モ其素志ヲ廢絶セズ直ニ教職ヲ請求シテブルクドルフ小學校ノ助手ト爲レリ然ルニ其教授改新法ノ校長ノ意見ニ適合セサルカ爲メ即時ニ罷免セラレ次ニ一老婆ノ管理セル最下等ノ小學ニ從事シ此最下等ノ小學ニ於テ甚シク教授ノ大功ヲ顯示シ政府ノ着眼スル所ト爲リ終ニ其才力ニ相當スル地位ニ昇進シ校舍ヲブルクドルフノ舊城ニ開設シ始テ充分ニ其理想ヲ實施スル機會ヲ得タリ然レト事變ノ爲メ亦タ永ク此ニ留居スルヲ得ス後

ナ二年ニシテ廢校シ次テ之ヲノイシヤテル湖上ノイッエル
 ドンニ再興シ二十二年之ニ從事シ一千八百二十五年(即
 ナ其長逝ノ前二年)ニ至ルマテ之ヲ維持セリ而シテ其改
 新法ハ瑞西及ヒ獨乙ノ教育大家ノ注意ヲ攪起シ其榮名
 一世ニ雷轟シ諸國政府ノ特遣學生及ヒ四方ノ有志者ハ
 陸續イッエルドンニ輻湊シテ此法ヲ修習シ終ニ各ノ之ヲ
 其郷里ニ傳播シ以テ教育歸正ノ基本ヲ定立セリ
 ペスタロッチ教育法ノ第一ノ主義ハ心神ノ諸能力ハ定規
 ノ順序ニ由テ進達スルモノナレハ學科ハ必ス此進達ノ
 各歩ニ適切ニシテ且ツ直接ニ其第二步ヲ補助ス可キモ
 ノヲ精撰スルコト是ナリ此主義ハ従前ノ教育法ニ於テ
 ハ全ク度外視セシ所ナリ第二ノ主義ハ人民ノ智徳ヲ養

成スルニハ家庭教育ノ充全ヲ必須スルコト是ナリ蓋シ
 ペスタロッチハ小兒ノ其家庭ニ於テ身軀心神ノ需要ヲ欲
 乏シ且ツ惡例偽訓ハ爲メニ其自然正當ノ本性ヲ殘害セ
 ラル、コトヲ發見シ因テ先ツ此事ニ關係スル舊習ノ改
 革ヲ主張セリ第三ノ主義ハ家庭教育ハ主トシテ母親ノ
 感化力ニ由ルモノナレハ母親タル可キ婦女ノ教育ヲ重
 大ニスルコト是ナリ此主義ハ家庭教育ヲ善良ニシ母親
 感化力ヲ充全ニスルコト可カラサル基礎ニシテペス
 タロッチハ實際上徒ニ家庭教育ヲ擴張スルノ謬誤ヲ發見
 シ因テ此主義ニ遇着セリ第四ノ主義ハ教員タルモノハ
 小兒ヲ以テ其考究ノ題項ト爲シ緻密ニ之カ心力ノ活動
 ヲ探索スルコト是ナリ精神學ノ純理ハ教育大軀ノ先導

タルニ足ルト雖也其特別ノ事情ニ至リテハ固ヨリ普通心理ノ到及スル所ニ非ズ故ニ此事情ニ適應スル先導ハ必ス之ヲ各生徒ノ個性中ニ討尋セサルヲ得ス是レ初等教育ノ善良ヲ企謀スルニ至要ノ主義ナリ第五ノ主義ハ學校ノ課業ハ總テ小兒ノ實際經驗ニ基本ス可キコト是ナリ故ニ教場内ノ演習ハ情狀ノ允許スル範圍ニテハ務メテ之ヲ生徒ノ學校外ニテ興味ヲ包有スル事項ニ符合セシメ科目ハ必ス生徒ノ既知件ヨリ開緒セサル可カラ

ス第六ベスタロッチノ諸論說中ニ最明ナル事項ハ書籍上ノ講修ニ先タテ必ス實物ヲ規律正シク攻究ス可キコト是ナリ而シテ世人ハ之ヲ以テ此改革家ノ至著ノ主義ト爲セリ但シ觀察力ハ宜シク實物ノ攻究ヲ以テ研磨スヘ

キモノニシテ書籍ノ利用ハ單ニ經驗上ノ知識ヲ追補スルニ在リトハベスタロッチノ理想并ニ實行ノ指示スル所タルノミナラス爾來其方法ニ據リテ設置セシ諸學校ノ科目ニ就キテモ亦之ヲ覺知スルコトヲ得ヘシ(實物教授論ヲ參考セヨ)而シテベスタロッチヲ評論スル者ハ往々其直接經驗及ヒ實物教授ヲ過重セシコトヲ非難スレモ斯ノ如キ失歩ハ舊弊一新者タルノ事業ヲ遂行スルニハ殆ント免脱スル能ハサル反動ニシテ只タ漸次ニ其正路ニ復歸スルモノナリ而シテ此改革ヨリ産出セシ美果ニ至リテハ眞ニ人間幸福ノ一幫助トシテ永ク後世ニ留存ス可シ第七ベスタロッチノ最モ固執セシ主義ハ教育ノ勞動ハ總テ生徒ノ善行ヲ完成スル傾向ヲ含蓄セサル可カ

ラス即チ知識ノ價格ハ主トシテ其道德ヲ勸進スルニ在
ルモノナリト云フコトニシテ亦タ其著書及ヒ事業中ニ
絶エス之ヲ指示セリ蓋シ教育ニシテ此元素ヲ遺漏セハ
他ニ如何ナル有益ノ部分アルモ尙ホ之ヲ未完無功ノ教
育ト謂ハサルヲ得ス夫レ上陳ノ諸主義ハ各ノ真正ノ普
通教育ニ欠ク可カラサル要件ヲ包有スル者ニシテ古來
ヨリ多少之ニ注意セシモノ無キニ非サレハ悉皆統合シ
テ之ヲ實舉セント企圖セシモノハ獨リペスタロッチニ發
端セリ故ニ近世教育ニ從事スルモノハ皆ナ之ヲ其師宗
トス而シテ余輩ノ最モ必須スル所ハ即チペスタロッチノ
精神是ナリ(ペスタロッチノ傳記ハ教員タルモノ、常ニ服
用ス可キ良藥ナリ)

附 論

ペスタロッチノ理論及ヒ實驗ノ衝動ハ單ニ其摸倣者ヲ發
生シ普通教育即チ小學事業ノ裨裁ヲ改進セシニ止マラ
ス其主義ハ諸種ノ方法ニテ應用セラレ諸種ノ試行ヲ經
歴シテ或ハ特殊ノ線路ニ於テ重大ナル成果ヲ産出スル
ニ至レリ蓋シペスタロッチノ始テ主唱セシ考案中ニハ眞
正教育ノ過半ハ個人日常ノ職業ヲ組織スル勤勞ニ依テ
獲得セラル可シト云フ條項アリテ亦タ自ラ之ヲノイホ
フノ學校ニ試行シタレハ其成功ヲ得ス而シテ其後ハ他
ノ事情ノ爲メニ阻抑セラレテ其實驗ヲ中絶セリ然ルニ
其友人ド、フェレンベルグナルモノ深ク此計畫ニ左袒シ

自ラ其實験ニ努力シ遂ニ一ノ農學校ヲ設立シ生徒ヲシテ純粹ノ修學ト共ニ田園ノ耕作ニ從事セシメシカ其裨益甚ク潤大ニシテ其卒業後ニ至リ單ニ諸學科ニ熟達スルノミナラス亦ター一二ノ實務ニ通曉シ就中身躰ノ勤勞ニ適當ス可キ筋肉ノ鍛鍊ヲ完全セリ斯ク成功ノ著明ナリシカ爲メド、フェレンベルグノ標式ハ佛蘭西并ニ獨乙國ニ於テ廣ク之ヲ摸倣シ爾來歐洲全般及ヒ北米聯邦ニ傳播シ現今殆ト各文明國ニ設置セル農學校ハ皆ナ之カ直接ノ結果ニシテ工藝及ヒ商業學校モ亦タ間接ニ之ヨリ發生セシモノナリ而シテ此同主義ヲ大ニ幼稚ノ教育ニ應用セシモノヲフリードリッヒ、フリオベルトス

フリードリッヒ、フリオベルトスハ紀元千七百八十二年四月廿一日

獨乙聯邦シユワルツブルヒ、ルドルフスタット公國ニ出生ス亦タ博愛ノ資性アリテ人類ノ改進ニ熱心シ頗リニ其觀察ニ匪勉シ終ニ惡徳ノ第一要因ハ幼稚ノ時期ニ於テ諸種ノ曲癖ヲ獲得スルニ在ルコトヲ看破シ即チ小兒ノ自然無毒ナル本質及ヒ傾向ハ家庭并ニ庠序教育ノ其宜ヲ得サルカ爲メニ造化ノ定道ヲ失却シ秀達ノ方針ヲ過誤スルコト第二ニ已ニ不善ノ行爲ニ習熟シタル資性ノ矯正回復ハ甚ク難事タルコトヲ了解セリ而シテフリオベルトハ深クペスタロツチーノ主義ニ同意シ其教育法ハ最モ天理ニ和合スルコトヲ確信シ之ヲ幼稚ノ訓練ニ應用シテ謂ハユル幼稚園ヲ創立セリ幼稚園トハ其文字ノ直示スルカ如ク小兒ヲ培養スル場所ニシテフリオベルトノ計畫ハ

小兒ノ一群ヲ聚集シテ其自發ノ行爲ヲシテ其完全ノ育
成ヲ補助セシム可キ境遇ニ之ヲ放入シ師傳タルモノハ
單ニ其本然ノ活動性ヲシテ自由ニ運轉スル機會ヲ占有
シ且ツ善良正當ナル方向ニ進歩セシムルコトヲ本務ト
スルモノナリ而シテ此計畫ハ亦著大ナル功蹟ヲ表呈
シ教育家ハ多ク之ニ歸依シ獨乙全邦ハ勿論文明諸國ハ
殆ト皆ナ此摸本ニ由テ幼稚園ヲ設立スルニ至レリ
フリッセル教育法ノ第一主義ハ小兒ニハ其祖先ヨリ遺傳
セシ勢力并ニ趨向アリテ其思想及ヒ行爲ノ方針ハ概シ
之カ爲メニ制御セラル、者ナレトモ教育ハ大ニ之ヲ變更
スルニ足レリト云フコト是ナリ此主義ハ「子供ノ心ハ白
紙ナリ何事ニテモ焉ニ寫スコトヲ得ヘシ」ト云ヒ「教育ハ

殆ト心ノ自然ノ傾ヲ改ムルコト能ハス」ト云フ兩極端說
ノ中間ニ在ルモノニシテ且ツ一代ノ教育ハ次代ノ勢力
趨向ト爲ルコトヲ明示セリ第二ノ主義ハ教育ハ自覺存
在ノ最初ヨリ施行ス可キコト是ナリ幼稚ノ時期ニ獲得
セシ印象ハ強ク心中ニ固定スルモノニシテ之ヲ拔除ス
ルコト甚々容易ナラサレハ小兒撫育ノ當任者(殊ニ母親)
ハ力メテ其(子ノ)能力ニ適合スル善良ノ事物ヲ精選シ以
テ其官覺ノ材料ト爲サ、ル可カラス但シ學校ノ教育ハ
唯々家庭ニ於テ開緒セシモノヲ補成スルニ過キサレナ
リ第三ノ主義ハ小兒ノ教育ハ其自發活動ヲ基本ト爲ス
可キコト是ナリ小兒本然ノ需要ハ其心欲ヲ激起シ其心
欲ハ特殊ノ活動ヲ生出ス此等ノ活動ヨリ其需要ニ遡沂

シ且ツ之ヲ誘導シ由テ其永久ノ幸福ヲ幫助スルハ眞正
 教育法ノ至務トス可キ所ナリ第四ノ主義ハ學校ノ授業
 ハ總テ快樂ヲ攪促ス可キモノタルヲ要求スルコト是ナ
 リ蓋シ小兒ノ快樂ト爲ル可キ事物ハ概シテ其啓發ヲ獎
 勵スルモノナリ然ルニ從來ノ教育法ニ於テハ學科ハ其
 興味ノ分量ニ逆比例シテ其價值ノ多寡ヲ計算シ而シテ
 修練ハ自然ノ傾向ヲ満足セシムルヨリハ寧ロ之ヲ阻抑
 スルコトニ努力セリ故ニ此主義ハ特ニ一種ノ實理ヲ表
 明スルノミナラス判然舊法ニ抗對シタルモノナリ然レ
 モ茲ニ謂ハユル快樂ハ天稟必須ノ満足ノミニ止マレハ
 之ト偽性并ニ弊習ヨリ來由スルモノトヲ辨別スルコト
 ハ教員ノ深ク注意ス可キ所ナリ第五ノ主義ハ教育ハ心

神活動ト身軀活動トヲ結合セサル可カラサルコト是ナ
 リ但シ雙手ハ工作ノ最要器械ニシテ其正確ノ運用ハ日
 常ノ勤勞ニ緊要ナル者ナレハ心神ノ訓誨ト共ニ之ヲ鍛
 鍊スルコトハ幼稚教育ノ一成分ト爲サザルヲ得ス且ツ
 又々此鍛鍊ハ大ニ心神ノ進達ヲ補裨スルモノヨシテ感
 覺ノ印象ヲ鞏固ニシ事物關係ノ發明ヲ容易ニシ及ヒ執
 意作用ノ一器械ヲ完全ニスル利益アルナリ第六ノ主義
 ハ各種ノ能力ハ其初發ノ時期ヨリ鍛鍊セサル可カラサ
 ルコト是ナリ夫レ諸能力ノ養成ハ相當ノ次第アルモノ
 ナリト雖モ其平均調和ノ進達ヲ得ルニハ其各個現在ノ
 活動ニ比例シテ之カ鍛鍊ノ度量ヲ制定シ依テ之カ正規
 ノ生長ヲ獎勵セサル可カラス蓋シ此等ノ諸主義ヲ實施

スル教育法ハ第一(筋肉ノ鍛鍊殊ニ雙手ノ操修ニ注意シテ)身軀ノ生長並ニ安寧第二(ベスタロッチノ指示セル順序ニ追隨シテ)心力ノ漸次進達第三(德行ヲ奮勵ス可キ諸媒介ヲ窮盡シテ)道義上ノ養成第四(美妙高妙ノ思念ヲ啓發シテ)風致上ノ醇化ヲ含有セサル可カラス而シテ此四重法ノ結果ハ人タルモノ、性命ヲ完遂スルニ必須ナル諸津梁ヲ構立スルモノナリ

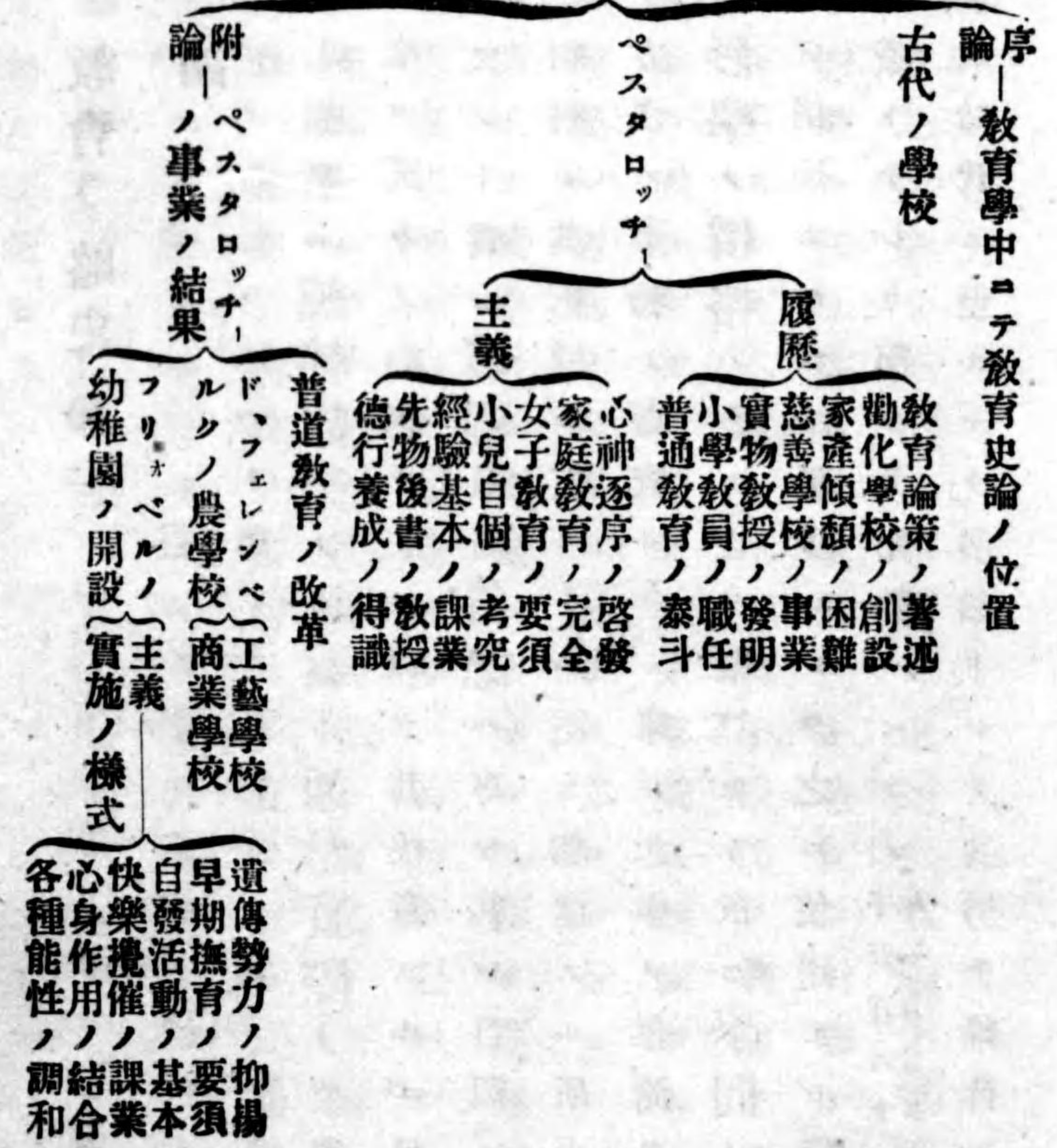
幼稚園ノ教育ハ凡ソ三歳ヨリ五六歳マテノ小兒ニ施用ス可キ者ニシテ此等ノ小兒ヲ爽快ナル場所ニ聚集シ諸遊戯ニ必須ナル器具ヲ給與シ且ツ此器具ノ過多ナラサルコトニ注意シ(過多ナルキハ小兒ノ心神ヲ惑亂シテ不安ノ感情ヲ惹起ス可シ)而シテ遊戯ノ種類ハ小兒本然ノ

傾向ニ從テ之ヲ制定シ唯々其方法ニ至リテハ教員自ラ之ヲ指導シ必ス緊要ナル學科ノ其中ニ成立スルコトヲ本務トス可シ斯クシテ遊戯ハ總テ勤勞ト爲リ勤勞ハ總テ遊戯ト爲ルナリ然レモ此勤勞ヲ指導スルニ決シテ其説明及ヒ干涉ヲ過度ニスルコトナク生徒ヲ自ラ其必須ノ真理ヲ發見シ因テ自ラ其創造力ヲ開進セシメサル可カラス而シテ此事ハ畫作及ヒ手工ニ由テ能ク大功ヲ奏呈スルモノナリ又タ小兒ノ愛唱スル歌謠ハ其音聲及ヒ運動ノ調和ヲ得ルニ適當スル者ナレハ其美育ヲ獎進スル一助トシテ之ヲ採用スルコトヲ得ヘク又タ其泥沙ノ遊戯ハ變成シテ粘土模像ノ修練トスルコトヲ得ヘシ蓋シフリアベルハ心物兩界中ニ無盡ノ秩序ヲ發見シ教

育ハ徹頭徹尾此秩序ヲ遵奉セサル可カラサルコトヲ確
 信シ因テ造化ノ儀型ヲ以テ小兒ノ玩具ト爲シ自然ノ妙
 理ヲ以テ遊戯ノ規律ト爲セリ而シテ此規律ノ實際ノ施
 行即チ幼稚園教授法ノ特殊ノ細件ヲ討究スルコトハ總
 テ教員タルモノ、必勉ス可キ所ニシテ之ヲ詳知スルハ
 ハ何等ノ授業ニ從事スルモ能ク之ニ興味ヲ付與シ且ツ
 之カ改正ヲ計畫スルコトヲ得ヘシ而シテ教育者ノ最モ
 注意ス可キコトハ幼稚園ト學校トノ區別是ナリ近來處
 々ニ開設スル幼稚園ヲ觀察スルニ其方法徹頭徹尾學校
 ヲ摸擬シ大ニ幼稚ノ發達ヲ殘害スル恐アラサルナシ

右講義ノ圖表

教育ノ略史第(一)



第五講 教育ノ略史(第二)

序論

古代ノ學者ハ嚴酷ニ純粹思察ノ成果ト通常實際ノ要須トヲ區別シ唯々冥々ノ心想ノミヲ以テ其注意スルニ足ル價格アルモノト爲シ眞理及ヒ善徳ハ專ラ其レ自個ノ爲メニ之ヲ討尋シ其影響ニ至リテハ更ニ顧慮スル所ナク其學問ノ方法ハ事物ノ審査ヨリハ寧ロ念中ノ推測ヲ主務トシ有形學ノ價格ハ全ク之ヲ輕算セリ故ニ學問ノ成果ハ人類ヲ補裨スルコト稀少ニシテ之ニ使用セシ能量ハ概テ徒費トナレリ而シテ此弊ハ千五百六十一年四月九日死ヘーコン千五百六十一年一月廿日生ノ時代ニ至ルマテ依然トシテ其勢ヲ維持セ

リヘーコン始テ之ヲ論シテ曰ク學問ノ正鵠ハ人類ノ福素ヲ増加スル結果ニ在リ而シテ其眞法ハ造化ヲ討尋シテ之カ定則ヲ解明スルコト是ナリト爾來學問ハ利用ヲ以テ其精神ト爲シ因テ大ニ人類ノ安樂幸榮ヲ助成スルノミナラス純想並ニ道德ノ範圍ニ於テモ亦タ從前ヨリ一層宏壯ナル結果ヲ發生スルニ至レリ蓋シ人類ノ要須ヲ度外視スル思察作用ハ終ニ架空談夢ノ弊習ヲ招致シ知力ノ能量ヲ滅却スルノミ之ニ反シ人類ノ實益ヲ企圖スル知力ノ活動ハ純想ノ度位ヲ高尚ニシ且ツ著シク其能量ヲ増加スルコトハ言ヲ踐タスシテ瞭然タリハックスレーハ現今ノ學者カヘーコンノ主義ニ隨ヒ使用スル攻究法ノ順序ヲ左ノ如ク陳述セリ

第一 事實ノ觀察(但シ試驗ト稱スル意匠觀察ヲモ包

含ス)自然現象ノ器械觀察ヲ併テ試驗ト稱ス

第二 比較及ヒ彙類(肖似ノ事實ヲ結束シ將來ノ使用

ニ具備スル爲メ毎束ニ票札ヲ貼付ス是レ即チ
普通名題ナリ)

第三 演繹(ハ普通名題ヨリ特殊ノ事實ニ反還スルモ

ノコシテ即チ票札ニ由リ束中ニ現存スル物件
ヲ豫想セシムル作用ナリ)

第四 徵證(ハ事實ニ據リテ豫想ノ正非ヲ確定スル作
用ナリ)

此攻究法ノ順序ハ既ニ講述セシ教授法ノ順序ト均一ナ
ル者ニシテ理學討尋ノ正路ナリ今世紀ノ理學大家ニシ

テ普通教育ノ事業ニ熱心シ此攻究法ヲ之ニ應用シ其具
實ノ發達ヲ企圖セシモノ頗ル多シ左ニ其一例ヲ掲載ス

アガッシー

ルイ、アガッシーハ紀元千八百七十七年五月二十八日瑞西ノイシヤ
テル湖上ノモツチエルニ出生シ千八百七十七年七月十三日
成長シ自然ニ造化ノ探索ニ從事シ幼少ノ時期ヨリ好テ
博物ノ諸科ニ電勉シ早ニ大家ノ名譽ヲ得タリ而シテ深
ク學校教育ノ欠點アルヲ歎慨シ能ク之ヲ補正スル手段
ハ唯テ理學ノ精神及ヒ方法ノ應用ニ在ルコトヲ確信シ
頻ニ此說ヲ輿論ノ壇上ニ主唱セリ次テ北米合衆國ニ遊
歴シ終ニ新ケムブリッジ大學ノ教授ニ聘任セラレ博物館

ヲ創立シ熱心シテ理學法ヲ擴張セリ然ルニ其成績甚タ
 著明ナリシカ故ニ愈ヨ此法ノ利益アルヲ發見シ直ニ之
 ヲ小學教員ニ傳播シ由テ庠序授業ノ改進ヲ補助セント
 決定シ即チ其便宜ニ由リ夏期休業學校ヲベニキス島ニ
 開設シ實驗觀察上ヨリ博物科(殊ニ其生物部)ヲ教授シ以
 テ理學法ノ模範ヲ指示セリ蓋シ此舉ハ合衆國ノ教育沿
 革中ニ一新時代ヲ興起シ庠序ノ教授法ハ是ニ於テ頗ル
 其軀裁并ニ精神ヲ變更セリ

アガッシーノ教育主義ハ第一觀察力ヲ鍛練完成スルコト是
 ナリアガッシーハ徹頭徹尾ペスタロツチノ主義ヲ信仰シ先
 ツ六官及ヒ實驗性ヲ研磨シ他ノ心力ハ自然發達ノ順序
 ヲ逐フテ之ヲ活動セシム可キコトヲ固執シ且ツ純想上

ノ事項ニ關係スル高等作用ノ遂功ハ全ク現覺ノ醇化ニ
 依從スルコトヲ確認セリ第二手技ヲ操修スルコト是ナ
 リ是レ即チフリオベルノ主義ヲ承襲スルモノニシテ兩眼
 ト均シク雙手ヲ銳敏ニスル緊要ヲ擴張スルニ在リ蓋シ
 アガッシーハ生徒ノ課業中ニ必ス其標品ヲ拈摩スル方法ヲ
 教授シ又タ殊ニ書學ヲ以テ普通教育ノ必須科ト爲サン
 コトヲ希望セリ「博物學ヲ攻究スルニ當リ其標品ヲ圖寫スル能
 カアル者ハ第三ノ眼光ヲ有スルニ均シトハ其能
 常ニ唱ヘ第三理學ヲ以テ教育ノ基礎ト爲スコト是ナリア
 シ所ナリ」

ガッシーハ當時庠序ニ通施スル課業ノ人類最高ノ利益ヲ獎
 進スルニ足ラス教育ハ之カ爲メニ全ク其一大目的ヲ破
 却セラル、コトヲ實驗シ之ヲ改正補充スルモノハ理學
 ヲ除キテ他ニ追求ス可カラサルコトヲ確認セリ蓋シ理

學ノ知識ハ即チ本骸ノ知識ニシテ單ニ社會ノ錯綜關係ヲ處置スルニ緊要ナルノミナラズ各人競争ノ褒賞ハ唯タ之ニ依頼シテ十分ニ獲捉スルコトヲ得ヘク農工藝術等總テ事業ノ成功ハ主トシテ此知識ニ緣由スルモノナリ又タ此知識ハ諸勞動ニ其最大報酬ヲ付與スルモノニシテ即チ其方向ヲ正當ニシ其進歩ノ針路ヲ指示シ以テ各種經營ノ失敗ヲ豫防シ人間ノ利益ニ反對スル行爲ヲ警戒ス可シ且ツ又タ理學法ハ心神ノ鍛鍊ニ最モ應合スルモノニシテ之カ空想妄念ヲ消滅シ適切精確ノ結果ヲ發生シ以テ其本然至良ノ性質ヲ成就ス可シ故ニ教育ハ唯タ理學ニ於テ其眞實ノ基礎ヲ得ルモノナリ**第四權制**ヲ排斥スルコト是ナリアガッシーハ思想ノ自由ヲ以テ心神

活動ノ秀逸ヲ得セシムル基礎ト爲シ理論并ニ教育上全ク權制ノ施用ヲ黜却セリ蓋シ學問ハ明白ニ干涉束縛ニ反對スルモノニシテ各個人ハ自由ニ其攻究ヲ遂行シ其思想ヲ運轉シ之カ本然ノ結果ニ追隨セサル可カラズ權制ヲ以テ知性作用ノ進路ヲ畫定スル方法ハ總テ人タルモノ、享有ス可キ眞偽曲直ノ判斷力ヲ褫奪シ睿智情操及ヒ意志ノ活動ヲ萎靡セシムルモノナリ**第五攻究**ハ其周到ノ度位ヲ窮盡ス可キコト是ナリアカッシーハ常ニ作業及ヒ勉學ハ穿鑿ノ周到ヲ必須スルコトヲ指示シ何等ノ考案ヲ定立スルニモ力メテ勿卒ノ判斷ヲ避防シ注意ヲ重沓シテ觀察ヲ施行シ充分ニ其結果ヲ比較スルコトヲ要求セリ此主義ハ最モ尋常正當ナルモノニシテ論辨セ

サルモ明白ナリト雖也實際之ヲ怠忽スルモノ、夥多ナルヲ奈何セン第六理學式ノ實物課ヲ施行スルコト是ナリアカッシーノ教授法ハ素ヨリ實物課ヲ包含セリ而シテ之ヲ施行スルニハ最初ヨリ其各項ノ關係ヲ精確ニシ以テ有序ノ連列ヲ構成シ各連列ハ直ニ一科學ノ階梯タル材科ヲ具備セリ斯クシテ實物課ハ其全分ノ良果ヲ呈出シ知識獎勵ノ一幫助ト爲ルニ至レリ上陳ノ諸主義ハ方今一般ニ理科學校ニ採用セラレ其教授法ノ基礎ヲ爲シ理學者流ハ概テ皆ナ之ニ同意セリ

教育ノ方法

古來ヨリ世間ニ流行セシ教育ノ諸方法ニ就キテハ前講

ニ於テ偶然説及セシ所モアレモ未タ其全躰ヲ通覽スルニ足ラサレハ此ヨリ簡短ニ之ヲ論述シ以テ教育史ノ畧者ヲ完結セントス蓋シ此等ノ方法ハ時代ト境遇トニ隨テ頗ル其趣向ヲ變更シ種種ノ變態區區ノ殊質ヲ包含シ數多ノ主點ヨリ之ヲ查察スルコトヲ得ヘント雖モ今マ特ニ之ヲ四類ニ大別シテ其概況ヲ指示ス可シ
(一) 第一ヲ暗記法トス何レノ學校教育制ニテモ其最初ニ從事セシ所ハ概テ皆ナ古聖賢ノ行狀及ヒ思想ノ成果ヲ傳播スルコトヲ以テ其正鵠ト爲シ而シテ此成果ハ大抵格言諺語ノ形式ニテ之ヲ表出シ生徒ヲ直ニ之ヲ暗記セシムルコトヲ以テ教育ノ最良法ト爲セリ支那ニテハ往昔ヨリ此法ヲ施行シ今日マテ依然トシテ之ヲ墨守

シ其學校ハ殆ト他ノ文明諸國ノ學校ノ如ク僻邑ノ序庠ヨリ帝都ノ大學ニ至ルマテ定格ノ階級アリテ智德養成ノ躰裁ハ外見上具備セサルニ非サレモ之カ媒介タル可キモノハ唯々請誦記憶ノ獎勵ニ止マリ之カ材料ハ謂ハユル古聖賢ノ言行ニシテ只ク階級ノ高低ニ隨テ之ヲ表出スル文辭ノ難易アルノミ又々謂ハユル考試ナルモノハ單ニ生徒ノ把住力ヲ檢査スルノミニ止リ其理解性ノ優劣ノ如キハ全ク顧慮セサルモノ、如シ而シテ此教育法ノ効驗ノ如何ハ其數十百年ノ史乘ニ明瞭ナリ歐洲ニテハ中世ノ學校ハ總テ庵僧ノ掌裡ニ在リテ其課業ハ專ラ宗黨ノ目的ニ最適スル章句及ヒ規則ヲ暗記セシムルコトニ止マリ即チ信向ノ條項「我父」ノ祈禱拉丁ノ神歌等

チ盲習スルコトヲ以テ勉學ノ主部ト爲シ凡ソ知識ハ其種類ノ差別ナク直接ニ宗黨ノ見解及ヒ權勢ヲ幫助セサル者ハ一切之ヲ拒絕スルコトニ努力セリ故ニ此等ノ學校ハ人民ノ智田ヲ開拓スルニハ毫末ノ利益ナク却テ之カ改良ノ道路ヲ壅塞シ其有毒ナル結果ハ永ク後世ニ蔓延シ暗記法ハ今日ニ在リテモ尙ホ未ダ其弊害ヲ消失スルニ至ラス殊ニ英國ノ公立學校ニ於テハ常ニ此法ヲ採用シ古語即チ希臘及ヒ希羅ノ講習ヲ以テ學問ノ基本ト爲シ文典ニ由テ之ヲ教授シ生徒ヲシテ無數ノ凡例規則變式等ヲ暗記セシメ或ハ單ニ字句ノ撰擇ニノミ工夫ヲ浪費スル詩文ヲ構作セシメ即チ思想運用ノ秀逸ヲ獎勵スルニ先ダチ其勢力ヲ狹隘ナル範圍内ニ閉鎖シ更ニ其將來ノ活動

ニ注意スルコト無キハ實ニ嘆慨ス可キナリ而シテ米國ノ學校ニ於テモ亦タ往々同様ノ機械法ヲ墨守シ生徒ヲシテ只ク教科書ノ文言ヲ盲習セシメ其自ラ之ヲ理解スルト否トハ全ク之ヲ度外視スル者アリ但シ暗記法ヲ贊成スル者ハ尙ホ未タ斷絶セス數條ノ理由ヲ陳列シテ其利益ヲ稱唱スト雖モ到底其長短ノ相ヒ補助スル能ハサルコトハ論ヲ竣タスシテ了然ナリ

(二) 第二ニ讀書法トス印刷術ノ創起ニ隨ヒ文學ノ再興スルニ當リ從前少數人ノ專有セシ典籍ハ廣ク世間一般ノ閱覽ニ供具シ其中ニ保存スル古昔傳來ノ知識ヲ攻修セシトスル熱心ハ往時ノ無學ノ反動ト結合シテ甚シク典籍ヲ崇敬スル情態ヲ奮興シ直ニ之ヲ以テ教育ノ基本ト

爲スニ至リ謂ハユル教育完備者トハ充分ニ人タルモノ、能力ヲ運用シ十全ニ處世ノ業務ヲ遂行スルモノ、一號ニ非スシテ寧ロ古學ニ滿腹シタル蠹魚者流ノ異名トナレリ斯ク典籍ヲ崇敬シ講誦ノ多少ニ由リテ教育ノ分量ヲ計算スル餘弊ハ現今ニテモ尙ホ其勢力ヲ維持スルモノニシテ即チ教科書ヲ盲習シ其文言ヲ諳記スルヲ以テ學問ノ主部ト爲シ(實行性ハ勿論)理解性進達ノ如何ハ殆ト之ヲ顧慮スルコト無ク試験ヲ施爲シテ生徒ヲ昇降スルニモ其自ラ某題項ヲ論辨スル能力ヲ度外視シ專ラ其他人ノ旨意ニ追隨シ即チ教科書ヲ諳誦スル能力ニ由リテ之ヲ決定スルカ如キハ目下ノ諸學校ニ於テ依然トシテ流行スル所ナリ斯ク書籍ニ依頼スルコトハ假寐ノ

知識ヲ以テ本躰ノ知識ニ代用シ疑議セスシテ他人ノ思想ヲ嘉納スル習慣ヲ發生シ單ニ心神ノ醇化ヲ幫助スルニ利益ナキノミナラス大ニ其自任性ノ修練ヲ障害シ各個獨立ノ思想及ヒ行爲ヲ殘破スルモノナリ蓋シ教育ノ完成ハ書籍上ノ攻究ヲ必須スルモノナリト雖モ(既ニ屢ハ陳述セシ如シ)兒童ノ初步ノ知識ハ概シテ現實ノ官覺ニ起因シ而シテ其精粗ハ永ク將來ニ影響スル者ナレハ學校ニ於テ第一着ニ努力ス可キコトハ之カ觀察力ヲ獎勵シ且ツ其運用ノ結果ヲ整齊セシムルニ在リ故ニ教員ハ先ツ生徒ノ日常對接スル現象ニ就キテ其智性ヲ鍛鍊シ此等材料ノ漸ク消盡スルニ隨ヒ始テ書籍ノ媒介ヲ假用シ只管ラ既知件ヨリ未知件ニ遷移スルコトニ努力ス

可シ換言スレハ生徒ノ書籍ヨリ獲取スル知識ハ其經驗ニテ獲取セシ知識ト親密ナル聯續ナカル可カラス苟モ此聯續ナキハ謂ハユル教科書ナルモノハ殆ト無用ノ長物タルノミ且ツ夫レ書籍ハ實際心力ノ及達スル能ハサル知識ヲ補給スル一種ノ方便ニシテ決シテ學問ノ目的ト爲ス可キモノニ非サレハ之ヲ修習スル正鵠ハ其代表スル知識ヲ嚴正ニ檢査シ只タ其採用スルニ足ル者ヲ選擇スルニ在ルナリ書籍ヲ信盡シ徒ニ他人ノ文言ヲ盲習スルカ如キハ即チ奴隸様ノ行爲ニシテ自由ノ精神ヲ具備スルモノ、最モ慙愧ス可キ所ナリ

(三) 第三ヲ稽物法トス心神活動ノ本質ヲ精察シ其理法ノ漸ク明瞭ナルニ隨ヒ實物ノ稽考ハ全般學問ノ第一階ニ

シテ何等ノ知識ヲ獲取スルニモ先ツ之ヲ經歷スルノ必
 須アルコトヲ發見スルニ至リ教育ハ初テ其鞏固ナル基
 礎ヲ得テ眞ニ人類ノ福素ヲ増殖スル媒介ト爲レリ但シ
 實物稽考ノ心神啓達ニ關係スル狀勢ニ就テハ既ニ(殊ニ
 教授論ニ於テ)其大要ヲ解釋シタレハ此處ニテハ唯々簡
 短ニ其利益ヲ指示ス可シ抑モ知覺ノ作用ヲ鍛鍊スル方
 便ハ實物ノ稽考ヨリ正確穩當ナルモノ莫ク即チ實物ハ
 其單純ナル部類ヨリ錯雜ナル範圍ニ至ルマテ種々多様
 ノ次第アリテ殆ト無限ノ變化ヲ表呈スルカ故ニ其攻究
 ハ觀察力ノ運轉ニ廣大ナル境域ヲ付與シ且ツ其活動ヲ
 鼓舞シ及ヒ繼續スルニ必須ナル充分ノ激因ヲ包含スル
 モノナリ又チ實物ノ稽考ハ書籍上ノ修習ヲ補助スルニ

最良最要ノ方便タリ暢言スレハ自然素昧ノ現覺上ノ攻
 究ハ其駁雜ナル結合ヲ網羅スル記述ヲ理解スルニ欠ク
 可ラスシテ此等ノ攻究ナキハ記述ハ其詳細快活ヲ窮
 極スルト雖モ是レ皆チ意義ナキ言辭ノ團塊タルノミ故
 ニ書籍ニ載録スル思想ニ貫通スル能ハ主トシテ當
 初實驗ノ精粗ニ起因スルモノト爲サルヲ得ヌ又チ知
 識自個ニ就キテ判斷スルハ實物ノ稽考ハ思想ヲ施用
 スル價格アル材料ヲ心神ニ供給シ總テ將來ノ獲識ヲ保
 持ス可キ鞏固ナル根據ヲ構立スルモノニシテ允當ニ其
 範圍ヲ擴張スルハ此根據ハ何等ノ目的ニモ貼切ナル
 位置ヲ占得スルニ至ルモノナリ故ニ稽物法ノ利益ハ教
 育上決シテ之ヲ輕視ス可カラサルナリ

(四) 第四チ實業法トス舊來ノ教育ハ全ク實業ニ反對セシモノニシテ教育ノ一部ハ人民ヲシテ能ク其各自ノ職事ニ適合セシムルコトニ在リト云フ觀念ハ數百年代ノ經驗ナヘテ漸ク世間ニ發生シ當百年代ノ起初マテハ何ノ學校ニテモ工人社會ノ子弟ヲシテ其實業ヲ修習セシムルニ足ル課程ヲ準備セシコト無シ爾來歐米ノ諸文明國ニ於テハ徐々ニ此等ノ課程ヲ以テ其人民教育ノ一成分ト爲スニ至リド、フエレンベルクノ計畫ヲ撰做シタル農學校ハ殆ト各國ニ流行シ又々獨乙ニテハ庠序ニ連續スル職業學校及ヒ一層高等ノ工藝學校ヲ維持スルニ殊大ナル保護ヲ加施シ佛蘭西ニテモ工藝教育ハ較著ナル獎勵ヲ得タリ而シテ此兩國カ之ヨリ收穫セシ結果ハ他ノ諸

國ヲ奮激シテ皆ナ工藝學校ノ建置ニ着手スル傾向アラシメタリ然レモ此等ノ學校ハ寧ロ專門ノ部類ニ係屬スル者ニシテ必シモ普通教育ノ範圍内ニ包入ス可ラサルナリ蓋シ實業ノ修習ヲ普通教育ノ範圍内ニ應用スル方法ハ工藝學校ニ於テ完了ス可キ課程ヲ初等并ニ高等ノ庠序ニ設置シ幼稚園ニ於テ小兒ノ遊戲ヲ指導スル原則ヲ其中ニ延納スルコトヨリ成立スル者ニシテ獨乙并ニ合衆國ニ於テハ近來頗ル之ヲ擴張セリ今マ普通實業教育ヨリ發生スル利益ノ概畧ヲ陳列セハ第一直接ニ實物ヲ處理スルカ爲メ其興味ヲ潤大ニシ其印象ヲ深密ニシ且ツ諸官覺ノ活動ヲ一點ニ凝聚シ互ニ相ヒ補助セシムル能力ヲ養成ス可シ第二實物ヲ使用スル必須アルカ爲

メ自ラ其資質并ニ其他物トノ關係ニ明通セシメ因テ其
 濛漠ナル觀念ヲ變成シテ精確ナル知識トシ言語上ノ攻
 究ヨリ獲取セシ假躰ノ思想ヲ訂正ス可シ第三筋肉ヲ鍛
 鍊シテ意志ノ指揮ニ從順ナラシメ且ツ器械并ニ物材使
 用上ノ技量ヲ付與ス可シ第四此技量ノ獲取ハ心神ノ活
 動ヲ振起シ而シテ此活動ハ反還シテ筋肉ニ影響シ愈ヨ
 技量ノ熟達ヲ迅速ニシ兩者ヲシテ交モ其進化ヲ補助セ
 シム可シ第五什器裝飾等ヲ製作スル手練ハ快樂ノ一大
 源ニシテ懶惰若クハ放逸ヲ防禦スル勢力アルノミナラ
 ス有味有益ノ事件ヲ追求スル機會ヲ招致ス可シ

結 論

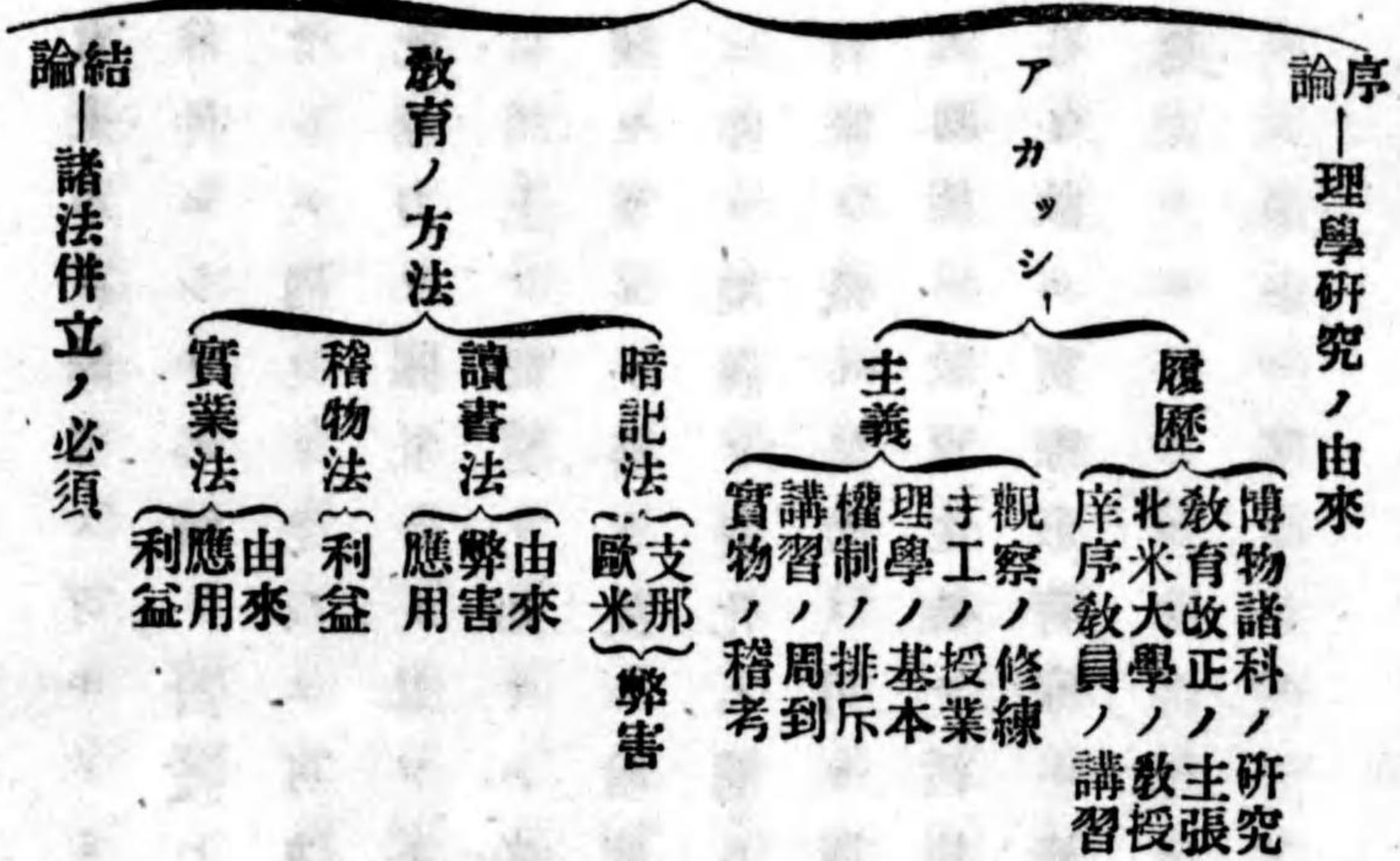
上陳ノ四法ハ教育沿革ノ特殊ノ結果ニシテ各ノ其性質
 ナ特殊ニシ又々各ノ緊要ナル真理ヲ包含シ其價格ニ至
 リテハ或ハ輕重ノ差異ナキニ非レ區々格別ノ功能ア
 リテ斷然明白ニ之ヲ判定スルコトヲ得ス到底現在教育
 ノ狀態ニ於テハ此等ノ四法ハ併立共存ス可キモノニシ
 テ一トシテ全廢スル傾向アルコト無シ今マ試ニ之ヲ通
 考スルニ遊戯及ヒ勤勞上ニ顯出スル身軀ノ諸活動ヲ查
 閱スルキハ教育ノ範圍内ニ包入ス可キ作因及ヒ勢力ヲ
 其中ニ發見シ因テ實業法ノ必須ヲ認識シ之ヲ施行スル
 ニ隨テ益ス此認識ノ虛妄ナラサルコトヲ證明ス可シ而
 シテ此等ノ活動ヲ加用ス可キ材料ヲ緻密ニ攻究シ又々
 一般ニ覺性ヲ研磨シ觀察力ヲ銳利ニシ以テ本軀精確ノ

知識ヲ獲取スル津梁ヲ準備スルモノハ稽物法ニ若クハ
 ナシ而シテ此法ニヨリテ獲取スル知識ヲ補助シ思想ノ
 境界ヲ廣濶ナラシムル者ハ讀書法即チ是ナリ蓋シ各人
 ノ所有スル知識ノ過半ハ他人ノ經驗及ヒ思想ニ起因ス
 ルモノナリ而シテ此種ノ知識ノ多分ハ書籍ヨリ獲取ス
 可キモノナレハ學校ノ課程ヨリ書籍ノ講習ヲ除去セン
 トスルハ文化ノ進路ヲ壅塞シ且ツ其成績ヲ度外視スル
 コト、謂ハサルヲ得ス故ニ書籍ハ只タ之ヲ使用ス可キ
 必須アルノミナラス益ス其使用ヲ擴張ス可キ必須アル
 ナリ唯タ讀書法ニ就キ教育家ノ注意ス可キ一點ハ實驗
 ニ依頼スルニ非サレハ施行スル能ハサル事項ヲモ強テ
 書籍ニ委托スルノ弊風ヲ制止スルニ在ルナリ又タ記憶

ノ培養ハ教育上單ニ酷望ス可キノミナラス成就セサル
 可カラサル條件ニシテ心神ノ啓發ハ知識ヲ把住スル能
 カアルニ非サレハ固ヨリ企及ス可カラス稽物法并ニ實
 業法ハ以テ此能力ヲ強壯ニシ且ツ其進達ヲ補助スルニ
 足ルト雖モ言語上ノ記憶ノ如キハ必ス詩文ノ諳誦ニ依
 リテ之ヲ鍛鍊セサルヲ得ス故ニ暗記法モ亦タ全ク廢棄
 ス可キモノニ非ス境遇ノ變化ニ隨ヒ適度ニ之ヲ施行ス
 ルコトハ教育家ノ最モ努力ス可キ所ナリ(因ニ云フ教育
 史研究ノ一大功能ハ教育主義ヲ活用スル豫備ヲ完全ナ
 ラシムルニ在リ故ニ實際教育家ハ殊ニ之ヲ必須ス)

右講義ノ圖表

教育ノ略史 (第二)



第七講 躰育ノ事項

序論

人性完成ノ身軀ノ健寧ヲ豫料スルコトハ瞭然タル事實
 ニシテ智徳ノ發達ヲ遂了スルニハ先ツ躰育ノ眷顧ヲ要
 求セサルヲ得ス然ルニ之ニ就キテハ古來ヨリ二種ノ極
 端說アリ一ハ身軀ト心神トハ自然避遜ス可カラサル抗
 對ノ狀勢アリテ各個ノ福素ハ逆比例ノ位置ヲ占有セリ
 ト云フ臆測ニ起因シ之ヲ唱道スル者ハ唯タ心神上ノ條
 件ノミヲ以テ識者ノ眷顧スルニ足ル事項ト爲シ身軀上
 ノ欲願ヲ撓殺スルコトヲ以テ心神ニ裨益スル最要ノ媒
 介ト爲セリ一ハ身軀ノ發達ヲ教育ノ主部ナリト思惟シ

筋肉ノ養成ヲ偏重シ骨格ノ模様ニ傾意シ悉皆ノ活力ヲ
 舉リテ之ヲ其消費ニ供給セント欲セリ而シテ此背反説
 テ和合シ其中正ヲ保持シ身軀ト心神トノ密着ナル關係
 ヲ認識シ庠序學校ヲシテ疾病柔弱ノ兒童ヲ治療シ角力
 者流ノ陋習ヲ脱去シ以テ充分ニ其智徳ノ啓立ヲ補助ス
 ル操練場ヲラシムルハ實ニ近世ノ真正躰育家ノ勤勉ス
 ル本點ニシテ凡ソ教員タル者ハ深ク此ニ其觀察ヲ施用
 シ殊ニ父兄ノ短所ヲ看破シ因テ自己ノ責任ヲ忽諸ニセ
 サルコトヲ期約ス可キナリ然ラサレハ其智徳兩育ノ努
 カモ亦タ一時ノ徒勞タルノミ蓋シ體育ヲ完遂スルニ必
 要ナル事項ハ之ヲ四種ニ大別スルコトヲ得ヘシ即チ生
 命ノ理法ヲ確知スル講究、此理法ニ追隨セントスル感性

九三一
 ノ獎勵、此理法ニ一致スル器械ノ準備及ヒ此理法ニ追隨
 セントスル習慣ノ養成是ナリ而シテ此第一及ヒ第二項
 ハ殆ト教員ノ努力ノ直接ニ及達スル能ハサルモノナレ
 ハ教員ハ唯タ智徳兩育上ヨリ間接ニ其影響ヲ付與ス可
 キノミ何トナレハ此兩項ノ大半ハ其統轄外ニ在ルモノ
 ナレハナリ又タ第三項ハ教員自個ヨリハ寧ロ學校主任
 者ノ權内ニ在ルモノナレハ教員ハ唯タ之ニ其助言ヲ提
 出スル義務アルノミ而シテ教員ノ直接ニ關係スル部分
 ハ第四項ノ事件ニシテ即チ其授業中生徒ヲシテ之カ身
 軀ノ健寧ヲ享有スルニ必須ナル常風ヲ獲得セシムルコ
 ト是ナリ此ヨリ講述スル所ハ只チ躰育ニ欠ク可カラサ
 ル箇條ノ大意ヲ指示シ生理及ヒ保養學中ノ一二ノ主義

ヲ表出シ此兩學ノ重要ナルコトヲ證明シ以テ之カ研究ヲ勸勵セントスルニ在ルノミ但シ此兩學ノ知識ハ固ヨリ算術及ヒ文法ノ細則ノ知識ヨリハ一層必須ナルモノニシテ殊ニ教員タルモノハ必ス之ニ熟通セサル可カス

躰育ノ媒介

(甲) 躰育上第一ニ論究ス可キモノハ即チ食物是ナリ食物ハ生命ノ保存ニ至重ナル要素ニシテ身軀ノ成長ヲ維持シ筋肉并ニ心神作用ニ起因スル消耗ヲ補充スルニ必須ナル材料ナリ此ヨリ其(一)種類(二)性質(三)分量(四)變換及ヒ(五)喫餐ノ時刻并ニ(六)方法ニ就キ教育家ノ注意ス可キ綱領ヲ講述ス可シ

(一) 小兒ニ最モ適合スル食物ノ種類ヲ撰定スルニハ先ツ其最モ欲願シ且ツ嗜好スル所ノモノヲ看破スルヲ緊要トス其最モ懇求スル食物ヲ拒絕スル風習ハ往昔ノ壓慾主義ノ餘弊ニシテ之ニ糖饊及ヒ果實ヲ禁制スルコトハ即チ其一例ナリ近世ノ生理學者ハ小兒ノ普通ニ此等ノ食物ヲ欲願スルハ即チ其必須ノ食物タル憑證ニシテ之ヲ禁制スルハ却テ小兒ヲ傷害スルモノナルコトヲ指示セリ故ニ小兒ノ懇求スル食物ハ其時期ニ際シテ最モ之ニ緊要ニシテ且ツ適合スル種類ノ食物ナリト思惟セサルヲ得ス然レモ是レ單ニ一般ノ概則ニシテ決シテ各小兒ノ不規律ナル欲願モ皆ナ以テ其食物ヲ撰定スル標準ト爲ス可シト謂フニ非ス是等不規律ノ欲願ハ其真正ノ

必須ヨリ發生スルニ非スシテ或ハ遺傳ノ惡癖或ハ過度ノ飽饜或ハ從前ノ抑壓ニ原由スルモノナレハ固ヨリ以テ食物撰定ノ方針ト爲スニ足ラス蓋シ其真正ノ必須ト不當ノ欲願トヲ辨別スルハ甚ク容易ナラサル事項ニシテ之ヲ能クスルニハ廣大ノ經驗ヲ要求ス可シ此經驗ナキモノハ寧ロ自由ニ失敗スルモ抑壓ノ弊害ヲ招致セサルコトニ注意ス可シ

(二) 小兒ノ食物ハ其性質特別ニ滋養成分ニ富饒ナラサル可カラス食物ノ功用ハ大人ニ於テハ主トシテ其身軀ノ消耗ヲ補充スルニ在レト小兒ニ於テハ又々其生長ヲ獎進スルニ在リ故ニ小兒ニハ滋養成分ノ一層濃厚ナルモノヲ供給セサルヲ得ス之ニ粗薄ナルモノヲ供給スル習

慣ハ至極弊害アル者ニシテ其身軀ノ資材若クハ纖維ノ品級ヲ損墜シ因テ其強度及ヒ勢力ヲ減少シ神經ノ費散ヲ過分ニシ總テ生活ノ作用ヲ緩漫ニシ心神モ亦タ隨テ之カ影響ヲ感受シ大ニ全般可成性ノ發達ヲ妨碍ス可シ殊ニ小兒ノ學業ニ從事スル間ハ寧ロ之ニ飢食ヲ付與ス可シト謂フカ如キハ誤謬ノ最モ較著ナル者ナリ身軀纖維ノ消耗ハ筋肉上ノ勞動中ヨリハ心神上ノ勞動中ニ一層多量ナル者ナレハ勉學者ハ特別ニ滋養質ノ食物ヲ服用シ裕カニ神經ノ費散ヲ補充セサル可カラス

(三) 食物ノ性質ノ善良ナルト均シク其分量モ亦々豐足ナラサル可カラス殊ニ壯康ナル小兒ハ其食欲甚ク銳大ニシテ即チ其生長ヲ獎進シ且ツ其無歇活動ノ所用ヲ賠償

スル爲メ多量ノ食物ヲ需要スルモノナリ然ルニ其供給
 ナ管掌スルモノ(即チ父母女傅等)ニシテ往々之ニ獨斷ノ
 制限ヲ設立スルコトアリ是レ甚タ生理ノ法則ニ違背ス
 ル箇條ナレハ深ク焉チ警戒セサルヲ得ススベシサノ意
 見ニテハ小兒ニ供給スル食物ヲ加減スルニハ主トシテ
 其食欲ノ程度ニ依頼ス可シ何トナレハ食欲ノ程度ハ尋
 常ノ眼目ヲ以テ視察スルヲ得ザル全身軀ノ自然必須ヲ
 表示スルモノニシテ單ニ之ヲ嫌疑スル理由ノ甚タ不確
 然ナルノミナラス之ヲ除キテ他ニ信任スルコト足ル先導
 ナケレハナリ

(四) 一種ノ食物ヲ專用スルハ終ニ其嗜好ヲ損失シ嬰氣
 ナ催起スルコトアル可シ是レ其完全ニ身軀ノ必須ヲ補

充スル能ハサル徴候ナリ小兒ハ成人ニ比スレハ其食欲
 一層銳大ナレト同種ノ食物ニ飽饜スルコト亦甚タ迅
 速ナリ且ツ又諸種ノ食物カ各ノ特異ノ滋養質ヲ包有
 スルコトハ分析上明瞭ナル事實ナリ而シテ某種ノ食物
 ハ全ク身軀ノ消耗ヲ賠償スル功能ナク之ヲ專用スルハ
 ハ餓死ヲ招致スル危険アル者ナリ故ニ生命ヲ維持スル
 ニハ必ス諸種ノ食物ヲ交用シ且ツ轉換セサルヲ得ス又
 タ氣候ノ變替及ヒ職業ノ差別ニ隨テ之ヲ改更セサル可
 カラス暢言スレハ凍天ニハ其釀熱質ヲ含蓄スルモノヲ
 擇取シ夏日ニハ之ヲ最小量ニ減殺シ身軀手足ヲ勞動ス
 ル者ハ補助成分ノ富饒ヲ需要シ心力ヲ運用スル者ハ神
 經質ノ夥多ナル品類ヲ需要スルカ如シ蓋シ最良ノ食物

ハ常規ノ嗜欲ニ最適シ且ツ諸般滋養質ノ最大量ヲ具備スルモノ是ナリ乳汁人特ニ牛肉及ヒ麥粒ハ極メテ此標準ニ接近シ他ノ食物ニ比較スレハ專用ノ弊害稍ヤ僅少ナリ

(五) 喫餐時刻ノ規律アルコトハ健寧ヲ維持スルニ緊須ナル事項ナリ胃腑モ亦タ他ノ諸機關ノ如ク其勢力ヲ修整スル爲メ幾許カノ休憩ヲ需要スルモノナレハ若シ食物ノ其中ニ常存シ間斷ナク其活動ヲ激起スルキハ其作用衰弱シテ終ニ全身ノ經濟ヲ錯亂ス可シ然レモ各個人ノ喫餐時刻ヲ檢制スル規律ノ如キハ固ヨリ設立シ得ヘキモノニ非サレハ唯タ其方針タル可キ一般ノ概則ヲ指示ス可シ

(イ) 喫餐ノ度数ハ饑餓ヲ防禦スルニ足ラサル可カ

ラスロ (ロ) 喫餐時刻ヲ限定シ其間隙ハ消化作用ヲ完遂シ及ヒ其疲勞ヲ回復スルニ足ラサル可カラス (ハ) 小兒ハ大人ヨリハ喫餐度数一層繁多ナラサルヲ得ス但シ其時刻ヲ限定スルコトハ同様タル可シ (ニ) 喫餐時刻ノ間隙ハ氣候、職業、身勢等ノ變化ニ應當セサル可カラス (ホ) 就眠前ニ大食スル習慣ハ有害ナレモ其時空腹ナレハ幾許カ喫餐スルヲ有益トス

(六) 喫餐ハ緩徐ニス可キモノナリ完全ナル消化ハ完全ナル咀嚼ヲ需要スルモノニシテ之ニ必須ナル筋肉活動ハ口中ノ液腺ヲ鼓舞シ涎沫ノ流出ヲ激催ス可シ而シテ此涎沫ハ單ニ食物ヲ潤滑ニシ其吞下ヲ容易ニスルノミナラス亦タ消化自個ニモ欠ク可カラサル作用アルモノナ

リ然ルニ喫餐ヲ急速ニシテ咀嚼ノ不完全ナルキハ涎沫ノ流出豊足ナラスシテ胃腑ハ之カ爲メ餘分ノ勤勞ヲ負擔シ終ニ勢力ノ損傷及ヒ諸種ノ錯亂ヲ招致ス可シ故ニ喫餐ニハ適當ノ時間ヲ付與シ決シテ匆忙ナラシム可カラズ今マ此一段ヲ終了スルニ當リ尙ホ添加ス可キコト二箇條アリ第一筋肉若クハ心神ノ勤勞後直チニ喫餐ス可カラス宜ク休息シテ活力ノ其常ニ回復スルヲ待候スヘシ然ラサレハ食物ハ永ク消化セサルカ又ハ全ク外泄セラル、コトアルナリ第二喫餐後直チニ勤勞ニ從事ス可カラス消化ハ活力ヲ需要スル者ナレハ之ヲ他ニ分供スルキハ其作用ノ停止ヲ致ス可シ食物ノ畧論ヲ完結スルニ當リ飲料ノ事件ニ就キ聊カ講

述ヲ附加ス可シ清水ハ服用ノ分量及ヒ時刻ノ適宜ナルキハ生命ノ保存ニ必須ナル要素ニシテ乾食ヲ滋潤シ其消化ヲ容易ナラシメ且ツ發汗ノ費耗ヲ補充スルモノナリ其消用ノ分量ハ食物ノ性質溫度ノ高低及ヒ勤勞ノ種類ニ依從スル者ニシテ生理學者ハ概シテ喫餐上ニ巨多ノ飲料ヲ吸盡スルコトヲ擯斥セリ蓋シテ食物ハ巨多ノ飲料ト混和スルキハ完全ナル咀嚼ヲ經過セズシテ胃腑ニ進入シ且ツ消化作用ニ必須ナル涎沫ノ流出ヲ激催セサル可シ況ンヤ膽汁ヲ稀薄ニシ其餘分ノ流出アルマテハ殆ト消化作用ヲ欄阻スルニ於テヤ又々時刻無序ニ漫飲スル習慣ノ身軀ヲ損傷スルコトハ不規律ニ喫餐スル習慣ト同様有害ナリ又々氷水若クハ冷水ヲ大飲スルキハ

胃腑ノ温度ヲ減少シ其常ニ回復スルマテハ消化作用ヲ
 遲滯スルモノナレハ亦タ甚タ身軀ニ有害ナル可シ又タ
 酒類ニ至リテハ其媒介スル患難ハ實ニ枚擧スルニ勝ヘ
 スシテ偶マ一二ノ裨益ナキニシモ非サレテ此等ハ唯タ
 些細不要ノ事項ニ止マル者ナレハ到底心神并ニ身軀福
 素ノ障害物トシテ痛ク之ヲ擯斥セサルヲ得ス又タ煙草
 ノ如キハ素ヨリ飲食ノ範圍ニ係属セサル者ナレトモ其無
 益有害ナルコトハ略ホ酒類ト同様ナレハ宜シク之ヲ擯
 斥スヘキノミ

(乙) 肉軀上ノ幸福ニ緊要ナル第二ノ成分ハ煖料是ナリ身
 軀ノ温度ハ其限界甚タ狹隘ニシテ之カ過不及ハ大害ヲ
 醸發スル者ナリ故ニ煖料ノ事件ハ体育上嚴確ニ之ヲ考

察セサル可カラズ但シ空氣ノ温度精密ニ身軀ノ温度ニ
 符合シテ其變化甚タ稀少ナル風土ニ於テハ深ク之ニ注
 意スル必須ナシト雖モ寒暑共ニ劇烈ナル地方ニ至テハ
 健康ハ勿論生命ノ維持ハ時候ノ變化ヲ凌脱シ身軀ノ温
 度ヲ一様ナラシムル伎倆ニ依從スル者ナリ而シテ此伎
 倆ノ應用セラル、媒介ハ主トシテ(一)衣服(二)家屋(三)人工
 製熱法等ニ在ルナリ此ヨリ逐次ニ其概略ヲ講述ス可シ

(一) 衣服ノ主用ハ夏期ニ於テハ外熱即チ風土ノ暖氣ノ身
 軀ニ壓迫スルヲ防禦シ冬期ニ於テハ内熱即チ体温ヲ保
 護シ其散消ヲ阻碍スルニ在リ然レモ衣服ヲシテ此目的
 ヲ完遂セシムルニハ必ス時候ニ臨應シテ其品質分量及
 ヒ色彩ヲ更換セサルヲ得ス即チ夏衣ハ空氣ノ流動ヲ自

由ニシ熱勢ヲ吸納スルヨリハ之ヲ反射スル功能ナカル
 可カラサレハ其稀薄ニシテ色彩ノ淺淡ナルモノヲ要求
 シ冬衣ニハ全身殊ニ四肢ヲ保護シテ寒威ヲ防禦スル目
 的アレハ其分量ハ豊足ニシテ其品質ハ輒スク熱氣ヲ傳
 通セサルモノヲ要求ス蓋シ輕疎ナル棉布及ヒ麻布ノ最
 モ夏衣ニ適合シ濃厚ナル毛絨ノ最モ冬衣ニ妥當ナルコ
 トハ一般經驗ノ明證スル所ナリ然ルニ棉花及ヒ麻線ハ
 堅固ニ紡織スルキハ輒スク熱氣ヲ傳通スルモノト爲リ
 外熱ノ内熱ヨリ低度ナルキハ之ヲ着用シテ冷爽ナリト
 雖モ日光ニ直對スルキハ充分ニ身軀ヲ保護スル能ハサ
 ルモノナレハ必ス一種ノ蓋罩ヲ副用セサル可カラス又
 タ棉麻等ノ織緯ハ布帛ヲ以テ寬柔ニ包裝シ蒲團様ニ製

造スルキハ體温ノ散消ヲ阻碍シ寒威ヲ防禦スルニ足ル
 可シ毛類ハ總テ熱氣ヲ傳通スルニ容易ナラサレハ單ニ
 防寒ノ最良物質タルノミナラス亦々外熱ヲ遮斷スルニ
 モ適當ナルモノナリ斯ク衣服ハ體温ヲ調理スル媒介ノ
 一種ナレハ其起因スル本源ハ即チ食物ナリ故ニ衣服ノ
 不完全ニシテ其保存ノ充分ナラサルキハ隨テ食物ノ需
 要ヲ増加ス可シ食物ト衣服ト同時ニ其量ヲ減殺スルキ
 ハ必ス活力ヲ減殺スル結果アル可シ又々體温ノ變化ニ
 隨テ直ニ衣服ヲ更改スルコトハ必ス怠慢ス可カラサル
 事項ナリ蓋シ體温急ニ降下スルキハ毛孔收縮シテ發汗
 ヲ阻碍シ皮膚ノ排泄物ヲ内部ノ機關ニ轉瀉スルニ至ル
 可シ是レ感冒ノ本源ニシテ往々危篤ノ病症ヲ釀發スル

コトアリ故ニ暖室ヨリ涼處ニ遷移シ又ハ天氣ノ俄ニ催寒スルキハ必ス相應ノ副衣ヲ以テ身軀ヲ保護セサル可カラス且ツ又冬期ニ於テハ殊ニ四肢ノ防禦ニ注意シ就中下衣并ニ鞋靴ハ必ス此用ニ適合スルモノヲ精選セサル可カラス概シテ女兒ハ男兒ニ比較スレハ衣服ノ疎薄ナルヲ通常トスル者ナレハ防寒不足ノ爲メニ傷害セラル、コト更ニ夥多ナリ此弊習ハ必ス矯正セサル可カラス又タ凍天ニ運動シテ甚タ體温ヲ増發セシキハ必ス先ツ暖室ニ休息スルカ若クハ直ニ衣服ヲ添着セサルヲ得ス又タ衣服ハ必ス乾燥ナルヲ要求ス雨露或ハ發汗等ニテ之ヲ濕露スルキハ他事ヲ顧慮セステ先ツ之ヲ更換スルカ若クハ焙燥セサル可カラス

(二) 家屋ハ雨露並ニ寒暑ヲ防禦スル目的ヲ有スル者ニシテ其形狀構造及ヒ材料ノ能ク此目的ニ適合スル爲メ境遇ノ特質ニ臨應シ深ク注意シテ之ヲ選擇セサル可カラス然ルニ學校ノ建築ノ如キハ專ラ經濟ノ一點ニ拘泥シ往々節儉ノ極端ニ趨走シ單ニ生徒ノ安慰並ニ便宜ヲ商量セサルノミナラス學科教授ノ實用及ヒ尋常家屋ノ目的ニモ背反シ此ニ往來スル者ヲシテ不快ノ感覺ヲ惹起セシムルニ至ルコトアリ蓋シ學校ノ家屋ハ主トシテ生徒ノ利益ト永遠ノ經濟トヲ目的トシ堅牢ニ之ヲ構造セサル可カラス善良ナル建築ハ稍ヤ多額ノ費用ヲ必須スト雖モ之ヲ其粗惡ナル者ニ比較スレハ補修ノ頻繁ナラサルト保存時限ノ長久ナルカ爲メ真正經濟ノ法則ニ適

合スルコトハ固ヨリ論チ埃タス又タ瓦石造ハ木造ヨリ
 ハ保存時限ノ一層長久ナルノミナラス夏期ニ冷涼ニシ
 テ冬期ニ温暖ナリ木壁ハ必ス紙布若クハ泥土ヲ以テ其
 内部ヲ密蔽シ由テ寒威ヲ防禦セサル可カラス又タ家屋
 ノ脚部ハ殊ニ完全ニ之ヲ經營シ以テ寒威並ニ濕氣ノ來
 侵ヲ遮斷セサル可カラス且ツ又タ光線ノ配布ハ家屋ノ
 構造ニ於テ注意ス可キ要點ナレハ窓口ハ廣濶ナルカ若
 シハ數個連列シテ光線ノ多量ヲ室内ノ各部分ニ一様ニ
 射入セシメサル可カラス若シ其狹隘ニシテ且ツ甚タ離
 隔スルハ明暗斑駁ニシテ大ニ眼睛ヲ傷害スル憂慮ア
 ル可シ而シテ其廣濶ナルモノニハ裡面ヨリ展收自由ノ
 簾幕ヲ裝置シ以テ光線ノ射入ヲ整理スル便利ナカル可

カラス又タ光線ハ唯タ一方ヨリ射入セシムルヲ善良ト
 スルカ故ニ諸壁ニ窓口アルハ必ス亦タ簾幕ヲ裝置シ
 能ク之ヲ制限スル準備ナカル可カラス光線ノ方向不同
 ニシテ且ツ其度ニ強弱アルハ眼睛ハ之ニ順應セント
 スル努力ノ頻繁ナルカ爲メ終ニ其活動及ヒ作用ヲ損滅
 スルニ至ル可シ又タ滿面窓口ニ對向シ光線ノ眼睛ニ直
 射スルコトハ不快ニシテ且ツ有害ナレハ常ニ之ヲ防避
 ス可シ蓋シ視覺ノ虛弱ヲ招致スルハ大ニ光線配布法ノ
 不完全ナルコトニ由ル者ナレハ學校ノ建築等ニハ殊ニ
 此ニ注意セサルヲ得ス

(三) 人工製熱ノ事件ハ室内通氣法ノ條項ニ關係スル者ナ
 レハ一緒ニ之ヲ講述ス可シ夫レ戶外ニテハ空氣ノ不潔

ハ主トシテ燒燃汗水及ヒ動植物ノ腐敗ヨリ發生スルモノナレト風伯ハ大ニ之ヲ淨掃スル勢力アリテ有害ナル瓦斯ノ釀起スルキハ直ニ之ヲ散盡スルカ故ニ其運行ノ自由ナル境域ニテハ空氣ハ概シテ清潔ナリト思惟スルヲ得ヘシ室内ニテハ空氣ハ大ニ其狀況ヲ異變スルモノナリ即チ家屋ハ四壁アリ天板アリテ雨露寒暑ノ防禦ヲ專一トスルカ故ニ空氣ノ流通頗ル不自由ニシテ炭酸瓦斯及ヒ動物ノ排泄分子ヲ積聚スルコト亦タ甚タ容易ナリ而シテ此兩素ハ極メテ少量ニテモ尙ホ能ク身軀ノ健康ヲ傷造スル者ナレハ家屋通氣ノ事件ハ決シテ忽諸ニス可カラズ然ルニ之ヲ完全スルニハ室内ノ各部ヲシテ一樣ノ溫度ヲ維持セシメ同時ニ空氣ノ清潔ヲ保存スル

計畫ヲ熟考セサルヲ得ス何トナレハ溫度ノ維持ヲ度外視スルキハ空氣ノ流通ハ輒ク之ヲ施設スルヲ得ヘシト雖ト家屋ハ之カ爲メニ其一大主用ヲ廢失スルニ至レハナリ故ニ此計畫ハ製熱法ト通氣法トノ關係ノ整頓ヲ包含シ且ツ之ニ經濟上ノ商量ヲモ加入セサル可カラズ抑モ溫素ノ室内ニ配布セラル、ハ其熱躰ノ表面ヨリ直射スルト其炎燐セシ空氣ノ動搖スルトニ由ル者ニシテ單ニ此直射ニノミ由ルキハ溫素ノ供給甚タ不平均ニシテ煖爐ノ近傍ニ在ルモノハ炎威ニ困却シ之ニ遠坐スルモノハ寒冷ノ苦痛アル可シ然ルニ空氣ハ溫素ヲ得レハ必ス昇上スル者ナレハ其煖爐ニ逼迫スル部分ハ奔騰シテ冷處ニ流下ス可シ故ニ若シ鐵板ノ類ヲ以テ煖爐ヲ抱圍

スルキハ其鼻上ヲ増進シ且ツ熱躰ノ直射ヲ阻碍シ因テ
 幾許カ室内ノ温度ヲ平均スルコトヲ得ヘシ然リ而シテ
 人身ヨリ排泄スル汗物ハ其温度ノ稍ヤ高等ナルカ爲メ
 鼻上スル傾向アレモ空氣ヨリ重量ナル炭酸瓦斯ヲ包帶
 スルモノナレハ其温度ノ散消スルニ隨テ漸ク降落シテ
 一般ノ空氣ト結合シ其不潔ヲ釀成ス可シ此ニ由テ觀レ
 ハ氣孔ハ其位置室頭ニ在ルキハ暖暄清潔ナル空氣ハ之
 ヨリ逃脫ス可シ室脚ニ在リテ戶外ノ空氣ノ此ヨリ侵入
 スル能ハサル如ク之ヲ裝置スルキハ寒冷不潔ナル空氣
 ヲ脫去ス可シ然レモ空氣ハ常ニ室内ニ充滿ス可ケレハ
 其脫去スルモノアルキハ必ス侵入スルモノ無キ能ハス
 而シテ斯ク侵入スル空氣ハ大抵窓罅戸隙等ヨリ風陣ヲ

爲シテ突進シ其衝撞ニ當タル者ノ健康ヲ傷害ス可シ斯
 ク陳述セシ事項ヲ思考スレハ温素ヲ濫用セスシテ清潔
 ノ空氣ヲ供給スル方法ハ充分ニ之ヲ計畫スルコトヲ得
 ヘシ此計畫ハ即チ鐵板筒ヲ以テ煖爐ヲ抱圍シ其脚部ヲ
 室底ニ密接シ頭部ハ之ヲ開放シ煖爐ノ下邊ニ室外ヨリ
 空氣ヲ引迎シ室底ニハ數箇ノ孔竅ヲ散設シ導管ヲ以テ
 之ヲ煙筒ニ連結スルコト是ナリ而シテ此計畫ヲ實施ス
 ル費額ハ善良ナル尋常煖爐ヲ裝置スルト大異アルコト
 ナシト雖モ其利益ニ至テハ固ヨリ同日ノ論ニ非サルナ
 リ又タ通氣ノ準備ナキ家屋ニテハ必ス時々窓口ヲ開放
 シテ空氣ヲ更換セサル可カラズ然レモ其上部ヲ開放ス
 ルコトハ温煖ノ過度ナルキヲ除クノ外ハ總テ有害ナリ

蓋シ風陣直ニ頭頸ヲ襲撃シ感冒セシムルコトアレハナ
リ故ニ煖爐ニ最近ナル窓口ノ下部ヲ開放スルヲ良法ト
ス通氣器械ヲ欠缺スル學校等ニテハ每一時ニ數分間窓
口ヲ開放シ其間ニハ生徒ヲシテ體操ニ從事セシムルヲ
良法トス

(丙) 體育ノ第三ノ成分ヲ筋練トス前段ノ諸項ハ主トシテ
身軀所動上ノ狀態ヲ包含セリ筋練ハ之ニ反シ其能動上
ノ形勢ニ對接スルモノナリ夫レ心神ノ勤勞ニ多少肉躰
ノ勤勞ヲ交伴スルノ必須ハ身軀ノ壯健ト思想ノ精正ト
併立ノ關係アルコトニ由テ至極明瞭ニシテ知力ノ修練
ヲ專務シテ筋肉ノ修練ヲ忽諸ニスルハ身力減損シテ
其影響知力ニ波及シ筋肉ノ修練ヲ專務シテ知力ノ修練

ヲ忽諸コスルハ知力萎靡シテ身力モ亦タ衰頽ス可シ
故ニ兩者併立シテ互ニ相ヒ補助シ以テ其完全ノ發達ヲ
圖企スルコトヲ緊要トス蓋シ學校ハ一般ニ知力ノ修練
ヲ主トスルモノナレハ殊ニ筋肉ノ作用ニ注意シ此兩元
素ヲシテ常ニ其平ヲ保持セシムルコトニ努力セサル可
カラス而シテ此事件ヲ整理スル直接ノ媒介ハ躰操及ヒ
實業ノ習成是ナリ(然ルニ實業ノ習成ハ一種特別ノ科目
ニシテ體操ノ如ク各級普通ニ之ヲ施行スルコト能ハス
又タ必シモ各庠序學校ニ於テ同様ニ之ヲ施行ス可キモ
ノニ非サレハ其方法ハ既ニ史論中ニ講述セシ所ニ讓止
シ此ニ之ヲ細説セズ)

躰操ハ僅カ數年前ニ庠序ノ課程ニ加入セラレシモノナ

レ其功能甚々較著明瞭ニシテ其大概ヲ枚舉スレハ第一長坐ノ疲倦ヲ散滅シ第二神經ノ不穩ヲ防禦シ第三頭痛及ヒ其他ノ神經症ヲ減少シ第四坐樣ノ不變ニ伴生スル体格不具ヲ豫治シ第五自由強健ナル動作ヲ獎進シ第六運智ノ分量ヲ増加シ第七容儀ノ好美ヲ養成スルモノナリ而シテ体操ノ最モ序ノ課程ニ適合スル種類ハ謂ハユル自由躰操(又々輕體操)ナルモノニシテ其範圍ハ殆ト全身筋肉ノ運動ヲ包括シ其方法ハ順序正シク調子滑カニ四肢胴幹ヲ修練シ殊ニ手腕及ヒ胸部ノ筋肉ニ注意シ由テ肺臟ノ作用ヲ完全ナラシメシテ專一トスルモノナリ而シテ此種類ノ躰操ハ唱歌若クハ奏樂ヲ以テ充分ニ運動ノ律度ヲ維持スルコトヲ必須スト雖其欠

缺スルキニハ呼數法ヲ代用スルコトヲ得ヘシ然ルニ此躰操ハ其器械ヲ需要スルコト甚々僅少ニシテ木製ノ啞鈴、棍棒、球竿、圓環及ヒ重量四磅ヲ超過セサル豆囊ノ準備アルキハ其包括スル諸運動ヲ窮盡シ且ツ生徒ノ興味ヲ維持スルニ必須ナル變化ヲ交生スルニ足ル可シ又々此躰操ハ重沓ヲ可トシ久淹ヲ不可トスル者ニシテ初等級ノ生徒ニハ一課業ノ終局毎ニ之ニ從事セシメ高等級并ニ單級ノ生徒ニハ午前午後ニ各ノ兩回之ヲ執行シ其時間ハ各ノ五分内外トシ特別ノ事情ノ爲メニハ多少ノ變化ヲ許容ス可シト雖凡決シテ疲倦點ニ及達スルマテ之ヲ接延ス可カラズ而シテ教員ハ其監督ヲ丁寧ニシ生徒ノ疾病若クハ其兆候アルモノヲ除列スルコトニ注意セ

サル可カラス(ロゼンクランツノ体育論ヲ参考セヨ)
 身軀ハ活力使用ノ後ナ其費消セシ成分ヲ補充シ其機關
 ノ勢氣ヲ挽回スル爲ノ多少ノ閑暇ヲ需要スルコトハ觀
 察實驗ノ保證スル所ニシテ此復元時間ヲ休息ト稱シ其
 人類ノ福祉ニ必須ナルハ毫モ運動ニ讓下セサルナリ蓋
 シ活力使用ハ其肉体上ト心神上ノ差別ナク總テ休息ト
 更代ス可キコトハ一般ノ定則ニシテ勤勞ヲ久淹シ疲倦
 ノ感覺アルヲモ願慮セスシテ尙ホ之ヲ挨延スルキハ其
 機關自個ヲ組織スル元素ヨリ活力ヲ輸出セシムルカ故
 ニ必ス限外ノ疲倦ヲ發生シ通常ノ休息ニテ直ニ之ヲ慰
 癒スル能ハサルニ至ル可シ且ツ又タ活力ノ費消ヲ過度
 ニスルキハ往々全身ノ勢氣ヲ破滅シ暴カニ神經作用ヲ

失亡シ痿瘋ヲ催起スルコトアリ故ニ休息ノ理法ハ實ニ
 嚴守ス可キ事件ナリ然ルニ休息ニハ諸種ノ區別アリテ
 學者ハ一々之ヲ了解セサル可カラス(一)筋肉或ハ心能ノ
 一部ヲ使用シテ疲倦ヲ招致スト雖モ尙ホ其全部ノ勢力
 ニ剩餘アルキハ勤勞ヲ他ノ一部ニ轉移シ以テ休息ノ感
 覺ヲ得ヘシ是レ即チ勤勞更代上若クハ變局上ノ休息ニ
 シテ單趣無味ノ苦痛ヲ排除スル効驗アリ(二)一事項ニ注
 意ヲ凝聚スルキハ終ニ其疲倦ヲ招致スルカニ事項ヲ交
 換シテ幾分カ之ヲ慰癒スルコトヲ得ヘシト雖モ到底注
 意ニ供給スル全勢力ヲ費耗スルニ至ルモノナレハ此時
 ニハ注意自個ノ休息ヲ必須ス可シ是レ即チ注意上ノ休
 息ナリ体操ト讀書若クハ聽講ト交換スルコトヲ以テ休

息ノ方便ト爲スモノアレバ躰操モ亦タ注意ヲ必須スル者ナレハ更代上ノ休息ヲ付與スルノミヨシテ注意上ノ休息ヲ付與スルニ足ラス但シ正當ノ注意休息ハ自由遊戯焉レ在ルノミ(三)人類ハ各ノ勢力ノ某分量ヲ保有スルモノニシテ筋肉若クハ精神上如何ナル勤勞ニモ之ヲ費用スルヲ得ヘケレバ既ニ之ヲ一方ニ費用スルハ更ニ他方ニ之ヲ費用スルヲ得ス蓋シ活動ハ其種類ノ差別ナク總テ勢力ヲ消耗スル者ナレハ身躰ノ大活動ハ必ス心神ノ大活動ヲ妨害シ心神ノ大活動ハ必ス身躰ノ大活動ヲ壅塞ス可シ而シテ此消耗ハ其方法ノ如何ヲ問ハズ現在勢力ノ全部ニ及フハ必ス總共ノ休息ナカル可カラズ此休息ノ最モ充分ナルモノハ即チ夜眠是ナリ身軀ハ

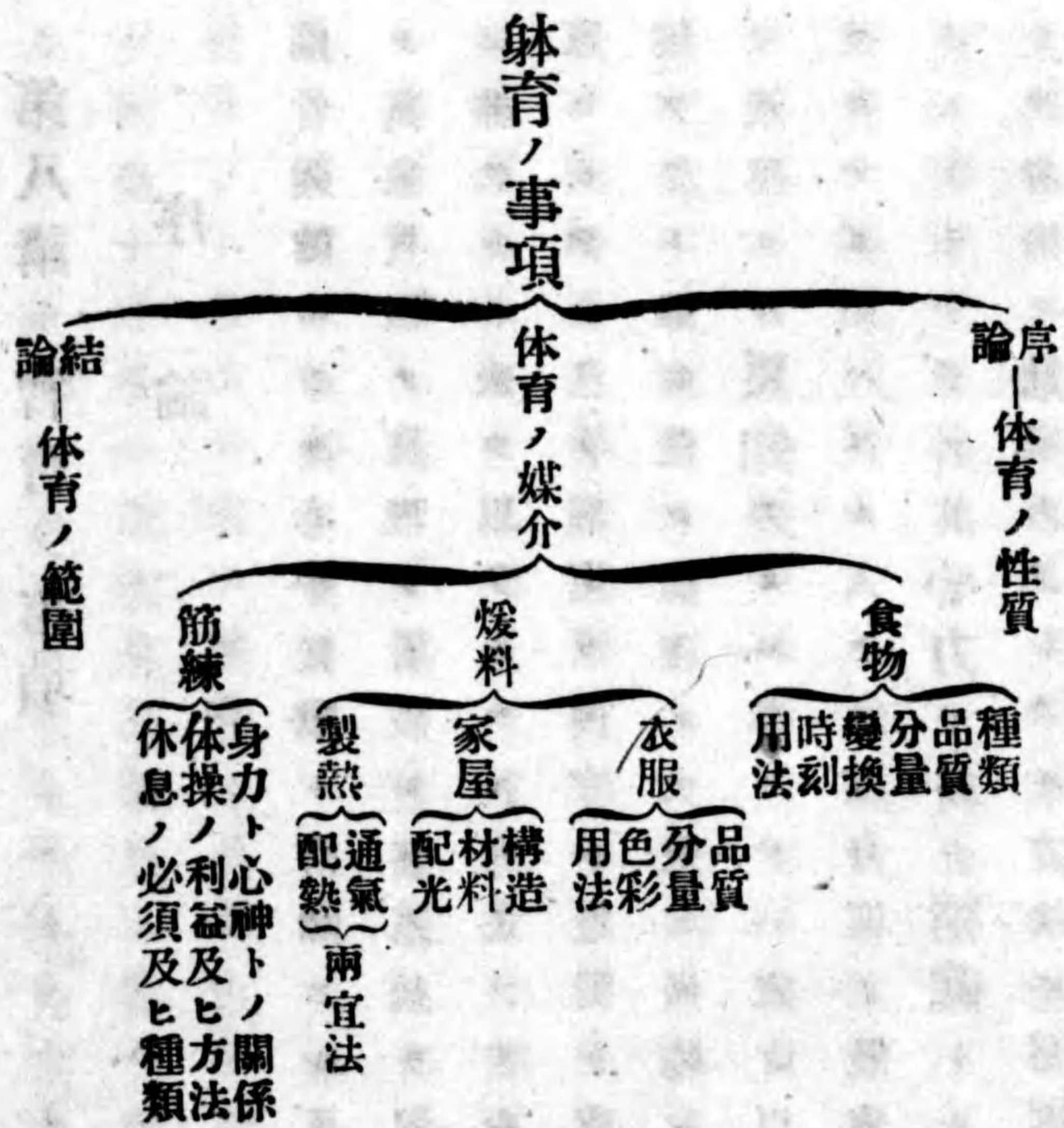
之ニ由テ其終日消耗セシ勢力ヲ回復シ以テ明日ノ使用ニ供給スルモノナリ故ニ睡眠ノ時間ヲ規制シ之ヲ欄截スルコト無カラシムルハ幸福上欠ク可カラサル要項ナリ然レバ其長短ハ各個人ノ年齢、天性、職業及ヒ勤勞ノ差別ニ隨テ變易ス可キモノナレハ普通ニ之ヲ一定スルハ固ヨリ不理ニシテ實行ス可キコトニ非ス(四)勢力ノ全部ヲ傾盡シ疲倦ハ其頂極ニ及達シ夜眠モ尙ホ之ヲ回復スル能ハサルハ一切注意ヲ必須スル事項ヲ停止スルニ非ザレハ其完癒ヲ得サル可シ未タ其完癒ヲ得スシテ勤勞ヲ重複スルハ終ニ活動ノ永窮ノ殘害若クハ其悉皆ノ廢滅ヲ招致ス可シ而シテ往古ヨリ即今ニ至ルマテ殆ト此等ノ休息ノ理法ヲ認識スルモノ無ク只管ヲ早起晚

睡大動小憩ヲ督促スル弊習ヲ發生シ一時ハ學業ノ昇進アルモ必竟躰勢ヲ微弱ニシ隨テ精神ヲ傷失シ或ハ夭折ノ災禍ニ悲痛シ或ハ有爲ノ才幹ヲ摧裂シ畢生其不幸ヲ歎慨スルモノアリ故ニ教育ノ當任者ハ勉強強迫ノ惡風ヲ排除シ子弟ノ躰勢并ニ心氣ノ度量ヲ精察シ之ニ由テ其課程ヲ縮紳シ決シテ勤勞ヲシテ睡寐若クハ其他養生ノ時間ヲ侵掠セシム可カラズ

結論

世人ハ躰育ト謂ハ、主トシテ運動操練ヨリ組立スルモノト思惟シ飲食衣服住居等ニ關係スル事項ハ之ヲ其範圍内ニ算入セサルモノ往々之レ有リト雖モ其粗忽淺見

ナルコトハ前段ノ講義ニ由リテ明白ナル可シ蓋シ筋練ハ庠序學校ニ於テ施行スル躰育成分ノ一片ニシテ其効驗ハ較著ナラサルニ非サレモ之ヲ全般躰育ノ大海ニ比較スレハ實ニ半線ノ細流ナリ故ニ子弟養成ノ本務アル者ハ徒ニ學校ノ筋練ヲ以テ躰育ノ際涯ヲ窮盡スルモノナリト誤解ス可カラサルハ勿論總テ學校ニ於テ施行スル躰育ノ諸元素ハ只ク其範圍内ノ小部ヲ補充スル些少ノ材料タルコトヲ確認シ他ノ大部ハ家庭ニ於テ完全ニ之ヲ實學スルコトニ努力セサル可カラス凡ソ教育ノ諸成分ハ一トシテ家庭ニ開基シ若クハ之ニ關係セサルモノナシト雖モ躰育ハ殊ニ之ニ依從スル者ナレハ之ニ就キテハ教員ト父兄トハ一種特別ノ共同連合ヲ謀企セサ



ルヲ得ス換言スレハ庠序ニ師導タル者ハ其區内家族ノ衛生上ノ助言人タラサル可カラズ(但シ之ノ外其助言人タラサル可カラサル條件ハ枚舉ニ暇アラスト雖田唯タ之ヲ其最先ト爲スノミ)而シテ是レ即チ學校職ト衛生職ト大ニ其境域ヲ密接スル所以ナリ(因ニ云フ体育ニ密接シテ性育ト稱スル教育成分アリ即チ男女ノ交際ニ關係スル訓練ナリ然ルニ尋常ノ教育學者ハ之ヲ以テ純然ニ家庭ニ係屬スルモノト爲シ焉ニ說及スルコト僅少ナリト雖田是レ亦タ至極緊要ナル成分ナレハ師導タルモノハ必ス之ニ注意セサル可カラサルナリ)

右講義ノ圖表

第八講 智育ノ事項

序論

筋骨強健ニシテ赤手猛獸ト格闘スル勇氣アリト雖モ能
 シ萬象貫徹ノ真理ヲ看破シ其系統ヲ洞察スル明識アル
 ニ非サレハ未タ以テ人タルコト足ラサルナリ又タ德義深
 厚ニシテ一己ノ謹慎ヲ固守シ近隣ノ喜憂ニ交感スル胸
 臆アリト雖モ能ク倫理ノ大道ニ通曉シ彼我共立ノ原則
 ヲ承認スル良知アルコト非サレハ未タ以テ人タルコト足ラ
 サルナリ謂ハユル人トハ其身軀ノ壯寧ニ其行爲ノ誠實
 ナルノミナラス其心力モ亦タ精確ナル者ヲ云フナリ而
 シテ身軀ヲ壯寧ナラシムル方法ノ要畧ハ前講ニ於テ之

ヲ指示シタレハ是ヨリ明識良知ヲ涵養スル津梁即チ智
 育ノ事項ヲ陳述セントス蓋シ智育ナルモノハ一方ニハ
 教育ノ特殊成分ニシテ體徳兩育ト鼎立スル者ナレモ又
 タ一方ニハ其全般ニ通涉シ他ノ兩育ノ範圍内ニ於テモ
 殆ト過半ノ境界ヲ占有スルカ故ニ尋常ノ教育論ニテハ
 廣ク此特殊成分ヲ見解シ即チ他ノ成分ノ之ニ關係スル
 諸點ヲ盡ク之ト混同シテ設案シ純然其事項ノミヲ指示
 スルコト頗ル稀ナリ是レ實際已チ得サルコト出ツルコト
 ナレハ深ク難評ス可カラスト雖モ眞ニ教育ノ學術ヲ攻
 究セント欲スル者ハ論理上此差別ヲ綿密ニスルコト甚
 タ緊要ナリ故ニ講義者ハ其第一第二講等ト多少重複ス
 ル恐アルニモ拘ラス今回本講ヲ増編シ以テ聊カ原著ノ

欠點ヲ補充セリ(ローゼンクランツノ智育論ヲ參考セヨ)

知力ノ齡級

夫レ知力ノ活動ハ第二講ニ於テ畧述セシ如ク之ヲ大別スレハ受識留識并ニ用識ノ三作用トナル者ナリ而シテ各個人ハ此知力上ノ區劃ニ應當スル多少明確ナル醇化ノ秩序若クハ時節ノ變遷アル者ニシテ其初生ヨリ凡ソ五六歳ノ終末ニ至ルマテハ官覺ノ勢力尤モ鋭敏發達ニシテ心神ハ大ニ外界ノ現象ヲ收入シ以テ内界ノ組織ニ豫備シ主トシテ事物ノ簡單ナル資質及ヒ關係ヲ承認シ且ツ之ヲ把住スルコトニ電勉シ是ヨリ凡ソ十二三歳マテハ愈ヨ其把住ノ能量ヲ増進シ殆ト之カ極點ニ到着シ

隨テ一層錯雜ナル事物并ニ其關係ヲ獲取シ且ツ自ラ之ヲ創作シ漸ク思考作用ノ範圍ニ昇達シ而シテ是ヨリ十七八歳ニ至ルマテハ思考作用ノ最モ醇化スル際會ニシテ反省ノ活動ハ運智ノ大部分ヲ占有シ且ツ亦タ其全体ヲモ統轄スル者ナリ然レモ知力開展ノ過程ハ甚々微妙ニシテ是等ノ秩序ノ間ニハ必シモ判然タル懸隔アルコト非ス其中ニハ單ニ受識カ留識ノ先驅ヲリ留識カ用識ノ御者タルノミナラス用識ハ留識ヲ反顧シ留識ハ受識ヲ後援トスルコトアル者ナリ故ニ下段ニハ知力ノ齡級ヲ幼稚期童子期及ヒ少年期ノ三階ト爲シ受識作用ハ第一階ニ留識作用并ニ初等用識作用ハ第二階ニ高等用識作用ハ第三階ニ於テ其醇化ノ本領ヲ占有スルカ如ク按定

スト雖是レ主トシテ其論理上ノ差別ニ追隨スル者ニシテ**資質上**ニハ決シテ確切ナル區劃ヲ施設スルニ非サルナリ

是ヨリ各期ニ配當スル知力ノ諸部分ヲ列舉シ其梗概ヲ陳述セントスルニ先ヲ講義上ノ便宜ノ爲メ運智ノ全般ニ通涉スル**注意作用**ノ法則ヲ零說ス可シ蓋シ注意トハ心神カ自制シテ某特殊ノ事物ニ其精氣ヲ凝聚シ他餘ノ事物ハ總テ之ヲ放棄スルコトニシテ其**度位**ノ高低ハ心神及ヒ**身体ノ勢力**ノ大小并ニ**激因**ノ強弱ニ追隨スル者ナリ而シテ**勢力**ノ大小ハ各個人ノ自然ノ狀態ニ由テ變更シ之ヲ整理スル普通ノ規律ナシ又々**激因**ニハ**内部外部**ノ差別アリテ外部ノ**激因**ハ形容、色彩、香味等凡テ官

覺界ヲ組織スル材料ヲ包含シ殊ニ幼稚ノ時節ニ於テ最モ影響アル者ナリ而シテ内部ノ**激因**ハ**心神ノ直發**ニ係属スル者ナレハ官覺界ノ材料ノ如ク明瞭ニ之ヲ指定スルコトヲ得ス且ツ此種ノ**激因**ハ必竟少年以上ノ時節ニ及達スルニ非サレハ充分ニ其効驗ヲ表出セサル者ナリ而シテ外部ノ**激因**ハ固ヨリ心神自個ノ範圍中ニ存在セサレハ其攪起スル**注意**ヲ**被動注意**ト稱シ其内部ノ**激因**ニ由來スル者ヲ**原動注意**ト稱ス但シ此兩種ノ**注意**ハ齡級ノ次第ニ由テ相互ニ其分量ヲ加減スレハ終始離隔スル者ニ非ス唯タ或ハ其方向ヲ差違スルキハ各ノ其功能ヲ損殺スルカ故ニ師導タル者ハ深ク此ニ懸慮セサル可カラス